広島文化学園短期大学 自己点検・評価報告書

令和４年度

Hiroshima Bunka Gakuen
Two-Year
College

令和５年６月

目　次

１．　はじめに 1
２．　建学の精神と教育の展開 2
３．　広島文化学園短期大学の沿革 4
４．　短期大学の教育方針と教育計画 8
　４－１　コミュニティ生活学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 11
　４－２　食物栄養学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 13
　４－３　保育学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー 15
５．　学科の自己点検・評価 17
　５－１　コミュニティ生活学科 17
　５－２　食物栄養学科 22
　５－３　保育学科 27
６．　組織ガバナンスの強化 32
　６－１　組　織 32
　６－２　人事・給与 36
７．　財務基盤の強化 38
８．　広報・学生募集活動の強化 41
　８－１　広　報 41
　８－２　学生募集 43
　８－３　入学者選抜 46
９．　教学の質の向上 48
　９－１　教学マネジメントの確立 48
　９－２　教育課程の改善 48
　９－３　教育方法の改革 49
　９－４　学修成果の把握と活用 50
　９－５　学修支援の強化 51
１０．　学生生活支援の強化 53
　１０－１　学生生活支援体制の強化 53
　１０－２　HBG 夢カルテの改善・活用 54
　１０－３　経済的支援体制の強化 55
　１０－４　自治会活動の支援の強化 56
１１．　就職・キャリア支援の強化 57
　１１－１　就職・キャリア支援体制強化 57
　１１－２　就職支援力の向上 57
　１１－３　キャリア形成力の強化 58
　１１－４　企業等との連携強化 58
　１１－５　資格等取得の支援 59
１２－１　地域連携 61

１２−２　社会貢献 63
１３．　図書館 66
１３−１　学生の学習支援 66
１３−２　教育職員の研究等の支援 67
１３−３　学術情報環境整備 67
１３−４　地域連携 68
１４．システム 69
１５．　ＩＲ 72
１６．　リスク管理 74
１７．　自己点検・評価 76
１７−１自己点検・評価の徹底 76
１７−２　自己点検・評価による PDCA サイクルの確立 76
１７−３　機関別認証評価の受審 77
１７−４　内部質保証のための仕組みづくり 77
１７−５　教職員個人、各部署及び大学全体による PDCA サイクルの確立 77
【参考資料】 79
令和４年度卒業生 79
卒業研究 79
満足度調査結果 83
進路・就職状況 119
令和４年度 SD・FD 研修会実績 142

１．　はじめに

学長　坂越 正樹

本学は、平成 21 年 4 月に大学の名称を広島文化短期大学から広島文化学園短期大学に変更して、呉大学から名称変更した広島文化学園大学とともに学園の統合化を推進し、10 年余りを経て、漸く学園アイデンティティ（運営組織・構成員意識）が確立されてきました。その間、学園の教育理念「対話の教育」、教育方針「学習者中心の教育」により「学生の夢の実現」を目指す様々な取組みを行っております。

平成 24 年度には、一般財団法人短期大学基準協会による第２期の認証評価を受審し、厳正な審査を経て平成 25 年 3 月 14 日付で適格認定を受領することができました。平成 27 年度には大手前短期大学との間で相互評価協定を締結し、書面調査、相互の訪問調査、評価表の交換を行い、双方の強みや早期に改善すべき課題の明確化等、相互評価ならではの成果を得ることができました。そして令和元年度には、短期大学基準協会による第 3 期の認証評価を受審し、厳正な審査を経て令和 2 年 3 月 17 日付で適格認定を受領することができました。

また、教育改革に関しては、文部科学省による私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1）において、建学の精神「究理実践」を生かした教育の質向上の取組みが連続して採択され、さらに研究面では、広島文化学園大学による研究計画「地域共生のための対人援助システムの構築と効果検証」が、文部科学省の平成 28 年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定され、その後も学園全体における多様な対人援助研究が、継続的に推進されております。

こうした本学園の教育・研究活動における最近の実績は、長年にわたって学園教職員が一体となって自己点検・評価に真摯に取り組み、高等教育機関としての本質を追求し続けてきた成果であると確信しております。この「自己点検・評価報告書」は、本学の教育・研究・社会貢献等の取組み状況を広く社会に公表するとともに、改善すべき課題を明確にして PDCA サイクルを確立するために、全教職員が参画して作成している報告書です。

令和 2（2020）年度からは、学園の中期経営計画Ⅳ（令和 2 年度～令和 6 年度）に基づき自己点検・評価の実施体制を再構築し、報告書の目次も中期経営計画Ⅳの章立てに合わせて構成しております。令和 4 年度は 5 年間の中期経営計画の中間年にあたり、前半期の活動と実績を振り返り、後半期の計画達成に向けて活動を再整備する重要な年度にあたります。関係各位の忌憚のないご意見を賜り、さらなる教育の質の向上に努めて参る所存であります。

２．　建学の精神と教育の展開

副学長　松元　健治

（１）建学の精神「究理実践」と本学の教育方針

本学の建学の精神は、「究理実践（Theoria cum praxi)」である。この言葉は、理論を追求しそれを実践で確かめ、また実践を通して理論を検証し深めていくという、学び続ける者としてのあるべき姿を表現している。

また、この建学の精神「究理実践」とともに本学が開学以来教育の方針として尊重していることは、「対話の教育」ということである。これは、教師と学生がともに自分自身の未熟を自覚し、実践を通して理論を深めていこうとする過程でお互いの対話を通して成長していこうとする、真の教育のあり方を示している。

また、本学の指導方針は、「ルールを守り、自ら立つ」である。これは、自立を目前にした学生達の自立のための最終段階として、自律と他律の調和が不可欠であるという発達観に基づいて設定されている。そしてこうした発達観から本学では、学生達の経済的自立・精神的自立へ向けての成長をサポートするために学生生活における最低限のルールを定め、学生達がそのルールを守り、正しい価値を自分のものとして定着させることによって、自立を達成することを願っているのである。

（２）教育の展開　～建学の精神を踏まえて～

本学は、建学の精神である「究理実践」に基づいて、常に時代のニーズに応える教育の推進に努めてきた。その代表的な取り組みは次のようなものである。

① 学生の意欲と個性を最も大切にするアドミッション・オフィス（AO）入学制度

本学では、平成 10 年度に全国の短期大学に先駆けてアドミッション・オフィス（AO）入学試験を導入した。AO 入学試験(現在は「総合型選抜(AO)」)は、目的意識と意欲を持ち、本学を通して自己実現を望む学生の入学を促進するための制度である。対話により学生の個性や興味を確認できるとともに、学生は本学の教育内容を事前に理解した上で入学できるため、学生の目的実現のために効果的な教育を展開することができる。

② セミナー＆チューター制、「HBG 夢カルテ」

授業計画から生活指導そして就職指導までの大学生活のすべてにわたって、セミナー&チューターが学生を個別にサポートする。その際に活用するのが ICT 活用型支援システム「HBG 夢カルテ」である。学生は、入学時の夢の実現をめざしてセメスターごとに具体的な目標を設定し、その結果を自己評価してさらなる目標設定にフィードバックする過程を通して、最終的な目標の達成をめざしていく。チューターは、学生の活動記録・業績の集積に基づき定期的にアドバイスをして、学生の進路実現を全面的にサポートする。

③ コミュニティ・カレッジ機能の積極的展開

職業や家事等に従事しながら自分のライフスタイルに合わせて履修できる長期履修学生制度を、平成 14 年に全国で初めて導入した。また、地域社会の多様なニーズに対応したコミュニティ・カレッジ的機能を発揮する 21 世紀型の短期大学をめざして、広島市安佐南区との協定に基づく事業や、地元公民館との連携講座の実施、呉地域オープンカレッジネットワーク会議への参加など、地域社会に貢献するための様々な取り組みにチャレンジしている。

④ 認証評価機関による適格認定と改革・改善への取り組み

平成 16 年に改正学校教育法による大学の第三者評価制度がスタートしたが、本学は(財)短期大学基準協会の第 1 回目(平成 17 年度)の審査に挑戦し、厳正な評価の結果、適格と認定された。また平成 24 年度には、学修成果の達成に焦点化した新評価基準により第 2 期の第三者評価を受審し、適格認定を受領した。また平成 28 年度には、大手前短期大学との間で相互評価を実施し、教育の質の向上に向けて課題の明確化を図りさらなる改革・改善に取り組んだ。そして令和元年度には、第 3 期の認証評価を受審し、令和 2 年 3 月 17 日付で適格認定を受領している。

⑤ 学園統合化の推進

平成 21 年 4 月に大学・短期大学の名称を変更し、広島文化学園の名の下に学園のさらなる統合化を推進している。平成 22 年 4 月には、広島長束キャンパスに広島文化学園大学学芸学部(子ども学科・音楽学科)が設置され、委員会の合同開催、学生指導の統一化等により大学と短期大学の連携・協力を促進し、教育・研究の充実を図っている。

⑥ 学修履歴証明書の作成

令和元年度からは、学生が在学中の学修によりどのような力を身に付け、どのような人物に成長したのかを示すために、学修成果可視化のツールとして「学修履歴証明書」を作成し、卒業時に学生に配付している。証明書は、大学の学業データ・ディプロマポリシーの達成度、外部テスト結果等で構成され、学生の学修履歴を証明するとともに、大学として教育活動の PDCA サイクルを促し、教育改善に活用することを目的としている。

⑦ 短期大学将来構想の検討

専門職大学・専門職短期大学の創設など高等教育を取り巻く社会環境が変革しつつある中で、平成 29 年 10 月に理事長の諮問機関として「短期大学将来構想ワーキンググループ(WG)」が設置され、今後の短期大学の在り方・将来構想等について審議・検討された。WG では、審議の結果を、本学における今後の志願者予測、専門職大学・専門職短期大学制度への対応方針、学び直し・リカレント教育のための体制整備等について報告書としてまとめた。さらに令和 3 年度には、短期大学将来構想検討プロジェクトが設置され、全国の短期大学の情勢を勘案しつつ本学の持続的な運営に必要な具体的施策の立案等について協議を行っている。

３．　広島文化学園短期大学の沿革

昭和39年 1月25日	学校法人筒井学園寄附行為変更認可（大学設置に係るもの） 広島文化女子短期大学設置認可（入学定員100 名）
昭和39年 4月20日	第１回入学式（被服科第１ 期生入学）
昭和40年 2月 2日	教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、家庭） 広島文化女子短期大学被服科
昭和41年12月 2日	被服科入学定員100名を150名に変更
昭和42年 1月23日	食物栄養科設置認可（入学定員100名）
昭和42年 3月15日	広島文化女子短期大学を栄養士養成施設に指定
昭和42年 4月10日	食物栄養科第１期生入学
昭和43年 2月19日	教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、家庭） 広島文化女子短期大学食物栄養科
昭和44年 4月 1日	被服科を被服学科に、食物栄養科を食物栄養学科に名称変更
昭和45年 3月 4日	全職員協議会・教授会で「究理実践」（対話による教育）を本学園の教育目標とすることに決定
昭和46年 9月 9日	学校法人広島文化学園寄附行為変更認可（名称変更認可）
昭和47年 4月10日	広島文化女子短期大学が衣料管理士を養成する大学に認定（被服学科）
昭和48年 1月26日	被服学科入学定員150名を100名に変更
昭和51年 1月10日	音楽学科設置認可（入学定員器楽専攻30名、声楽専攻40名）
昭和51年 4月10日	音楽学科第１期生入学
昭和52年 1月13日	教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、音楽） 広島文化女子短期大学音楽学科
昭和52年 3月30日	聴講生に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二級普通免許状、家庭、音楽）
昭和52年12月26日	専攻科音楽専攻の設置届出受理（入学定員10名）
昭和54年 4月 1日	広島・子供の音楽園開設
昭和56年12月 1日	広島文化女子短期大学が秘書士を養成する大学に認定（被服学科・食物栄養学科食物コース）
昭和57年 1月16日	幼児教育学科設置認可（入学定員50名）
昭和57年 2月 2日	教員免許状授与の所要資格取得課程認可（幼稚園教諭二級普通免許状） 広島文化女子短期大学幼児教育学科
昭和57年 4月10日	幼児教育学科第１期生入学
昭和60年12月17日	専攻科音楽演奏専攻の設置及び定員変更届の受理（入学定員音楽専攻5名、音楽演奏専攻5名）
昭和60年12月25日	期間を付した入学定員増認可（被服学科150名、食物栄養学科150名）
昭和62年12月 9日	被服学科を生活文化学科に名称変更
平成 2年12月21日	食物栄養学科を生活科学科に名称変更し、生活科学専攻（100名）・栄養専攻（50名）の２専攻課程を設置

期間を付した入学定員増認可（生活文化学科175名）

平成 3年12月20日　音楽学科入学定員器楽専攻30名を45名、声楽専攻40名を25名に変更、専攻科音楽専攻の入学定員5名を10名に変更

平成 4年 3月 9日　音楽学科総合音楽コースに秘書士資格認可

平成 4年 3月31日　専攻科音楽専攻、音楽演奏専攻は学位規則第６条第１項に規定する専攻科として「学位授与機構」により認定

平成 4年12月21日　専攻科幼児教育専攻の設置受理（定員5名）

平成 6年12月21日　音楽学科専攻科音楽演奏専攻の入学定員5名を10名に変更届文部省受理

平成 6年12月21日　専攻科栄養専攻（入学定員5名）の設置届文部省受理

平成 6年12月21日　生活文化学科の入学定員（学則第２条定員）100 名を50名に、生活科学科生活科学専攻の入学定員（学則第２条定員）50名を25名に変更届文部省受理

平成 6年12月26日　専攻科栄養専攻は栄養士法第２条第１項の規定による栄養士養成施設として厚生大臣指定

平成 7年 2月 1日　専攻科栄養専攻は学位規則第６条第１項に規定する専攻科として「学位授与機構」により認定

平成 8年 4月 1日　生活文化学科の生活デザインコース、服飾デザインコース、染色工芸、織物工芸の４ コースをファッションコース、インテリアコースの２コースに改編

平成 9年 2月25日　幼児教育学科を児童福祉法に基づく保母を養成する学校として厚生大臣認可
平成9年4月以降の入学生の養成について適用

平成10年 8月14日　広島文化女子短期大学名称変更に係る寄付行為変更文部大臣認可

平成10年12月22日　専攻科栄養専攻（２年課程）設置届書文部省受理（平成11年4月1日開設）

平成11年 2月10日　専攻科栄養専攻（２年課程）は学位規則第６条第１項に規定する専攻科として「学位授与機構」により認定

平成11年 4月 1日　広島文化女子短期大学を「広島文化短期大学」に名称変更（男女共学実施）

平成11年10月22日　入学定員の変更認可
生活文化学科　125名→87名（恒定50＋臨定恒定化37）
生活科学科　生活科学専攻　75名→50名（恒定25＋臨定恒定化25）

平成12年 1月11日　音楽学科を音楽療法士２種養成所として全国音楽療法士養成協議会認定

平成12年 4月 1日　ビジネス実務士養成を開始（生活文化学科、生活科学科、音楽学科）

平成13年12月20日　専攻科生活文化専攻の設置届出受理

平成14年 4月 1日　「長期履修学生」受け入れ制度実施
平成14年１月11日　文部科学省届出

平成14年 4月 1日　専攻科音楽専攻・音楽演奏専攻が音楽療法士（２種）養成所として認定

平成14年 7月30日　コミュニティ生活学科　地域総合科学科（総称）としての適格認定

平成15年 3月 5日　教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二種免許状（庭））コミュニティ生活学科

平成15年 3月26日　保育学科保育専攻が保育士養成施設として指定

平成15年 4月 1日　生活文化学科、生活科学科生活科学専攻の募集を停止し、コミュニティ生活学科を新設（定員87名）し、ファッションコース・食生活コース・キャリアコースを設ける

平成14年5月29日　文部科学大臣認可

平成15年 4月 1日　生活科学科栄養専攻を食物栄養学科に名称変更（定員50名）
平成14年8月16日　文部科学省受理

平成15年 4月 1日　幼児教育学科（定員50名）を保育学科（定員100名）に名称変更、定員増を行い、幼児教育専攻（定員50名）・保育専攻（定員50名）の２専攻課程を設置
専攻分離・定員増　平成14年5月29日　文部科学大臣認可
名称変更　平成14年8月16日　文部科学省受理

平成16年 2月 19日　保育学科保育専攻に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（幼稚園教諭二種免許状）
音楽学科に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（中学校教諭二種免許状（音楽））

平成16年 4月 1日　コミュニティ生活学科　ファッションコース・食生活コース・キャリアコースの３コース制廃止、ファッション・フード・ライフデザインの３領域でフィールド＆ユニット制をスタート

平成16年 4月 1日　音楽学科　器楽専攻・声楽専攻の廃止、同時にピアノコース・管弦打楽器コース・声楽コース・総合音楽コースの４ コース制廃止、フィールド＆ユニット制をスタート
地域総合科学科（総称）としての適格認定
平成15年9月19日　文部科学省受理

平成16年 9月30日　生活文化学科、生活科学科生活科学専攻、生活科学科栄養専攻の廃止届出受理

平成16年10月 6日　専攻科幼児教育専攻を専攻科保育専攻に名称変更届出受理

平成17年 3月31日　食物栄養学科に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（栄養教諭二種免許状）

平成18年 3月13日　保育学科に教員免許状授与の所要資格取得課程認可（幼稚園教諭二種免許状）

平成18年 3月23日　㈶短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定

平成18年 4月 1日　保育学科幼児教育専攻・保育専攻の廃止、入学定員の変更
コミュニティ生活学科87名→120名、音楽学科70名→80名、保育学科100名→130名

平成19年 4月 1日　広島文化短期大学呉阿賀サテライトキャンパス開設

平成21年 4月 1日　広島文化短期大学を「広島文化学園短期大学」に名称変更
旧学章に変えて新学章を制定

平成22年 4月 1日　音楽学科募集停止、専攻科音楽専攻・専攻科音楽演奏専攻募集停止
平成21年7月　文部科学省届出
入学定員の変更
コミュニティ生活学科120名→100名、保育学科130名→70名
平成21年7月　文部科学省届出

平成23年 4月 1日　音楽学科及び専攻科音楽演奏専攻廃止
平成23年4月　文部科学省届出

平成24年 4月 1日　入学定員の変更
コミュニティ生活学科100名→80名、保育学科70名→90名

	平成23年6月　文部科学省届出
平成25年 3月14日	一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格と認定
平成26年 7月16日	学園創立50周年記念式典挙行
平成27年 3月 1日	学園創立50周年記念誌発行
平成27年 8月30日	徳山大学との連携協力に関する協定書締結
平成27年 9月11日	大手前短期大学との相互評価に関する協定書締結
平成27年11月15日	あかね同窓会50回記念祝賀会挙行
平成28年 5月12日	大手前大学・短期大学との連携協力に関する協定書締結
平成28年12月 1日	株式会社フレスタとの産学連携に関する協定書締結
平成29年 4月 1日	入学定員の変更
	保育学科90名→100名
	平成28年 6月　文部科学省申請
令和 2年 3月17日	一般財団法人短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定
令和 3年10月 7日	専攻科保育専攻、栄養専攻、生活文化専攻の学生募集停止に係る届出
令和 4年 4月 1日	専攻科保育専攻、栄養専攻、生活文化専攻の廃止

４．　短期大学の教育方針と教育計画

平成 20 年 12 月「学士課程の構築に向けて(学士課程答申)」により、教学経営において各大学が、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、そして「入学者受入れの方針」の三つの方針を明確に示すことが求められた。本学では、この学士課程答申を踏まえて、三つのポリシー策定の作業に取り掛かり、平成 22 年度に最初の三つのポリシーを策定した。その後平成 25 年度には、大学全体のポリシーを作成するなどの修正を行った。

その後、平成 28 年 3 月に学校教育法施行規則が改正され、三つのポリシーが法定化されるとともに、中央教育審議会より「三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」が提示された。本学では、教育課程委員会を中心にして国のガイドラインに対応した新たなポリシー策定のための協議を行い、運営会議、教授会、執行部会議、学園経営企画会議等の手続を経て、平成 29 年度版を完成させた。

広島文化学園短期大学の三つのポリシー(令和４年度版)

【１．ディプロマ・ポリシー(卒業の認定に関する方針)】

本学では、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する要件として、所定の単位を修得し、広島文化学園の建学の精神である「究理実践」に基づき、専門の知識・技術、職業又は実際生活に必要な能力、幅広く深い教養及び総合的な判断力、豊かな人間性を身に付けることを求めている。

具体的には次の 4 つの力を身に付けることを求める。

ア　知識・理解

専攻する特定の学問分野及び職業生活や社会生活に必要な基本的な知識を体系的に理解する。

イ　汎用的技能

専攻する特定の学問分野に関する知的活動や職業生活、及び社会生活に必要な汎用的技能を身に付ける。

ウ　態度・志向性

社会人としての必要な態度と志向性を身に付ける。

エ　総合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題を解決する能力を身に付ける。

【２．カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)】

卒業認定・学位授与の要件を身に付け自立した社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施する。

なお、学修方法、学修内容、学修成果の評価は、次のように定める。

ア　学修方法

授業は、講義、演習、実験、実習、又は実技のいずれか、又はこれらの併用により行う。また各

授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学内外での行事や地域連携活動等、実践を通した学びを重視する。

イ　学修内容

教養教育に関する授業科目、専門教育に関する授業科目、キャリア教育に関する授業科目をバランスよく配置するとともに、大学への適応及び学修スキルの修得等のための初年次教育の充実を図る。

ウ　学修成果の評価

ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」をカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。

【３．アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)】

建学の精神「究理実践」に基づく教育目的を理解し、入学後の修学に必要な学力として、基礎的知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持ち、本学の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を、多様な入学者選抜方法により受け入れる。

ア　入学を希望する人に求める内容

(ｱ) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

(ｲ) 身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を有している。

(ｳ) 基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。

(ｴ) 入学を希望する学科での学びや経験を社会で生かしたいという意欲や目的意識がある。

(ｵ) 入学を希望する学科の教育内容を十分に理解している。

イ　入学者選抜の基本方針

各学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の３要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施する。

選抜区分	学力の３要素		
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
総合型選抜	◎ （調査書）	◎ （自己アピール／面談）	◎ （面談・調査書）
学校推薦型選抜	◎ （調査書）	○ （小論文／志望理由書／面接）	◎ （面接・調査書）
一般選抜	◎ （調査書）	◎ （学科試験／小論文）	○ （調査書）
大学入学共通テスト	◎ （調査書）	◎ （共通テスト）	○ （調査書）
社会人特別選抜	○ （調査書）	○ （小論文）	◎ （面接・調査書）

注１：「学力の３要素」のうち、Ⅰは「知識・技能」、Ⅱは「思考力・判断力・表現力」、Ⅲは「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を表す。

注２：◎は特に重視する、○は重視する、を表す。
注３：(　　)内は、評価方法を表す。

【４．アセスメント・ポリシー（学修成果の評価に関する方針)】

広島文化学園短期大学では、ディプロマ・ポリシー（DP)、カリキュラム・ポリシー（CP)、 アドミッション・ポリシー（AP）の３つのポリシーに基づく教育の実施と、それらの自己点検・ 評価を通した改善・改革の取組を、教育の質保証の中核として位置づけている。

本アセスメント・ポリシーは、3 つのポリシーに基づき、短期大学レベル・学科レベル・科目レベルの 3 段階で、学生の学修成果を評価するための方針・内容・方法等を定めるものである。学修成果の達成状況を、量的・質的データを用いて測定・評価した結果を全学的に集約し、各レベルと各部署にフィードバックして、教育の改善、質向上を組織的かつ継続的に推進する。

ア　短期大学全体のアセスメント・ポリシー

短期大学としてのディプロマ・ポリシーに示す 4 つの区分（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）ごとに、「学修到達目標」と「具体的な下位項目」をカリキュラムマップで示し、下記の学科及び科目ごとの方針により達成状況を評価する。 評価に際しては、単位修得状況、卒業要件達成状況、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価、進路決定率、資格取得率、学生調査、企業アンケート等から、学修成果の達成状況を総合的に評価するとともに、評価の結果を教育実施の現状把握と課題の明確化、全学的な教育改革・改善に活用する。

イ　学科のアセスメント・ポリシー

各学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。

(ｱ) ディプロマ・ポリシーに示す 4 つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を各学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、
達成度を 4 つのレベルでルーブリック評価する。レベル 3 以上を達成すべき水準とする。

(ｲ) 学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。

(ｳ) 学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を 4 つのレベルでルーブリック評価する。レベル 3 以上を達成すべき水準とする。

ウ　科目ごとのアセスメント・ポリシー

科目ごとの成績評価は、カリキュラムマップにおける当該科目の位置付けや到達目標、科目の特性等を踏まえて、科目担当教員がシラバスに明示した適切な評価方法に沿って行い、学生の学修 成果の達成状況を総合的に評価する。また学生による授業評価結果を分析して、シラバスで提示している到達目標の達成状況を評価する。成績評価及び学生による授業評価結果の分析を次年度のシラバスに反映させて、継続的な授業の改善に努める。

４－１　コミュニティ生活学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

<table>
<tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>コミュニティ生活学科</td><td>衣、食、住、人間関係等の生活に関わる幅広い専門的知識と技能を養い、個性豊かな生活づくりと地域社会の文化形成に貢献できる人材を育成することを目的とする。
コミュニティ生活学科では、所定の単位を修得し、以下にあげることを身につけた学生に卒業を認定し、短期大学士(生活総合学)の学位を授与する。
１．知識・理解
（１）生活に関する知識を身につけている。
（２）衣生活、食生活、人間関係に関する基本的知識を身につけている。
（３）ファッション分野・フード分野の専門的知識を身につけている。
（４）社会的及び職業的自立を図るために必要な知識を身につけている。
２．汎用的技能
（１）生活に関する技能を身につけている。
（２）衣生活、食生活、人間関係に関する基本的技能を身につけている。
（３）ファッション分野・フード分野の専門的技能を身につけている。
（４）社会的及び職業的自立を図るために必要な汎用的技能を身につけている。
３．態度・志向性
（１）個性豊かな生活づくりをする姿勢を身につけている。
（２）地域社会の文化形成に貢献する姿勢を身につけている。
４．総合的な学習経験と創造的思考力
（１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。
（２）自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる。</td></tr>
<tr><td>カリキュラム・ポリシー</td><td>コミュニティ生活学科</td><td>コミュニティ生活学科では、卒業認定・学位授与の要件を身に付け自立した社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養科目・専門科目・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施する。
１．学修方法
（１）実施する授業の形態は、講義、演習、実習をバランスよく配置し、知識と技能の修得をはかる。
（２）学生の主体的な学びを促すアクティブ・ラーニングを実施する。
（３）学内外での授業・研究等の成果発表やボランティア活動など、実践的な教育を重視した教育を実施する。
２．学修内容
（１）幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するために教養科目を配置する。
（２）専門科目は、生活に関する基本的知識・技能を総合的に養う「ライフデザインフィールド」、ファッションに関する専門的知識・技能を養う「ファッションフィールド」、フードに関する専門的知識・技能を養う「フードフィールド」、社会的及び職業的自立を図るために必要な知識と技能を養う「キャリアサポートフィールド」を設け、それぞれの目標達成のために必要な科目を配置する。
（３）初年次教育として「セミナーⅠ・Ⅱ」を配置し、学生生活への適応および学修スキルの向上をはかる。
３．学修成果の評価
（１）ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」をコミュニティ生活学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。

（２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。</td></tr>
</table>

		（３）学科における学修の集大成として、卒業研究を位置づけ、総括的に評価を行う。 ①幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するために教養科目を配置する。 ②専門科目は、生活に関する基本的知識・技能を総合的に養う「ライフデザインフィールド」、ファッションに関する専門的知識・技能を養う「ファッションフィールド」、フードに関する専門的知識・技能を養う「フードフィールド」、社会的及び職業的自立を図るために必要な知識と技能を養う「キャリアサポートフィールド」を設け、それぞれの目標達成のために必要な科目を配置する。
アドミッション・ポリシー	コミュニティ生活学科	コミュニティ生活学科では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及びコミュニティ生活学科の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。コミュニティ生活学科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 １．高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 ２．身近な問題について自ら考えその結果を表現できる力を有している。 ３．基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。 ４．コミュニティ生活学科での学びや経験を社会で活かしたいという意欲や目的意識がある。 ５．コミュニティ生活学科の教育内容を十分に理解している。

アセスメント・ポリシー	コミュニティ生活学科	コミュニティ生活学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 １．ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を各学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。 ２．学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 ３．学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。

４-２　食物栄養学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

<table>
<tr><td>ディプロマ・ポリシー</td><td>食物栄養学科</td><td>食物栄養学科では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に卒業を認定し、短期大学士(栄養学)の学位を授与する。
１．知識・理解
（１）栄養士として必要な「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」に関する最新の知見を取り入れた専門的知識を理解している。
（２）栄養士の役割について理解している。
（３）社会的自立を図るために必要な知識を理解している。
２．汎用的技能
（１）栄養士として必要な専門的技能を修得している。
（２）対象者一人一人の状態に応じた献立作成、調理、栄養指導ができる。
（３）社会的自立を図るために必要な技能を身に付けている。
３．態度・志向性
（１）対象者一人一人の食生活に即した栄養指導を構想することができる。
（２）自らの食生活を振り返り、自己評価することができる。
４．総合的な学習経験と創造的思考力
（１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。
（２）自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる。</td></tr>
<tr><td>カリキュラム・ポリシー</td><td>食物栄養学科</td><td>食物栄養学科では、卒業認定・学位授与の要件を身に付け自立した社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実践する。
１．学修方法
（１）実施する授業の形態は、講義、演習、実験、実習のいずれか、又は、これらの併用により行う。
（２）各授業の実施に当たっては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。
（３）栄養士として地域の健康づくりに貢献する姿勢を養うため、実践の機会を設けたカリキュラム編成とする。
２．学修内容
（１）幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するために教養科目を配置する。
（２）専門科目は、栄養士免許、栄養教諭二種免許状、フードスペシャリスト受験資格を取得するために必要な科目を取り入れたカリキュラム編成にする。
（３）大学への適応及び学修スキルの修得等のための初年次教育は、多様な入学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びが実践できるよう、少人数制の「セミナーⅠ」「セミナーⅡ」で実施する。
３．学修成果の評価
（１）ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」を食物栄養学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。
（２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。
（３）学科における学修の集大成として、卒業研究を位置付け、総括的に評価を行う。</td></tr>
</table>

アドミッション・ポリシー	食物栄養学科	食物栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び食物栄養学科の教育内容を理解し、本学及び食物栄養学科の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。 食物栄養学科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 １．高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 ２．身近な問題について自ら考えその結果を表現できる力を有している。 ３．基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。 ４．食物栄養学科での学びや経験を社会で生かしたいという意欲や目的意識がある。 ５．食物栄養学科の教育内容を十分に理解している。

アセスメント・ポリシー	食物栄養学科	食物栄養学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 １．ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。 ２．学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 ３．学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。

4-3　保育学科の３つのポリシーとアセスメント・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	保育学科	保育・幼児教育に関する専門的知識と技能を養うとともに、社会の多様な保育ニーズに対応できる実力と豊かな人間性を備えた保育者を養成することを目的とする。 保育学科では、所定の単位を修得し、以下に挙げることを身につけた学生に卒業を認定し、短期大学士（保育学）の学位を授与する。 １．知識・理解 （１）保育の本質と目的について理解している。 （２）保育に関する基本的知識を理解している。 （３）子どもの心身の健康や発達について理解している。 （４）社会的自立を図るために必要な知識を理解している。 ２．汎用的技能 （１）子ども一人一人の生活や発達過程に応じた援助ができる。 （２）音楽、図画工作、体育等の基礎技能を身に付けて指導することができる。 （３）社会の多様なニーズに柔軟に対応できる。 （４）社会的自立を図るための技能を身に付けている。 ３．態度・志向性 （１）子どもの最善の利益を尊重することができる。 （２）正しい価値観・倫理観と判断力を身につけ、自立した大人として市民としての責任を持った行動ができる。生涯学び続ける意欲を持つことができる。 （３）チームワークを大切にし、リーダーシップをとることができ、周囲と良好なコミュニケーションをとることができる。 ４．総合的な学習経験と創造的思考力 （１）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 （２）自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる。
カリキュラム・ポリシー	保育学科	保育学科では、卒業認定・学位授与の要件を身に付けた社会人を育成するために、学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施する。 １．学修方法 （１）教養に関する教育科目、専門・職業に関する教育科目を規程に即して準備し、講義、演習、実験、実習、実技指導等、教育目的に適した形式の授業を実施する。 （２）学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングの教育環境を準備し、可能な限りこの方法を取り入れる。 （３）学内外での行事やボランティア活動、地域連携活動等、実践を通した学びの機会をつくる。 ２．学修内容 （１）幅広く深い教養を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目を配置する。 （２）教育職員免許法施行規則に定められている教育内容と単位数を充足する科目を設け、幼稚園教諭賭として必要な最新の知見を取り入れた専門的知識と技能を養うための体系的なカリキュラム編成とする。 （３）児童福祉法施行規則に定められている教育内容と単位数を充足する科目を設け、保育士として必要な知識と技術、及び人間性が身につけられるような総合的なカリキュラム編成とする。 （４）大学への適応及び学修スキルの修得等のための初年次教育は、多様な入学生が自ら学修計画

		を立て、主体的な学びを実践できるよう、少人数制の「セミナーⅠ」「セミナーⅡ」で実施する。 ３．学修成果の評価 （１）ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「最終的な学習到達目標」と「具体的な下位項目」を保育学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。 （２）学生の学修成果を総合的に判断する指標として、GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 （３）保育・幼児教育の実践者として必要な学修の状況（知識・理解、技能、人間性）について、各教科、実習、日常の行動等を通して総合的に評価する。 （４）学科における学修の集大成として、卒業研究を位置付け、総括的に評価を行う。
アドミッション・ポリシー	保育学科	保育学科では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、本学及び保育学科の教育内容を理解し、本学及び保育学科の教育を通して精神的自立、経済的自立を目指そうとする人を受け入れる。保育学科に入学を希望する者には具体的に次のことを求める。 １．高等学校の教育課程を幅広く修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 ２．身近な問題について自ら考えその結果を表現できる力を有している。 ３．基本的なコミュニケーション能力（自分の考えを相手に伝える、相手の質問に的確に答える等）を有している。 ４．保育学科での学びや経験を社会で生かしたいという意欲や目的意識がある。 ５．保育学科の教育内容を十分に理解している。

アセスメント・ポリシー	保育学科	保育学科における教育課程全体を通した学修成果の達成状況を、下記の方法により総合的に評価する。 １．ディプロマ・ポリシーに示す４つの区分ごとに「学修到達目標」と「具体的な下位項目」を各学科のカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。「学修到達目標」の区分に含まれる科目の成績評価を集計し、達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。 ２．学生の学修成果を総合的に判断する指標として GPA を活用する。特に、GPA の得点が低い学生に対しては、チューターが適切な個別指導を行う。 ３．学科における学修の集大成として卒業研究を位置付け、各担当教員が達成すべき具体的な評価規準を設定し、その達成度を４つのレベルでルーブリック評価する。レベル３以上を達成すべき水準とする。

５．　学科の自己点検・評価

５-１　コミュニティ生活学科

コミュニティ生活学科長　海切　弘子

【教育目的】

衣、食、住、人間関係等の生活に関わる幅広い専門的知識と技能を養い、個性豊かな生活づくりと地域社会の文化形成に貢献できる人材を育成することを目的とする。

【達成目標】

・社会のニーズに合った学びを提供できる魅力ある学科の創出
・生きた学びと就職力の向上（進路決定率 100%）
・学科教育の見える化による入学者の安定的定員確保（定員充足率 100%）
・卒業までに１つ以上の資格検定取得サポート（取得率 100%）
・教育の質の保証（学生による授業評価アンケート５段階 3.5 以上 100%、卒業時満足度調査４段階３と４で 100%）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１）　教学の質の向上

① 学科の継続、発展を担う教員組織の編成

学科の継続、発展を伴う教員組織の編成を行うため、令和４年度３名の新任教員を学科教員組織に迎えた。カリキュラム・ポリシーにある学修内容を踏まえた教員の引継ぎが行われた。今後も退職を予定している教員が存在するため、学科の方向性と後任教員の要件等について議論を重ね、公募を出す予定である。

② 学生の興味や社会のニーズに適合したカリキュラムの作成

カリキュラムについては、ファションフィールドとフードフィールドを中心に、新任教員と非常勤講師の担当科目を検討した。特に、学生のニーズが高いブライダルや、メイク・ネイル、製菓・調理系の授業を充実させ、非常勤講師科目との連携を取りながら学生を「育てる」教育の展開に努めた。専任教員が分担して非常勤講師の相談窓口となり、授業が円滑に行われるよう配慮し、学年末には非常勤講師の先生方との意見交換の場を活用し、学科教育の推進を図った。

③ 卒業研究発表の充実

新カリキュラムのもと、2 年間の集大成といえる卒業研究の発表形式について検討を行った。コロナ禍の中で、卒業制作ファッションショー、卒業制作パーティともに、希望する保護者、学園関係者、コミュニティ生活学科教員を招待という形式にした。例年と異なる形式であったが、学生たちにとって、達成感と満足感を得られる発表となった。

卒業制作ファッションショーは、令和５年１月 29 日、長束キャンパス　講堂にて実施し、卒業制作パーティは、令和５年２月 12 日、長束キャンパス　講堂にて実施した。

（２） 学生生活支援の強化

① セミナー＆チューター制の充実

多様な学生に対するきめ細やかな指導を行った。主にセミナーの時間とオフィスアワーの時間を使い、夢カルテによる各学生の目標設定と振り返りを実施し、人間教育の充実のための生活指導、および進路指導を行った。また、魅力ある多彩な科目を展開し、学生の満足が得られるよう努めた。授業評価アンケートの集計結果をふまえ、非常勤講師を含め学科教員全員の授業検討を行った。評価が低い科目については担当教員への改善を求めるなど教育の質の保証に努めた。授業評価アンケート結果は、教養科目が 5 段階評価で 4.7、専門科目が 4.6 と高評価であった。卒業時の満足度調査は満足 70%、やや満足 27%合わせると 97%の満足が得られ、自由記述も概ね良好であった。

② 入学前ガイダンス、保護者会の充実

令和 5 年度入学生対象の入学前ガイダンスは 3 月 12 日(日)13 時から 14 時のプログラムで実施した。また、2 年生保護者会について、3 月 12 日(日)10 時から 11 時 30 分 0301 教室にて実施した。27 名の保護者の参加があり、知りたいことがよくわかり参加してよかったと好評だった。入学時のオリエンテーションは、1 年生は 3 日間実施、2 年生は 2 日間実施した。オリエンテーションキャンプについては、「ちぎり絵」を題材としたワークショップを実施した。ライフプランニング教育 1 回目を 5 月 18 日に実施、2 回目を 6 月 22 日に実施した。また、夢カルテの記入指導を含めて、各自の目標設定を中心に指導し、前期終了時と後期終了時に振り返りを行った。

（３） 就職・キャリア支援の強化

① 資格・検定取得サポート体制の強化

実務につながる科目の履修を学生に奨励し資格取得の向上を図った。どの学生も資格や検定を１つ以上取得するよう指導しているが、取得率は 93%で目標の 100%を達成することができなかった。学習意欲、GPA が低い学生への対応を学科会議で検討した。資格検定のサポートを積極的に行い、下記のような実績をあげた。

〈資格〉

中学校教諭二種免許状（家庭）3 名
幼稚園教諭二種免許状　　1 名
フードコーディネーター3 級　23 名

〈検定〉

医療事務メディカルクラーク（医科）20 名、食品衛生責任者　6 名、食生活アドバイザー検定 3 級 5 名、サービス接遇実務検定 2 級 5 名、ワープロ検定試験準 1 級 1 名、2 級 7 名、準 2 級 19 名、3 級 10 名、表計算検定準 1 級 1 名、2 級 5 名、準 2 級 9 名、3 級 11 名、ファッション販売能力検定 3 級　13 名、パーソナルカラー検定 3 級　9 名、フォーマルスペシャリスト認定試験ブロンズライセンス 8 名、色彩検定 3 級　12 名、秘書技能検定 3 級 5 名、アソシエイト・ブライダル・コーディネーター(ABC)検定　9 名

② 進路決定にかかわるキャリア支援体制の充実

進路決定率の向上を図るため、キャリアサポート科目「キャリアデザイン」「就職対策講座Ⅰ・Ⅱ」「等の科目を実施した。また、チューターによるバックアップ体制の強化を行い、学生の内定状況を学科会議で報告し、未決定の学生に対して情報交換を行い、就職支援体制を強化し、進路決定率 100%を達した。

（4） 地域連携・国際交流の推進

① 地域ふれあい体験会の実施

新型コロナ感染症予防対策のため実施せず

② 地域公民館での公開講座実施

新型コロナ感染症予防対策のため、公民館からの公開講座依頼数が減り、コミュニティ生活学科教員担当の講座の実施はなかった。

③ ボランティア活動の推進

2 年生が、毎年「ワクワクながつかとうべえ祭り」の実行委員となり、地域の活性化に貢献していたが、今年は新型コロナウィルス感染症の影響により祭りは中止となった。今年の実行委員となった 4 名が、祭りのメイン企画「絵本のリサイクル」を実施した。絵本・児童書 576 冊が集まり、親子連れで 160 名を超える方に来ていただき、大変好評だった。

（5） 研究と教育のダイナミックな連携

① 外部資金が獲得できる専門教育の充実

進展なし。今後前向きに取り組んでいきたい。

② 研究成果の公表

学科教員 1 名が博士号を取得した。

（6） 広報・学生募集活動の強化

① オープンキャンパス、大学案内、ホームページの充実

オープンキャンパス、大学案内、ホームページ等について内容の検討を継続し、学科教育の「見える化」を図った。新型コロナ感染予防対策のため、5 月、6 月、7 月、8 月、9 月に実施したオープンキャンパスは感染予防対策を徹底し、対面式で実施した。7 月のオープンキャンパスは学生が人前結婚式を行い、華やかなプログラムとなり、大変好評だった。学科の教育内容の魅力を伝える充実した時間を提供できたと思われる。また、6 月 7 月 8 月に大学・短大説明会を 1 回ずつ合わせて 3 回実施した。ミニオープンキャンパスを 5 回、2 月には冬のオープンキャンパス、3 月には春のオープンキャンパスを実施した。特に、学生が出演した 5、6、7、8 月のオープンキャンパスが好評だった。毎回メインプログラムを 2 つ組み立てて、充実した内容を実施することができ、83 名の入学生につながったと考えられる。

② 春の家庭科教諭訪問

11 校の家庭科教諭訪問を実施した。在学生と卒業生の近況報告ができた。

③ 高大連携講座等への積極的取組

8 月 18 日に高大連携公開講座を実施した。

「生活の中の色彩と似合う色の見つけ方」「おいしく食べてからだの中からきれいに」「心理テストで自分を知ろう」を実施し、合わせて 11 の高等学校から 31 名の参加があり大変好評だった。

④　家庭科教員対象の公開講座実施

新型コロナ感染症予防対策のため実施せず

高等学校からのキャンパス見学の要望に応え、学科ガイダンスや模擬授業を行った。高等学校訪問しての職業体験授業、オンライン進路ガイダンスにも積極的に取り組んだ。実施した活動は下記の通りである。

〈キャンパス見学会〉

6 月 7 日　広島県山陽高等学校
9 月 12 日　私立第一学院高等学校広島キャンパス
10 月 14 日　星槎国際高等学校
10 月 25 日　広島県立大竹高等学校
10 月 26 日　広島県立黒瀬高等学校
3 月 7 日　愛知県名城大学附属高等学校

〈授業および進路ガイダンス〉

6 月 20 日　山口県柳井学園高等学校
8 月 25 日　山陽女学園高等部通信制課程
9 月 2 日　広島県立世羅高等学校
9 月 29 日　広島県立高陽高等学校
10 月 27 日　広島県立呉昭和高等学校
12 月 9 日　広島みらい創生高等学校
1 月 25 日　広島みらい創生高等学校
2 月 18 日　如水館高等学校
2 月 21 日　山口県立熊毛北高等学校

【総合評価】

・授業評価アンケート 5 段階評価で 3.5 以上 100%の目標は達成できた。
・最終的な進路決定率は 100%の目標値を達成できた。毎週行う学科会議で学生の就職活動状況を報告しあっているが、今後ともキャリアセンターとチューターが連携を取りながら実績をあげていきたい。
・資格・検定の取得率は 93%で目標の 100%を達成することができなかった。原因の一つは、入学当初のモチベーションの維持ができず、卒業単位取得で精いっぱいの学生がおり、勉強の仕方が分からないことがあげられる。また、通信制課程で学んでいた学生は心落ち着く場を見つけにくいといった課題もあり、チューターがオフィスアワーの時間はもちろん空き時間を使ってひとりひとりの学生と話す時間を丁寧に取り気持ちに沿っていくなことを継続し対応していきたい。
・2 年間の学生生活についての満足度調査は概ね良好であった。特に、満足度総合評価は、高

評価を維持しており、自己点検項目ではすべて上がっていた。今後とも、学習者中心の「育てる」教育をきめ細やかに行っていきたい。

・オープンキャンパスの実施にあたっては、学科教育の特色を高校生にわかりやすく興味を持ってもらえるよう在学生スタッフの活躍の場を設けること、また説明資料も含めてより質の良いプレゼンテーションを実施することを努めている。結果として、オープンキャンパス、大学・短大説明会に参加した高校生の入学者が大多数を占めており、参加した高校生の求めているものに応えられているといえる。

５－２　食物栄養学科

食物栄養学科長　村田 美穂子

【教育目的】

食と健康に関わる専門的な知識と技能を養い、栄養士として健康的で人間性豊かな生活づくりを指導できる人材を育成することを目的とする。

【達成目標】

・定員充足率（100%）
・栄養士免許の取得（100%）
・学生による授業評価（満足度評定 3.0 以上の科目割合 100%）
・「学生生活の満足度調査」総合的な満足度（満足・やや満足 90%以上）
・卒業時点での進路決定率（100%）
・食の専門職への就職率（就職者の 80%以上）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１）教学の質の向上

① 調理技術向上を目指した取組の実施

本学科では、「調理のできる栄養士」をめざし、入学直後に主に１年生を対象に基礎的な調理技術を身に付けるため、授業時間外に調理技術支援講座「チャレンジ！調理講座」を実施している。本年度は、前期の「調理実習（初級）」の実技試験についての支援が必要な者を中心に個別指導を実施した。月に１回で前期に４回実施し、調理技術を学ぶ意欲を高めることができたと考えている。

② ICT を活用したアクティブ・ラーニングの推進

各授業において、学生が主体的に学べるように ICT を活用したアクティブ・ラーニングを推進した。また、本年度は対面授業を主に実施したが、必要に応じて C-Learning によるオンライン授業を実施した。対面授業に加えて、C-Learning を併用して実施したことにより、教員は授業において、効果的な手法を取り入れるなどの授業改善に取り組み、質の高い授業に繋がった。

③ 入学前教育の充実

入学前教育として、入学予定者に学科作成冊子の送付および通信教育を実施している。本年度も、12 月から 3 月まで、随時実施した。

学科作成の入学予定者への冊子については、セミナー＆チューター制や入学までにしておくべきことなどについて、よく理解できたなどの感想をいただいていた。

通信教育では、入学後に必要となる知識を復習させるため、学科の教育内容に関連する記事についての感想文（「食を通じた地域貢献（ボランティア活動）」について）、学科教員が作成した問題（理科（化学・生物）、計算、国語）を送付し、解答を返信させる形式で実施した。解答の返信率は 100%であった。各問題については学科教員が採点し、後日入学予定者に解答例とともに返却した。問題の解答においては、誤解答も多く見られたため、学科教員で学生の情報を共有しながら、今後フォローすることにしている。

また、入学前ガイダンスを令和５年３月４日（土）に実施した。入学前の様々な不安を解消し、入学予定者間での交流や教員との交流、学科教員と保護者との連携を強化するために行っている。ガイダンスには、入学予定者とその保護者が出席し、入学後の学生生活や今後の予定、さらに保護者への学科からのお願いしたい内容などについて説明し、その後は個別の質問等に対応した。事前に入学に向けて必要となる情報を提供し、入学予定者間で交流する時間を設けたこと等により、「入学するまでの不安が解消し、入学することが楽しみになった」「安心した」という意見が多く見られた。なお、ガイダンスの欠席者には、当日配付資料を送付し、必要に応じて問い合わせに対応した。

④ 卒業研究と卒業研究発表会の充実

卒業研究は、２年次に通年でセミナーのチューターによる指導で行っている。卒業研究発表会は、当初は１月の日曜日に保護者に公開する予定でいたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、実施を平日に変更して２月７日（火）の午後とし、感染予防対策を行い、食物栄養学科教員と学科学生に限定して、学会形式での発表会を実施した。発表は８テーマであり、２年生が日頃の学修成果の集大成として、研究成果を発表した。

⑤ 正しい栄養知識の修得と人間力のアップ

実験・実習にスムーズに取り組めるように、１年生を対象として実験で使用する器具機器類の取り扱い方を指導する基礎実験講座を令和５年２月 14 日（火）に実施した。

また、栄養士として必要な知識を身に付けるため、毎年 12 月に行われている栄養士実力認定試験を２年生が受験している。栄養士実力認定試験とフードスペシャリスト資格試験の対策として、「栄養演習Ⅱ」（選択科目、２年後期）を開講している。栄養士実力認定試験は２年生 35 名が受験した。試験結果は、受験生に配付し、今後の課題を確認させるとともに、学科の教育の改善のための指標としている。受験した各科目とも短大の全国平均を上回ることを目標としたが、やや下回っており、達成することができなかった。また、フードスペシャリスト資格については、11 名が受験し、６名が合格した。

学科では、リーダー養成として、２年生から希望者６名を選出し、５月に実施した１年生のオリエンテーションキャンプに参加して、企画、運営を行うことにより、リーダーとしての能力を養うことにしている。本年度はオリエンテーションキャンプ（5 月 13 日（金））を学内で実施し、リーダーは準備や運営に協力し、リーダーとしての能力を養うことができた。

さらに、自主運営活動として、学生達は係を担当し、学科の各種行事等の担当者として企画運営を行うことにより、コミュニケーション能力を養うことにしている。図書委員の活動、オープンキャンパスのスタッフ、1.2 年生学科交流会の企画や運営において、それぞれの係の学生が活動した。一方、あかね祭やとうべえ祭りなどは、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動は実施できなかった。

（２）学生生活支援の強化

①セミナー＆チューター制によるきめ細かな学生指導

本年度は、１年生のセミナーは５月までに決定し、その後はセミナーごとにチューターが個別の学生の状況をいち早く察知し、早めの対応を行った。2 年生には個別に就職や進学の進路支援

及び生活指導を行っている。

② 保護者との連携強化（保護者会の実施）

保護者との連携を強化するため、１年生の保護者には 6 月に担当するチューターを通知している。１年生の保護者会は、本年度は 3 月 4 日（土）に実施した。学生生活に関連する行事や進路支援などについての説明し、全体会終了後は希望する保護者とチューターの面談する機会を設け、進路支援等に向けて個別対応を行った。

（３）就職・キャリア支援の強化

①キャリアセンターと連動したきめ細かな進路指導による進路決定率 100%の維持

卒業時進路決定率 100%、そのうち食の専門職への就職率 80%以上をめざし、キャリアセンターと連携して進路指導を行った。その結果、本年度の進路決定率 100%、食の専門職への就職率は 78.1%（25 名のうち、栄養士職 22 名、栄養士職以外 3 名）で、目標とする 80%以上を達成することはできなかったが、学生の希望の通りの進路支援を行うことができた。

②卒後教育としての「管理栄養士国家試験対策講座」の実施

卒業生の支援として、毎年管理栄養士国家試験対策講座を実施している。本年度は 7 月から 12 月までの計 5 回、模擬試験を 2 回（11 月と 2 月）に実施した。講座の受講生は 8 名、模擬試験は 7 名が受験した。令和 5 年 2 月に行われた管理栄養士国家試験の結果、これまでの受講生から 2 名の合格者が出ており、管理栄養士を目指す卒業生の励みとなっている。

（４）地域連携・国際交流の推進

① 地域住民との継続した連携事業の実施

１年生を中心に地域の一人暮らし高齢者を対象としたお弁当配食サービスとクリスマス会を毎年行っている。本年度のお弁当配食サービスは、11 月と 12 月の 2 回実施した。また、クリスマス会は会食を伴うため、昨年同様に中止とし、代案として 12 月 8 日（木）に、学生手作りのお菓子をクリスマスイベントとして、高齢者に届けた。受け取られた高齢者の方々には大変喜んでいただき、学生にとっても貴重な体験となった。

② 企業との連携強化

本学科では、地元の企業と連携しながら、地元野菜「祇園パセリ」の普及啓発活動のために江坂セミナーの卒業研究のテーマとして継続してきた。これまでフードフェスティバルや農業祭への参加、㈱フレスタの店舗を使用した「食育講座」等を実施してきた。本年度は 10 月のひろしまフードフェスティバルに参加し、祇園パセリの PR 活動を実施した。また、連携する JA 広島市の協力により、令和 5 年 1 月には学内において、味噌づくり体験講座を実施した。フレスタ店舗での食育講座、農業祭は中止であった。

（５）研究と教育の発展的連携

①学会誌や紀要への研究成果の投稿推進

教員 2 名がそれぞれ投稿していた論文が受理され、掲載された。また、学内紀要には 2 報が掲載された。

（６）広報・学生募集活動の強化

① オープンキャンパスの内容充実と参加者の受験率アップ

オープンキャンパスでは、毎回の企画を検討し実施した。学生の学生生活が伝わるように動画や資料を工夫した。毎年更新している「栄養士の魅力」のパンフレット、「祇園パセリ」のレシピを紹介した冊子、調理実習で学ぶ「100 レシピ」の中からレシピのプレゼンテーションを紹介し、参加者と学生や教員が交流する時間を設けるなど、食物栄養学科の魅力が伝わる工夫を行った。また、学科の資料は高校ガイダンスなどにおいて配付し、受験率アップにつながるよう役立てた。

②高校ガイダンスへの積極的な協力

本年度は依頼のあった高校ガイダンスや学校見学会など、20 校について、全教員で分担しながら積極的に対応した結果、定員の確保に繋がった。

③高校家庭科教員との信頼関係の強化

本学科で継続している「第 24 回高校生対象お弁当献立コンテスト」を 5 月から 8 月にかけて実施した。高校の家庭科教員の指導の下、応募は 19 校（昨年度は 16 校）、応募献立 82 点、メッセージカード 59 点）であり、審査後、受賞作品を HP で発表した。この取り組みで、本学に興味を持ち、その後に入学に繋がった学生もいることから、今後も継続して実施することにしている。一方、高校家庭科教諭対象公開講座は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえて中止している。また、3 月の春の高校訪問は、教員が 11 校に出向き、学科の教育内容や栄養士の魅力を伝えるとともに、出身者のいる高校には、本学の卒業生からのメッセージや在学生の情報などを伝えて、家庭科教員との信頼関係の強化に努めた。

【総合評価】

・定員充足率については、入学予定者は 54 名であり、定員充足率は 108%であった。昨年までは定員に満たない状態が続いていたが、本年度は定員を超えることができた。新資格「登録販売者」を支援する科目の増設や学科科目名の見直し、オープンキャンパスの工夫など、一定の効果が見られたものと考えている。今後も定員確保を目指して、学生募集に力を入れたい。

・栄養士免許の取得については、希望者 31 名が一括申請で取得した（82%）。なお、卒業生 38 名のうち、栄養士免許を希望しない者は 2 名、個人申請者は 5 名であり、合計 36 名（95%）が取得した。本学科は、栄養士養成施設であることから、入学当初は全ての学生に対して栄養士免許取得をめざした対応を行っているが、様々な理由により栄養士免許取得を辞退する学生もいるため、学科教員は常に学生一人ひとりの状況を把握し、学生の気持ちに寄り添いながら、きめ細やかな対応をするように心がけている。

・学生による授業評価では、満足度評定 3.0 以上の科目割合 100%を学科の目標としており、前期・後期ともに全科目において達成していた。本年度は、ほとんど対面授業を実施し、必要に応じて C－Learning によるオンライン授業を実施したが、教員による教材研究や実施方法の改善等により、学生にとって満足度の高い授業が実施できたものと考えている。

・「学生生活の満足度調査」については、２年間の学生生活の満足度を卒業時に確認し、総合的

な満足度として、「満足」と「やや満足」をあわせて、90%以上を目標としている。卒業生の総合的な満足度は「満足」が 44%、「やや満足」が 46%であり、合計 90%で目標に達していた。卒業生は入学時から、新型コロナウイルス感染症予防対策のために、様々な制約があり、学生生活にも大きく影響したものと考える。一方、授業や教員・職員のサポート体制、就職支援体制などには満足しており、本学のきめ細かな学生支援が評価されたものと考える。また、1 年生の総合的な満足度は、「満足」と「やや満足」をあわせると 93%であり、学科の目標とする 90%を超えていた。引き続き学生の満足度が高くなるよう、学科全体で取り組みたい。

・卒業時点での進路決定率は 100%であり、目標は達成できた。チューターが担当する学生と頻繁に面談を行い、適切なアドバイスを行っていることや、キャリアセンターの丁寧な個別指導などがこの結果に繋がっていると思われる。

・食の専門職への就職率は、就職者の 80%以上を目標にしているが、本年度は 78.1%であった。食の専門職への進路希望が多かったが、その一方で一般企業への就職希望者も増えており、今後もキャリアセンターと連携しながら、一人ひとりの希望を把握しながら、個別支援に取り組みたい。

５-３　保育学科

保育学科長　柞磨 昭孝

【教育目的】

保育・幼児教育に関する専門的知識と技能を養い、社会の多様な保育ニーズに対応できる実力と豊かな人間性を備えた保育者を養成することを目的とする。

【達成目標】

・幼稚園教諭二種免許状取得（100%）
・保育士証取得（100%）
・就職率 100%、その内専門職比率（90%）
・学生による授業評価（3.5 点以上(5 点満点)の科目の割合 70%以上）
・２年間の学生生活についての満足度調査（卒業時満足度アンケート　平均 3.5 点以上(4 点満点)）

【教育計画・取組内容の実際および評価】

（１）教学の質の向上

① 高い倫理観、深い人間観、広い社会観を持った学生の育成

初代学科長考案の「実習訓」には、実習に限らず、社会人としての基礎があらわされている。本学科ではこれを修得させることにより、人間教育の充実を目指している。日常的に実習訓の理解促進を図り、その精神に沿って学習が進むよう、入学前から指導している。令和４年度も一定の成果を上げた。今後とも、行事や授業の中での指導を継続していく。

また、教育・福祉の仕事に従事する者にはボランティア精神の涵養が重要である。また、保育の仕事において、協働の重要さの理解も不可欠である。そのための取組みの１つとして、１年生には、「子育て支援」「福祉援助」「災害救援」「社会・地域貢献」「学習体験」の５領域の活動から、２領域以上、２回以上の条件でボランティア活動を課している。掲示板に活動の募集を掲載し、活動への支援をしている。令和４年度は、昨年度に続いて新型コロナウィルスのためボランティアの場が確保できず、このボランティア活動は中止し、実習園等における行事サポートのボランティアを推奨した。

③ アクティブ・ラーニングの推進

各科目で可能な限りアクティブ・ラーニングの手法を取り入れて実施した。講義、演習など、授業科目の性質にもよるが、事例としては、「教職概論」（予習を課し、予習内容に基づいて議論、自己評価・他者評価を実施し、確実な学修を目指す）などがあげられる。その他にも、様々な取組が行われ、２月末を目途に学科のまとめを行った。そこには、反転学習、模擬保育の実践、グループトークの利用、ワークショップ、実技を通して理論の理解、など様々な工夫の実績が示されている。令和５年度も引き続き実施し、学生の主体的な学習が行われるよう努力する。

④ 音・図・体を主とした技術力と指導力の向上

保育の場において、指導者に音楽・図画工作・体育の技術力は欠かせない。さらに発達を鑑みて適切に指導できる力量を育成することも重要である。カリキュラムにおいても学習の進展などを考慮している。さらに、個々人の指導力をつけるために、幼児体育指導者（２級）検定の講習会を 8 月 17、18 日に実施し、１年生 16 名、２年生 14 名、合計 30 名が受講し全員が合格した。更に、コロナ禍のために昨年度実施できなかった赤十字幼児安全法支援員の講習を 8 月 29 日から 31 日の 3 日間で行い、1 年生 2 名、2 年生 18 名、合計 20 名が認定を受けた。

また、授業における身体表現、美術における造形表現、器楽（ピアノ）を中心とした音楽表現、それぞれの科目で、確実に表現力を伸ばす取組みを行った。

更に、本年度から保育技術獲得により学生の自信を向上させるための取組を、1 年生はセミナーで、2 年生は卒業研究の時間で行い、2 年生は卒業研究発表会において発表した。取組内容や時間の確保等において生じた課題をもとに見直しを行い、令和 5 年度は新たな構想の下に実施する。

（２） 学生生活支援の強化

① 入学前課題の提示

保育者を目指すためには高等学校までの基礎学力は欠かせない。加えて、保育への橋渡し（ピアノ実技や絵本の知識）を含めた、入学前の準備が重要と考えている。令和４年 12 月上旬、総合選抜（AO）、学校推薦型選抜の入学予定者に、将来の夢を描く、ピアノ、絵本、漢字などの課題を送付した。また、入学者選抜終了ごとに入学予定者に送付した。専門教育をスムーズにすすめるためには、高等学校までの基礎学力は言うまでもなく、社会事象を正確に把握する意欲や、社会事象に対する視野を広げる努力が必要である。入学前課題の中に取り入れた。入学前課題は今後も継続して取り組み、充実させたい。

② セミナー＆チューター制を中心とした支援体制の充実

学生の状況を一早く把握し、課題となる事項については学科会で情報を共有するとともに、対応策を協議・決定し取り組んできた。進学目的が不明確な学生や心身の不調に伴う学生生活への不適応等、多様な課題を抱える学生が増え、各チューターの懸命な働きかけにもかかわらず、退学者６名、休学者３名という結果となった。各学生の状況をさらに細やかに把握し、学生にとって最善の方向性を見出すよう努めていく必要がある。

③ 保護者との連携強化

第 1 回目の保護者会を大学祭期間中の２日間に予定していたが、大学祭期間中の外部の方のシャットアウトのため中止した。

年度末には、計画通り１年生の保護者を対象に実施した。昨年度はチューターによる保護者への電話連絡で行ったが、本年度は来校いただき、大学生活や就職活動等についての懇談を通して今後の学生生活や就職への不安の解消に努めた。

（３）就職・キャリア支援の強化

① キャリア教育（資格取得支援）の充実

社会人としての責任を果たすこと、将来の生き方を真剣に考える態度を育てるために、キャリアセンターと共同してキャリア教育を進めている。１年生は、10 月 12 日に基本的なマ

ナーに関する講座を実施した。社会人として必要なマナー、身だしなみ、敬語の使い方等を具体的に学習し、実習に備えるよう努めた。令和 5 年度も引き続き実施する。本年度の進路決定率は 100%であった。専門職比率も約 95%を超える学生が保育・福祉関係の専門職に就いた。チューターとキャリアセンタースタッフが緊密に連携をとり、一人ひとりの状況に合った就職・進路指導を行い、成果を上げている。

③　卒業生への相談の場や情報等の積極的な提供

卒業生が学科に誇りを持ち再就職の相談にも訪れる、そのような学科でありたいと考えている。今年度、卒業時に実施する満足度調査では、概ね 90%の学生が満足している。これまで通り学生と教員の信頼関係を大切にした細やかな支援に努めるとともに、更に、学生一人ひとりの思いや願いに立つ支援を進めていきたい。学生とのコミュニケーションツールの１つである「夢カルテ」の記入は 100%を達成した。今後も取り組んでいきたい。

新型コロナウィルス拡大のため、本年度のホームカミングデイはすべて中止した。卒業生に関する動向を注視し、可能な支援に努めていきたい。

（４）地域連携・国際交流の推進

① ボランティア活動の推進（前掲）

前述

② 地域貢献活動の推進

参加を予定していた「地域の夏祭り」「とうべえ祭り」共に中止となった。

（５）　研究と教育のダイナミックな連携

① 保育・教育制度、社会福祉制度等、子育て支援制度の理解の促進

関連の科目において、国の改革等について順次取り上げ理解を図った。

（６）広報・学生募集活動の強化

① オープンキャンパス、大学案内、ホームページの充実

１）オープンキャンパスの充実

これまで検討してきた学科の強みを「①マンツーマンのピアノレッスン②豊富な体験学習③プラスαの資格取得支援」の３点に絞って積極的なアピールに努めるとともに、学科教員の学生支援態勢等について伝えていった。さらに本年度から始めた、セミナー・卒業研究において各常勤教員が１つ担当する保育技術をセミナー生が習得することを通して強みを身に付けさせる「8 ビート作戦」の取組を披露し、ホームページに動画を載せてアピールするなど、学科の魅力アップに努めた。参加者の感想等から、その意図は概ね理解されているように感じているが、受験者数は大きく低下した。今後、更に焦点を絞った展開とともに、学生を通して保育の魅力を伝えていきたい。

２）大学案内の充実

オープンキャンパスの改善点と合わせ、学科の強みを一層強調し、その内容に沿って説明を行うことができる内容になるよう検討した。

３）ホームページの充実

コロナ禍のため中止となっていた行事を、少しずつ再開することができた。これらを中心に、可能な限りの充実を図っていった。見る側の立場に立って見せるという視点を

一層重視し、更なる充実に向けて検討していきたい。

② 保育職のイメージ向上に向けた高等学校等への積極的な情報提供

１）高校訪問

短大３学科合同の高校１０校、学科独自の高校４校を訪問した。在学生や卒業生の近況を中心に伝えることで、一層の信頼関係を築くことができよう努めた。

令和元年度に発足した山陽女学園の子ども教育コースとの連携は、２年生に対して、保育の仕事に対する夢や憧れがより深まるよう、年間 6 回の出前授業を行うよう計画した。その後、高校側からの特別支援教育を推進する本学子ども学科との連携希望により、6 回中 2 回を子ども学科教員が 4 回を保育学科教員が高校にて授業を行った。

また、１・２年生の出身高校に向けては、大学での活動の様子を写真に取りメッセージを添えて「フォトレター」として届けた。

２）高校家庭科教員との連携

短大 3 学科合同で行う高校家庭科教員対象公開講座は中止となった。

（７）体験学習による現場力の育成

① 学科行事や体験活動を通した学生リーダーの育成

徐々に復活してきた学科行事を通して、組織する学生リーダーを中心に活動を進めた。1 年生対象のオリエンテーションキャンプは学内実施とし、４月２７日にリーダーの企画のもとに練習を重ね実施した。これら活動により、リーダーとしての主体的な意識が確実に育っているように思われる。

② 実習前教育、模擬保育等の充実

１）実習基礎の育成

コロナ禍における実習時期の変更や自宅待機の要請等のため、実施に当たっては様々な困難があったが、基礎的な力を付ける取組みを細やかに進め、希望者の実習をすべて終了することができた。また、2 年生の実習での経験は、グループごとに発表資料としてまとめ、2 年生が 1 年生に実習での気付きを伝達する「実習報告会」を行い、2 年生にとっては実習を振り返り整理し、1 年生にとっては実習への疑問や不安を解消する実りの多い学習機会となった。

２）実践力の育成

保育の現場では「指導案」を立てる力量が問われる。そこで、指導案を立て、模擬保育を実施し、きちんと振り返りをすることが重要となる。そのため、演習の多くの科目で保育指導案を立て模擬保育を実施した。全員がその技術を修得できるように指導したことで、実践を行うに当たっての貴重な学びとすることができた。

③ 現場実習による判断力、対応力、チーム力、社会性等の育成

卒業生が就職した幼稚園・保育園等から届く課題を踏まえ事前指導を行うとともに、学科教員の実習訪問指導の際に把握した各学生の課題を共有し、解決に努めた。その結果、今後の実習実施を見合わせざるを得ない学生も現れた。今後、一定の基準を設けて協議・判断し、現場実習に向かう学生が自ら夢の実現に向かって努力する意識や姿勢を培っていきたい。

【総合評価】

学科としては、幼稚園教諭免許状と保育士証取得の 100%を目指しているが、幼稚園免許で８名、保育士証で７名が未取得となった。進路変更等の事情によりやむを得ない面もあるが、入学時の目標を可能な限り叶えることができるよう支援するとともに、カリキュラムの検討を行い、状況に応じて改訂等の手立てを講じ、進路変更による学びの中断とならないようにする。

進路決定率 100%・専門職比率 95%を目指し、いずれも達成することができた。引き続き、キャリアセンター等との連携を深めながら、組織的に支援を行っていく。

学生による授業評価 3.5 点以上(5 点満点)の科目の割合を 70%以上とすることは、例年通り達成できた。授業評価では概ね良い結果を得ているが、今後に向けてさらに授業担当者意見交換会等で授業担当者に教学関係の要望を伝え、授業の質的向上を図る。

２年間の学生生活についての満足度調査では、約 90%の学生が教員のサポートに満足しているという結果であった。特に、チューターを中心として、学生との信頼関係は概ね築くことができたものと考えている。今後もさらに一人一人への支援を充実させていきたい。

なお、入学定員の充足率については減少傾向が続いており、教育内容の充実・特色化を図るとともに、オープンキャンパス等で魅力をより伝えられるよう情報発信の仕方についても創意工夫を生かしていきたい。

６．　組織ガバナンスの強化

６－１　組　織

法人事務局長　安藤　充昭

【行動方針】

学園のガバナンスを改善・強化するため、中期経営計画の定期的な見直し、理事会機能等の充実、法人情報の公開の推進を図る。

理事長の指揮統率力の強化を図るとともに、学園組織の継続的な見直しと機能強化、職員の資質・能力の向上と意識改革を進める。

【達成目標】

・全職員による中期経営計画の見直しと改訂（毎年度）
・法人情報の公開の推進（令和元年度公開情報以上の情報を公開）
・各部署における中期経営計画に基づく事業計画の作成、実行と検証（毎年度）

【取組内容の実際及び評価】

（１）学校法人のガバナンスの強化

①中期経営計画の毎年度の見直しと改訂

中期経営計画Ⅳ令和４年度改訂版を策定し、令和４年４月１日に全職員へ配布、周知徹底をした。７月から９月末までの間で各部署においてSWOT分析を行っており、その結果を令和５年度改訂版の見直しに反映した。また、中期経営計画Ⅳを推進するため、５つのプロジェクトを６月に設置して課題解決に向け検討を行った。令和５年度改訂版は令和５年３月の理事会・評議員会に諮り承認を受けた。

②学校法人広島文化学園ガバナンス・コードに基づく適切なガバナンスの確保

令和４年４月１日の合同職員研修の中でガバナンス・コードの周知を行った。また、令和３年度の実施状況を評価して、本学園のホームページで公表した。令和４年度ガバナンス・コードは、一部修正を加え、令和５年３月の理事会・評議員会に諮って承認を受けた。

③学内･学外理事の役割分担の明確化

今年度は役員改選が行われていないため、令和４年度の役割分担は令和４年３月に決定した担当を継続して担当した。理事会や理事協議会では、各部署からの報告や情報提供を行っており、理事、監事から意見を聴取した。その内容は各部運営会議や教授会で報告、協議がなされ次回の理事会で報告するなど、理事会と大学（学部等）の情報の共有化を図っている。令和５年４月からの役割分担は、令和５年２月の理事会で諮った。

④監事機能の充実

監事は、令和４年度に開催した理事会７回、理事協議会４回、評議員会３回の全てに１

人以上出席している。7月に開催された監事協議会で今年度の監査計画を作成し、重点計画（人間健康学部及び人間健康学研究科の運営状況の検証等5項目）を明記した。また、この計画に基づいて7月から毎月業務監査を行っている。

⑤評議員会機能の充実

令和4年度に開催した3回の評議員会には、理事会に提出した議案や報告とおおむね同じ情報を提供した。令和5年3月末日現在での外部評議員の割合は6割を超えており、昨年度同時期の割合を維持している。

（2）法人情報の公開の推進

①貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監査報告書等の公表

学園ホームページ内の「学園運営」で、財務の状況等の情報を公表している。各事務所においても閲覧に供せる状態にしている。

②寄附行為、役員等名簿の公開

学園ホームページ内の「学園運営」で、寄附行為、役員等名簿等の情報を公表している。各事務所においても閲覧に供せる状態にしている。

（3）理事長の指揮統率力の強化

①理事長が参画する学園経営企画会議、入学支援センター会議等を通じた経営意識の共有や理事長指示に対する迅速な対応

学園経営企画会議は原則毎月2回、入学支援センター会議は毎月1回開催し、学園の重要事項について協議している。議事概要は、各キャンパスの教授会等で共有するとともに、関係部署で実行している。

②迅速で的確な理事長判断を促すための報告・連絡の強化

理事長に対する報告・連絡については、口頭、電話、HBGメール、報告カード等様々な方法で行い、迅速な意思決定に繋げている。特に新型コロナウイルス感染症対応や職員等の不祥事の対応において、迅速で的確な対応を行っている。

（4）職員の意識改革

①各種研修会、セミナー、研究会等への参加による職員の知識、技術、職務意識の向上

各種研修会、セミナー、研究会等に関しては、昨年度に引き続き、主としてオンライン参加等で知識・能力の向上を図っている。また、12月には研修会等で得たものを共有化するため、SD研修会（学外研修報告会）を全事務職員を対象として実施した。

②就職支援や学生支援等への事務職員の参画など教職協働による大学運営力の強化

就職・キャリアセンターや学生生活支援センターの室長には事務職員を配置し、さらにメンバーにも事務職員が参画している。令和4年度実施予定のキャリア・カウンセラー、カリキュラム・コーディネーターの養成はいずれも未実施であり、令和5年度に実施する。

③学園・大学運営や業務への明確な目標設定と組織的な対応による、職員の意識・能力の向

上と経営感覚の醸成

各部署において年間及び月間業務予定表を作成し、各部の長は業務の進捗管理を行っている。6 月及び 12 月には職員面談を実施し、目標設定と円滑な業務遂行を図った。

（5）組織運営の充実・強化

①学部・学科間、キャンパス間を横断した大学運営のための各種センター機能の充実

7 月から 9 月末までの間、各センターで SWOT 分析を行った。分析結果は翌年度事業計画を立案する際のエビデンスとして活用するとともに、分析結果を基にして必要な見直しと具体的な戦略の実施を行っていく。

②大学、学部・学科、センター等各部署における、中期経営計画に基づく長期行動計画の作成・検証による PDCA サイクルの確立

今年度の事業計画に基づいて各部署で事業を実施しており、令和 4 年度中期経営計画Ⅳ中間報告書で前半期の検証を行い、この報告書で本年度の検証を行った。検証結果は翌年度の事業計画や予算に反映する。

（6）FD･SD の推進

①FD・SD 研修の内容を一層充実させることによる、本学の運営に必要な知識・技能の習得と能力・資質の一層の向上

年度当初には令和 4 年度の SD・FD 研修計画を作成し、4 月 1 日の辞令交付等の行事に併せて合同職員研修、新任者研修等を実施した。8 月 25 日には私学事業団の経営相談、全職員を対象とした研修、翌 26 日には全事務職員を対象とした研修を行った。9 月には大手前大学・大手前短期大学と初めての他大学との IR 相互研修会をオンラインで実施した。12 月には SD 研修会（学外研修報告会）を実施した。そのほか、会計・庶務の各 SD 研修会、教務課長・学生課係長の各会議（研修会）を概ね毎月実施している。

【総合評価】

・全職員による中期経営計画の見直しと改訂（毎年度）については、毎年度 4 月 1 日の中期経営計画（改訂版）策定後、計画実施に当たって、9 月における令和 4 年度 SWOT 分析、10 月における大学・短期大学協議会での中間報告、翌年 3 月の実績報告と PDCA サイクルに従って実行してきた。また、中期経営計画Ⅳにおけるプロジェクトとして、10 年構想検討 PT、短期大学将来構想検討 PT、リカレント教育検討 PT、SDG s 検討 PT 等の各プロジェクトやワーキンググループの検討を踏まえて、中期経営計画Ⅳ令和 5 年度改訂版案を作成した。各検討の過程では部署ごとの職員が関わり、全職員によって見直しを進めることができた。

・法人情報の公開の推進（令和元年度公開情報以上の情報を公開）については、学園ホームページで、寄附行為、役員、法人の概要、事業の概要及び財務の概要等法令等に定める情報は全て公開している。令和 3 年度に全面改訂したホームページについて、令和 4 年度もブラッシュアップを図り、閲覧者にとってより分かりやすい情報提供に努めている。

・各部署における中期経営計画に基づく事業計画の作成、実行と検証（毎年度）については、

中期経営計画Ⅳに基づく事業計画を、大学・短期大学協議会において、5 月に事業計画を関係職員で共有し、10 月に中間報告を行い、3 月に実績報告を行って、達成目標に対する評価を行い、令和 5 年度の事業計画、予算、中期経営計画Ⅳ令和 5 年度改訂版に反映している。

6－2　人事・給与

法人事務局長　安藤　充昭

【行動方針】

大学の質の向上に繋がる職員組織を構築し、計画的・効率的に学園運営を推進する。

学園の経営状況を反映した独自性のある人事・給与制度を構築する。

【達成目標】

・採用、異動、昇任等の人事制度に関して、総合的に運用するための制度の見直し（令和 4 年度完成）
・新たな人事評価制度の導入（令和 4 年度完成）
・人事評価制度に連動した給与制度の導入（令和 5 年度完成）
・令和 5 年度までに人件費を 3%削減

【取組内容の実際及び評価】

（1）適正な定員配置

①省令に定める大学設置基準をもとに、各種養成施設、課程校としての要件を満たしながら、学園の運営状況を踏まえた、教育研究に必要な定員配置を実施

人間健康学研究科（修士課程）設置、看護学部看護学科の定員減、人間健康学部スポーツ健康福祉学科の定員増等を踏まえた人事計画に基づき、令和 4 年度の職員配置を行った。また、年度中途の退職等に対しても的確な人員配置を行った。

（2）人事制度の見直し

①職員が意欲を持って働ける職場づくりを目指した、採用、異動、昇任等あらゆる面から総合的に運用するための制度の見直しと、規程の整備

中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置し、メンバーを 7 月に指名した。8 月に私学事業団による経営相談「人事制度について」を実施し情報収集・検討を行うとともに、12 月にプロジェクト会議を開催し、また適宜ワーキング会議を開催して、検討を行った。具体的には昇任制度の見直し案を策定中である。

（3）人事評価制度の導入

①新たな人事評価制度の導入による本学園が目指す経営方針・教育方針の可視化、各部署の目標・行動の明確化によるベクトルの一元化、自己点検評価・他者評価による目標達成感・使命感の向上

中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置し、メンバーを 7 月に指名した。8 月に私学事業団による経営相談「人事制度について」を実施し情報収集・検討を行うとともに、12 月にプロジェクト会議を

開催し、また適宜ワーキング会議を開催して、検討を行った。令和 4 年度は人事評価の反映を含む給与制度改革案をとりまとめた。

① 評価結果のフィードバックや給与・配置等の処遇などの連動による職員の意欲向上

職員の人事評価、職員面談を継続して実施し、この結果に基づいて賞与に反映させた。今後は昇任についても反映させていく。新たな評価制度を採用するまでは現行制度を改善しながら運用していく。

（4）給与制度の見直し

①職員の能力開発と組織の活性化を目標に、適正かつ公平な評価制度や処遇制度等の検討、給与体系、給与諸制度、諸手当の見直し、規程の整備

中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置し、メンバーを 7 月に指名した。8 月に私学事業団による経営相談「人事制度について」を実施し情報収集・検討を行うとともに、12 月にプロジェクト会議を開催し、また適宜ワーキング会議を開催して検討を行った。令和 4 年度は人事評価の反映を含む給与制度改革案をとりまとめた。引き続き、人件費支出を圧迫することなく、年齢給から業績給等への移行を段階的に進めていく。

②令和 5 年度までに人件費 3%削減（平成 30 年度比）を行うための計画を策定、実行

起点となる平成 30 年度と比較して、令和 4 年度決算（見込）では 7%の削減を実現した。

【総合評価】

・採用、異動、昇任等の人事制度に関して、総合的に運用するための制度の見直し（令和 4 年度完成）については、中期経営計画Ⅳ推進プロジェクトとして「人事制度、人事考課制度、給与制度改革プロジェクト」を設置して、8 月の私学事業団による経営相談を経て、12 月のプロジェクト会議やワーキング会議等により検討を行った。令和 4 年度は人事評価の反映を含む給与制度改革案をとりまとめた。引き続き人事制度の見直しを行っていく。

・新たな人事評価制度の導入（令和 4 年度完成）については、上記のとおりプロジェクトを中心に継続して検討を行っており、令和 4 年度は人事評価の反映を含む給与制度改革案をとりまとめた。引き続き新たな人事評価制度の導入についての検討を行っていく。

・人事評価制度に連動した給与制度の導入（令和 5 年度完成）については、上記のとおりプロジェクトを中心に継続して検討を行っており、令和 4 年度は人事評価の反映を含む給与制度改革案をとりまとめた。令和 5 年度から、昇任・昇格、賞与等へ反映していく。

・令和 5 年度までに人件費を 3%削減については、起点となる平成 30 年度と比較して、令和 4 年度決算では 7%の削減を実現した。

７．　財務基盤の強化

法人事務局次長　山口　芳弘

【行動方針】

収入の確保、経費及び人件費の抑制を行い、安定した財務体質を確立し、恒久的に健全な学園経営を堅持する。

【達成目標】

・事業活動収支差額(基本金組入前)の黒字堅持（事業活動収支差額比率 10%以上）
・第 2 号基本金組入の計画的な運用
・人件費比率 53%以下を維持
・各キャンパスの施設・設備等の新規・更新計画の策定（令和 4 年度）

【取組内容の実際及び評価】

（１）健全な収支計画の策定

①職員へ本学園の財務状況を随時明示することによる経営感覚の醸成と、堅固な経営基盤を築くための適切な予算策定・執行の確保

令和 4 年 4 月 1 日の合同職員研修の中で経営財務の状況について説明を行った。また、8 月 25 日に私学事業団による経営相談「収入の確保」を実施、8 月 26 日に全事務職員を対象として「予算編成」について研修を行った。予算策定に当たって、その基本方針である「令和 4 年度広島文化学園事業計画及び予算の策定について」を作成して令和 4 年 11 月に職員に対する説明会を実施した。また、各部署では、前年度末に実施した自己点検評価や 7 月から 9 月末にかけて実施した SWOT 分析結果を、令和 5 年度予算策定に反映した。

②学園の将来構想に基づく第 2 号基本金（将来の多額な固定資産の取得に備える資金）組入の検討及び計画的な運用

中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等も踏まえて、第 2 号基本金を組み入れるための計画を作成する。

②　継続的に事業活動収支差額を黒字堅持（事業活動収支差額比率 10%以上）

令和 4 年度の事業活動収支差額比率は 2.0%であった。安定的な収入確保と経費支出の抑制により引き続き目標達成を目指す。

（２）安定的な収入確保

①入学学生数を確保することによる学生生徒等納付金の確保

令和 4 年度の学生生徒等納付金収入は、学生数の減少により昨年度に比べて減少している。オープンキャンパス、ミニオープンキャンパス等を開催するとともに、ＴＶコマーシャルの放映や学園ホームページ、ＳＮＳの活用など、学生数確保に努めている。

②適正な学生数を維持することによる補助金収入の確保

定員充足率（令和 5 年 3 月 1 日現在）は、短期大学（専攻科含む。）で 84.3%であっ

た。引き続き、入学学生数の確保、在籍学生数の維持及び適正な定員管理に努める。

（３）経費支出の抑制

①人件費の抑制（人件費比率 53%以下を維持）

令和 4 年度の人件費比率は 57.0%であった。適正な人事管理、給与制度の見直し等により、引き続き人件費の抑制に努める。

②効果的かつ適正な教育研究費の支出

教育研究費について効率的な予算執行を行い、適正な支出に努めている。

③管理経費の効率的な運用による縮減

SD 研修（庶務・会計）を開催し、総務課長会議等と連携して、事務や帳票の統一化・簡素化を図っている。また、規程管理システムの利用普及、予算編成事務への会計システム利用検討など事務処理のシステム化を進めている。施設の改修が生じた時には、併せて照明の LED 化を進めている。

④４キャンパスの経費支出を統合することによる経費の抑制

金融機関口座の入出金情報について、従来キャンパスごとに契約する FAX 通知サービスにより確認していたものを全キャンパス統合契約のインターネットバンキングに切り替え、コスト削減と業務の効率化を図った。これ以外にも SD 研修会（庶務・会計）や総務課長会議等で、統合等を行える業務について検討を行っている。

⑤奨学金制度の見直しによる経費の抑制

「奨学金制度改革検討委員会」を 4 月に設置し、令和 5 年 2 月までに 7 回の会議を行うなど、継続して奨学金制度の検討を行い、令和 6 年度からの新たな奨学金を創設した。また、修学支援新制度と奨学金の関係について整理し、学生に負担を求めることなく学園負担の軽減を図ることとした。

（４）資産の適切な運用

①「資金運用委員会」における資産の安全管理を基本とする適切かつ計画的な運用

令和 3 年度資金運用委員会の検討結果に従い、通知預金の一部定期預金化と各金融機関との交渉による利率向上を図った。それを継続しつつ、安全運用を第一とした資産運用を行っている。11 月に資金運用委員会を開催し、保有債券等に係る協議を行った。

（５）外部資金の獲得

①文部科学省、私学事業団が示す方針の十分な理解による、教育・研究の取組の強化と補助金収入の増加

広島県遠隔講義システム導入促進事業補助金を受けて、郷原キャンパスの教室等の遠隔講義システムの整備、学生貸出ノートパソコンの導入等を行った。また、私立学校施設整備費補助金を受け、全キャンパスに換気機能付き空調機を整備した。令和 5 年 2 月に私立大学改革総合支援事業について大学でタイプ 3 の選定を受けたが、タイプ 1 については大学、短期大学とも選定されなかった。その他一般補助や特別補助の調査票作成に当たって

は、ポイントを上げることができるように努めている。

②多元的な財政基盤を確立するための、企業や同窓会等外部団体との連携強化、ホームページの活用などによる寄付金収入の増加

事務局会議が中心となって寄付金募集計画を作成し、12 月に法人事務連絡「寄付金募集活動について」を発出して、寄付金募集活動を開始した。この動きに伴って、ホームページの寄付のお願いのページを更新した。また、理事・監事・評議員に寄付を依頼するとともに、取引業者に対して機会をとらえて寄付の依頼を行っている。

（６）施設・設備の計画的な整備

①各キャンパスの施設・設備等の新規・更新等に関する令和 12 年までの計画の作成（計画策定は令和 2 年度を目標）

予算策定作業の中で、各キャンパスの事務部を中心に施設設備の整備について計画表を作成しているが、学園としての 10 年計画は未作成である。「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等も踏まえて検討を行う。

②施設・設備等一元的な管理・実行体制の整備

上記の計画に基づく整備であり、実行されていない。

【総合評価】

・事業活動収支差額(基本金組入前)の黒字堅持(事業活動収支差額比率 10%以上)については、令和 4 年度の事業活動収支差額比率は 2.0%であった。前年度 3.3%から減少しており、安定的な収入確保と経費支出の抑制により、引き続き目標達成を目指す。

・第 2 号基本金組入の計画的な運用については、第 2 号基本金を組み入れるための計画は未作成である。中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等に基づいて作成する学園の将来構想（計画）と併せて、第 2 号基本金を組み入れるための計画を作成する。

・令和 4 年度の人件費比率は 57.0%であった。前年度 57.5%から減少しているが、適正な定員配置、人事制度の見直し、給与制度の見直し等により、引き続き目標達成を目指す。

・各キャンパスの施設・設備等の新規・更新計画の策定（令和 4 年度）については、施設・設備等の新規・更新計画は未作成である。予算策定作業の中で、各キャンパスの事務部を中心に施設設備の整備について計画表を作成しており、これらの状況も踏まえ、中期経営計画Ⅳ推進組織である「10 年構想検討プロジェクト」の検討結果等に基づいて作成する学園の将来構想（計画）と併せて、施設・設備等の新規・更新等に関する計画を作成する。

８．　広報・学生募集活動の強化

８－１　広　報

法人事務局広報企画課長　　岡田　真次

【行動方針】

学生募集広報に特化したこれまでの広報を見直し、学園全体の総合的な広報を推進する体制により、情報発信の強化及び本学の PR 強化、並びに情報公開の一層の推進に取り組み、ブランド力の向上を図る。

【達成目標】

・広報企画会議を活用した情報の一元化

・マスコミに対する情報提供数の増（令和 6 年度までに令和元年度の 2 倍に増やす)）

・ホームページのアクセス数の増（対前年度比 3%増）

【取組内容の実際および評価】

① 新たな広報企画部門の設置

6 回の広報企画委員会議を実施し、施策の企画検討及び立案を行った。

【主な検討項目】

・学園広報及びホームページの内容充実

・ホームページの改修（入試情報ページなど）・新設

・SNS（学生広報 SNS、学園 SNS）の活性化策

・テレビＣＭの制作・放映、動画制作　など

② マスコミに対する情報提供

23 件のプレスリリース（ウクライナ子ども支援活動、連携協定、地元企業と連携した商品開発、公開講座など）を行った。新聞掲載（32 件）やテレビ放映などマスコミでの情報提供につながった。

ホームページの NEWS、TOPICS の情報提供件数は、NEWS は昨年度の 62 件から 122 件へ、TOPICS は 129 件から 302 件へと大幅に増加した。

新規事業では、大学・短期大学ＣＭ制作・放映と学生広報スタッフの SNS による情報発信を行った。大学・短期大学ＣＭは、テレビや街頭ビジョン、WEB 広告、ホームページ、YouTube により幅広い情報発信を展開した。学生広報スタッフは、25 人応募の学生により、全学科でインスタグラムを開設し、情報発信を行った。

② 大学 PR の強化

「ブランドメッセージ・デザインマニュアル」（令和元年度作成）に基づき、全学でブランドメッセージ「SMILE 人に笑顔を、自分に笑顔を。」により「対人援助」をアピールする体制が定着しており、ホームページや学科広報紙（チラシ・パンフレット）など、さまざまな広

報媒体への活用を行った。

③　情報公開の推進

ホームページで公開している情報を、学内組織の役割分担によりチェック・更新作業を行い、最新情報の掲載に努めた。また、入試情報ページの全面改訂（６月公開）や教員紹介ページの全面改訂（３月公開）、オープンリソースページや学生広報スタッフページ、教学支援センターページなどを新設し、内容の充実を行った。

④　ブランド力の向上

上記①から④の取り組みにより、本学の「強み」や「特色」をアピールした。

【総合評価】

①　広報企画会議を活用した情報の一元化

広報企画委員会（兼ホームページ管理委員会）により、広報施策の企画検討及び立案を行うとともに、ホームページ管理を組織化することにより円滑に運営した。

②　マスコミに対する情報提供数の増（令和５年度までに令和元年度の２倍に増やす）

マスコミに対する情報提供（プレスリリース）数は 23 件で、目標数値を概ね達成した（令元年度 12 件）。これにより新聞掲載 32 件（令元年度 6 件）・テレビ NEWS6 件につながった。今後も引き続き様々な媒体により全学で連携した情報発信に努める。

③　ホームページのアクセス数の増（対前年度比５％増）

ホームページのアクセス数は、前年度 1,491,350 アクセスに対し、今年度 1,445,740 アクセスで対前年度比 3%減であった。

８－２　学生募集

学生部長　廣兼　孝信

【行動方針】

入学支援センター会議を中心として学生募集活動を進める。具体的には、ホームページ（導く）、大学案内（見せる）、オープンキャンパス（体験）を学生募集の３本の矢とし、これらによって学修成果の可視化を図り、全学科定員確保を目指す。

【達成目標】

・大学・短大全体としての定員の確保
・オープンキャンパス参加者数の確保
・受験対象者の本学認知度の向上

【取組内容の実際および評価】

（１）学生募集活動の強化

① 学生募集に繋がるホームページの充実

前年度に大学全体のホームページをリニューアルし、受験生サイトを新設した。このサイトにおいて初めて動画（学科紹介と在学生が語る学科の魅力）を公開したが、今年度は「在学生が語る学科の魅力」を各学科１名追加で公開した。

新入生アンケートでは、コミュニティ生活学科 91.5%、食物栄養学科 94.5%、保育学科 93.1%が本学ホームページに対して好印象を持っていることが判明した。

また大学の魅力を伝えるために、ホームページに多くのトピックスをアップした。(大学共通７本、コミュニティ生活学科 31 本、食物栄養学科 30 本、保育学科 32 本)

② 魅力的な大学案内の制作

2022 年度版(2022 年入学生用)からこれまでの制作業者を変更し、学び中の在学生と活躍中の卒業生を見せて、将来の自分を想像させながら学科の特徴を示す内容で制作した。今年度はその２年目であった。新入生アンケートでは、コミュニティ生活学科 97.6%、食物栄養学科 98.1%、保育学科 88.6%が本学大学案内に対して好印象を持っていることが判明した。

③ オープンキャンパスの内容充実と集客強化

今年度は、新型コロナウイルス感染症への対策を取りながら、事前予約なしで自由参加とした。これにより参加者数が増加することを期待したが、コミュニティ生活学科で受験対象者 239 人、保護者 127 人、計 366 人、97.6%、食物栄養学科で受験対象者 124 人、保護者 65 人、計 189 人、保育学科で受験対象者 152 人、保護者 70 人、計 222 人となり、コミュニティ生活学科と食物栄養学科が微増、保育学科は減少した。

各学科で内容を工夫し、毎年改善していることで、参加者からは好評を得ており、新入生アンケートからも入学動機につながっていることがわかる。

④ 高校生の動向を注視した学生募集活動

接触者数の増加に向けて、本学保有データに業者保有データを加えたダイレクトメール発送（4回）のほか、高校生が頻繁に利用するLINEやWeb広告等で本学を知ってもらい、ホームページに誘導した。

（2）学生募集活動の質の向上

① 的確なデータ収集・分析を基にした学生募集活動の実施

接触者データを、ダイレクトメール発送、集計、分析、高校訪問、オープンキャンパス集客などに活用した。また、学科でまとめる希望者情報データをオフィサーに提供し、高校訪問で情報収集と出願依頼に活用した。さらに毎年、新入生に志望動機調査を行い、募集戦略の評価と対策を行っている。これにより、各学科の訴求ポイントが募集に直結していることを確認した。

② 他大学の学生募集動向の注視

特に近隣の大学のホームページや情報公開や、進学業者等により情報収集を行い、強みの確認と弱みの改善に役立てている。

③入学支援センター会議を通じて、学生募集の意識の向上

各学科から広報担当が入学支援センター会議に毎回出席し、募集戦略に関するアドバイスを受け、それを基に改善を続けていいる。また大学を含めた他学科の募集活動も参考にしている。

④受験対象者の認知度を高めるための本学園広報との連携

学園のブランドイメージ「SMILE」（人に笑顔を、自分に笑顔を。）を、大学案内やオープンキャンパス等での説明スライドに入れるなど、本学のイメージや認知度を高めることを行っている。

また大学案内のリニューアルに合わせて「SMILE」に次のような意味を持たせることによって、さらなるイメージアップを図った。

Support（学生サポート）
Mind（心・精神）
Inttelligence（知性）
License（資格・免許）
Expert（専門性）

（3）高等学校との信頼関係強化

① オフィサーによる高校訪問

新型コロナウイルスの影響で、オフィサーの高校訪問は様子を見ながら実施した。訪問が難しい場合は高校へは電話により高校の状況把握等を行った。高校訪問時には各学科が作成する資料の配付のほか、学科から提供された在学生状況により、学生の成長の様子を伝え、高校との信頼関係を継続できた。

① 教育職員による高校訪問

今年度は3学科が連携して重点校10校に訪問し、家庭科担当の先生に対して学科の魅力や

在学生情報を伝え、大変手ごたえが良かった。保育学科はこのほか5校に単独訪問した。

② 学校見学の積極的な受入れ

新型コロナウイルスの影響を収まりつつある中で、昨年度の3高校から12高校に大幅に増加した。

③ 高校内説明会への積極的な参加

高校での模擬授業等の回数は、コミュニティ生活学科11、食物栄養学科15、保育学科4であった。

【総合評価】

① 短大全体としての定員の確保

一昨年度は3学科ともに大きく定員割れとなり全体で8割の確保にとどまったが、昨年度は9割近く確保できた。しかし、今年度は再び8割を割り込む結果となった。

この一番の理由は保育学科が定員の4割しか確保できなかった確保できなかったことである。保育系希望者は全国的にも減少傾向にあるため苦戦が予想されたが、昨年度の60%確保からさらに落ち込んでしまった。一方でコミュニティ生活学科と食物栄養学科は定員を確保しており、保育学科の改革が急務となっている。

まずは対策の一つとして、募集定員の変更（保育学科100名→70名、コミュニティ生活学科80名→90名）を行い、大学全体として募集定員を20名減じた。

② オープンキャンパス参加者数の確保

自由参加に変更したにもかかわらず、参加者数は想定したほど増加しなかった。一方で、事前にだれが参加するかがわからなかったため、個別の細やかな接触ができなくなるという問題点が浮き彫りとなった。このことは、オープンキャンパス参加者の受験率前年比がコミュニティ生活学科で-12.2%、保育学科で-4.7%に表れている。しかし、食物栄養学科は+21.7%となっており、これは少ない参加者に対して学生や教員が細やかに接触した成果と言える。

そのため次年度は再び事前予約制とし、参加者の状況を把握したうえで（新規かリピーターか等）きめ細かな対応を行うこととした。

８－３　入学者選抜

入試本部長　廣兼　孝信

【行動方針】

文部科学省高等教育局長からの「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について（通知）」（平成 29 年 7 月 13 日付け）を受け、本学の入学者選抜において、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者の受入れの方針に基づき、「学力の 3 要素」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものへと改善する。

また「AO 一貫教育」を謳い、偏差値にとらわれず本学で学ぶ意欲のあるものを受け入れ、卒業時までに社会に通用する人材を育成する方針を堅持するため、今後も「AO 方式」の入学者選抜を中核に置く。

【達成目標】

・入学試験制度検討ワーキンググループ（平成 30 年度設置）の提言に基づく入学者選抜の円滑な実施と検証
・入学者選抜制度と奨学金制度の連動性・有効性の検証
・早期合格者に対する入学前教育と高大連携の在り方の検証
・入学者選抜システムの改善等による入学者選抜業務の効率化と経費の削減（入学者選抜業務 10％削減・経費 10％削減）

【取組内容の実際および評価】

（１）入学者選抜の円滑な実施と検証

① 学生募集要項と総合型選抜（AO）ガイドの見直し

入学者選抜制度の変更に合わせて、学生募集要項と総合型選抜（AO）ガイドを作成し、令和 4 年 6 月にそれぞれを公表した。

② 入学者選抜の実施時期・内容等の見直し

前年度に大幅な見直しを行ったため、今年度はほとんど変更しなかったが、総合型選抜（AO）において、保育学科では自己アピールに関して幅広く選択できるように改善した。

③ 他大学の入学者選抜の動向の注視

広島地区の他大学の入学者選抜に関する情報を分析し、必要に応じて学生募集要項等に反映させている。

（２）入学者選抜制度と奨学金制度の連動性・有効性の検証

① 現行の奨学金制度の有効性の検証

専門学科・総合学科出身入学者特別奨学金と家族入学特別奨学金は、募集において引き続き効果を発揮している

② 募集につながる奨学金制度の提案

成績優秀者特別奨学金の対象者数を学生数の 5%以内から 10%以内に拡充し（ただし授業料の減額は 10 万円から 5 万円に変更）、入学後の奨学金がもらえやすいという印象を与えるようにした。

（３）早期合格者の入学前教育と高大連携の在り方の検証

① 各学科と連携した入学前教育の有効性の検証

各学科から合格者に送付する課題に対して、入学前に取り組んでいるが、入学までの動機づけの継続につながっているかは十分に検証できていない。

② 高大連携推進委員会と連携した高大連携の在り方の検証

高大連携事業協力校 9 校の学校推薦型選抜合格者に対して入学前教育（送付課題への取組）の指導を依頼した。

（４）入学者選抜業務の見直し

① 入学者選抜システムの改善と円滑な運用

昨年度からの変更がほとんどなかったため、今年度もスムーズな運用ができた。

② 入学者選抜業務の効率化の推進

一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜において、高等学校長に対する合否通知を廃止し、業務の効率化を進めることができた。

③ 入学者選抜経費の削減の推進

上記の変更により、郵送料について経費の削減ができた。

【総合評価】

① 入学者選抜の円滑な実施と検証

昨年度に入学者選抜に関する国の方針に基づき、選抜の名称、実施時期、選抜方法など、大幅な見直しを行ったが、今年度もスムーズに実施できた。

② 入学者選抜制度と奨学金制度の連動性・有効性の検証

奨学金制度に対する国からの補助金制度が変更になったことから、本学独自の奨学金の拡張が難しい状況になっている。成績優秀者特別奨学金の改革がどれくらい有効であるか、時間をかけて検証していく必要がある。

③ 早期合格者の入学前教育と高大連携の在り方の検証

この重要性は今後ますます重要になってくるので、高大連携推進委員会を中心に積極的に推進する必要がある。

④ 入学者選抜業務の見直し

毎年の取組により、入学者選抜業務 10%削減・経費 10%削減の目標はほぼ達成できている。

９．　教学の質の向上

学生部次長（教務）　岡田 正浩

【行動方針】

本学の教育方針である「学習者中心の教育」に基づき、学生一人一人の夢を実現するために、教育課程・教育方法の改革・改善、学修成果の可視化、及び学習支援の強化により、教育の質保証を推進して、教学マネジメントの確立を目指す。

【達成目標】

・時代の変化に応じ、カリキュラム・ポリシーに則した教育課程の編成
・カリキュラムマップ・ナンバリングの活用
・統一様式によるシラバスの充実(アクティブ・ラーニング、学修法、評価方法等)
・アクティブ・ラーニングの推進
・全教育職員による授業公開・相互評価の実施
・学修成果可視化のための量的・質的データの分析・公表
・HBG 版学修履歴証明書の作成と運用

９－１　教学マネジメントの確立

【取組内容の実際および評価】

① ３つのポリシーとアセスメント・ポリシーの検証・修正

本学教育課程委員会において、広島文化学園短期大学及び３学科（コミュニティ生活学科、食物栄養学科、保育学科）の３つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）とアセスメント・ポリシーについて検証を実施。令和４年度及び令和５年度は、短期大学、３学科ともポリシーの変更はなく、現行のポリシーを基本とし教育内容、教育方法を実施していくことが確認された。

９－２　教育課程の改善

【取組内容の実際および評価】

① ３つのポリシーに基づく、教養教育・専門教育・キャリア教育・教職教育の充実

令和５年度（次年度）教養教育充実のため、情報教育及び教養教育全般について教養教育推進委員会において改定案が提出され、承認された。主に教養教育の科目が「生活と文化」「数理・情報」「コミュニケーション」区分に分類され、情報リテラシー科目の必須化、科目名・科目内容の変更等を実施した。専門教育では、コミュニティ生活学科では Web デザイン科目の強化を含め科目の追加・見直しが進められ、食物栄養学科では、新資格取得や製菓・製パンに関する専門選択科目の追加等が実施された。教職教育では、次年度教養科目変更に伴い科目名、教員の変更を含めて、教職に関わる適切な報

告、届出が提出された。さらに、教養教育推進委員会、教育課程員会を通して、短期大学リベラルアーツ教育を令和５年度からスタートさせ、改善、検討していくことが決定した。

② カリキュラムマップ、ナンバリングの検証とそれに伴う教育課程の体系化

新しい教養科目等についてマップが修正され、各学科の教養科目について統一化がなされた。

③ 統一された様式によるシラバスの作成と内容の充実

令和４年度において新型コロナウイルス感染症防止対策が継続する中、本学では対面授業を基本としながら、授業の適切な運用のため内容変更、講義順番の変更が実施され数回 C-learningd で実施した授業もあった。変更に伴い適切にシラバス変更がなされ、全授業の変更シラバスが提出された。

９-３　教育方法の改革

【取組内容の実際および評価】

① アクティブ・ラーニングの推進

令和４年度短期大学アクティブ・ラーニング実施状況は、「コメントペーパー・ミニッツペーパー」の利用が昨年度と同様に多かった。新型コロナウイルス感染症防止を継続する中でも、短期大学で積極的に活用されるアクティブ・ラーニング技法に変化はなかった。令和４年度は、全学科、開講授業 80%以上のアクティブ・ラーニング実施について数値目標は達成された。

② FD の高度化（授業評価・授業公開・FD 研修・HBG 版ティーチングポートフォリオ・教育改善委員等）

・授業評価アンケート

前期・後期とも対面授業を基本とする授業が展開される中、授業評価アンケート前期・後期とも授業評価アンケートは全授業 C-learning で実施された。授業評価の結果は教員がいつでも C-learning 上で確認することができ、授業評価アンケートの報告・分析結果は HP 公開された。

・授業参観（授業公開）

令和４年度、全授業において前期・後期とも対面授業での授業公開が実施された。授業参観におけるレビュー内容は、教員間で共有され各授業改善に活用された。

・HBG 版ティーチングポートフォリオ

令和４年度、短期大学全教員が統一書式によって HBG 版ティーチングポートフォリオ作成及びホームページ公開を実施した。

・教育改善委員

令和４年 9 月 29 日、教育改善委員（学生 6 名）と短期大学教職員 8 名をまじえ「学生参画型 FD 活動（学生の意見を聴く会)」が実施された。学生から教育上で重要な実例や教育実施について問題点、改善点などの情報交換がなされ、充実した話し合いができた。

・FD 研修

大学・短大 FD 研修会として 2023 年 3 月 3 日に「全学 FD・SD パソコン必携化に向けての取組みに関する研修会」が実施された。大学が中心に実施されているパソコン必携化に向けての取組み状況や改善について短期大学教職員も参加した。

③ デジタル技術を活用した教育の促進・対面とオンラインのハイブリッドによる質の高い教育の推進

令和４年度は、基本対面授業を実施、新型コロナウイルスの感染状況や、災害等によってC-learningを活用しながらの授業が展開された。学生への教育の質を落とすことなく授業が実施された。

④ 履修単位上限設定の適切な運用

本学の履修単位上限（１年間に履修できる単位数の上限は、４８単位）に則り、後期履修確定後に上限を超える学生のチェックが実施された。上限を超えて履修ができる①セミナーⅠ・Ⅱ、卒業研究・集中講義、学外実習科目の場合②直前の学期における GPA が 75.0 以上の場合③その他許可を得た場合等の確認が行われ、短期大学全学生が適切に履修していることが教育課程委員会で確認された。

9－4　学修成果の把握と活用

【取組内容の実際および評価】

① 学修成果の可視化と一元化による有効活用（成果の把握蓄積・分析・公開）

令和４年度短期大学では、学修成果の可視化のため、SPI テストを基本とする就職総合テストが実施された。2022 年後期に１年生が受験し、テストの結果は学生個人に返却するとともに、学生の結果を分析して評価の解説会をオンデマンドで実施した。個人分析結果は、３月卒業時に学修履歴証明書のデータとして活用された。短期大学では、データは蓄積され、キャリア教育や実際の就職活動にも活用された。

② 学生による授業評価の活用

学生による授業評価アンケートは、担当教員にフィードバックされ、一定の評価以下の教員には授業改善計画書を提出してもらった。令和３年度実施された学生による授業評価アンケート結果及び、令和４年度前期までの授業評価アンケート結果を比較、分析し各学科から評価、改善点を提出してもらい、結果は HP 公開された。令和４年度実施の学生調査アンケートにおいて、短期大学では、「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。」の回答は、「そう思う」、「ある程度そう思う」が約 70%であった。また、授業評価アンケートを活用して、学生参画型 FD 活動において意見交換が行われた。

③ 学修行動調査の実態・学習時間確保

本学の全授業シラバスには、具体的な自己学習時間が明記され、各担当教員が初回の授業において自己学習について指導を行っている。学生への授業評価アンケート質問項目　欠席、予・復習、意欲、知識の学生自己評価について教員間で情報共有し実態の把握に努めた。令和４年度「学生の意見を聴く会」では、授業等について自己学習確保について改善意見が出

された。

④ 学生の成長実感・満足度・意欲の向上

就職総合テスト（SPI）をもとに、学修履歴証明書が作成され学生の成長の可視化がなされた。授業における満足度・意欲については授業評価アンケート結果を分析し、各学科、授業で改善が行われた。「学生の意見を聴く会」で各学科教育改善委員（学生）のレビューによって向上が図られた。また、試行された全国学生調査結果分析においても学生の成長、満足度、意欲を測る指標となることが確認された。

⑤ HBG 版学修履歴証明書の作成とその運用

令和４年度短期大学学修履歴証明書は、学生の学業成績、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度、GPA、学生の「基礎能力」「パーソナリティ」について可視化、作成され、全卒業生に配布し、配布の際は各学科長から説明と指導が行われた。

９－５　学修支援の強化

【取組内容の実際および評価】

① 各学科の入学前教育の充実

平成５年度入学予定者へ各学科から課題を送り、入学前教育が実施された。課題内容は、各学科教育に必要となる基本的知識、技能が中心となり入学後教育へのスムーズな接続ができるよう対応を図っている。また、全学科、令和５年度入学予定者のための入学前ガイダンスを実施した。

② 各学科の教育課程に対応したリメディアル教育の計画・実施

短期大学では、教養教育においてリメディアル教育を実施している。食物栄養学科では、「基礎化学」「基礎生物学」は学生のリメディアル教育に重点を置いて実施されている。また、教養教育については、さらなる充実を目指して短期大学教養教育推進委員会で検討され、令和５年度教養教育を「生活と文化」「数理・情報」「コミュニケーション」に区分することとなった。特に「数理・情報」科目の「情報リテラシ―」を全学科必修科目とすることが決定され、数理データサイエンスを基本とする教育の充実が図られた。

【総合評価】

・時代の変化に応じ、カリキュラム・ポリシーに則した教育課程の編成

カリキュラム・ポリシーに則した教育課程の編成は、毎年教育課程委員会を中心に検討・改善されている。令和４年度は、全学科に関わる教養教育について、教養教育推進委員会を中心に検討され、令和５年度の新しい教養教育区分や共通科目について決定された。また、短期大学リベラルアーツ教育が令和５年度からスタートする予定。

・カリキュラムマップ・ナンバリングの活用

カリキュラムマップは、令和５年度新しく開設される科目を含めて教育課程委員会で検討され改善が行われた。ナンバリングは学生の学修成果可視化に活用された。

・統一様式によるシラバスの充実(アクティブ・ラーニング、学修法、評価方法等)

全教員が統一シラバス様式の基、学生に分かりやすく内容を明記するとともにHPによって公開された。令和４年度は、対面授業を基本とし、新型コロナ感染症や大雨等の災害を考慮しつつ、C-learning授業も活用された。前期・後期分変更シラバス提出することで授業形態変化にも対応できた。

・アクティブ・ラーニングの推進

全教員アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた授業を実施することができた。令和４年度は、対面授業を基本としたが、ハイブリット授業を考慮した授業技法の改善が多く見られた。

・全教育職員による授業公開・相互評価の実施

全教員最低１科目が授業公開され、教職員間で相互評価が行われた。評価結果は教員の授業改善に活用された。

・学修成果可視化のための量的・質的データの分析・公表

全学生が就職総合テスト（SPI）を受験した。試験結果を基に、学生の成長や学修成果の可視化、分析し実際の就職活動に活用することができた。

・HBG版学修履歴証明書の作成と運用

全卒業予定者に学修履歴証明書を作成、配布し、卒業式に各学科に証明書の解説及び活用について説明が行われた。令和５年度から、新２年生にも学修履歴証明書（途中段階）が配布予定であり、進路選択、就職活動での活用が期待される。

１０．　学生生活支援の強化

学生部次長（学生生活）　西川　勝利

【行動方針】

全ての学生が夢の実現を目指して、入学から卒業まで安心して充実した学生生活を送ることができるよう、教職協働により総合的に学生生活を支援する。そのために、学生生活支援センターを中心とした全学的な学生生活支援体制の強化・充実を推進する。

【達成目標】

・大学全体としての退学率 2%以下
・「学生生活の満足度調査」総合的な満足度（満足・やや満足）90%以上
・HBG 夢カルテの改善・各項目の記入 100%

１０-１　学生生活支援体制の強化

【取組内容の実際および評価】

① 学生生活支援センター、学生部会、キャンパス学生生活委員会、学科、チューター、および学生相談室、保健室の連携強化

・欠席学生に対する指導の強化

連続欠席学生については学科会で対応を協議し、記録に残す中でセンター会議に報告する形を継続し、情報交換をするなかで連携強化を図るとともに有効な指導・支援の在り方を検討した。今年度も、コロナ対応に伴う体調不良の欠席も多く、その対応について、必要に応じて学生相談室・保健室との連携にて適宜対応した。

・休退学の原因分析と有効な支援策の検討

各学科で昨年度の記録を基に休退学に至る原因分析を行い、支援策を検討する中で取組を進めるとともにセンター会議に学科毎に取組の進捗状況の報告を行い、情報共有とともに有効な支援策について意見交換した。

・学生相談体制の充実

令和元年度より配置された臨床心理士による相談も含めて、キャンパスでの取組をセンター会議に報告し、情報共有に努めた。

相談活動に係ってカウンセラーの意見も聴取する中で、学生が休学や退学に至るまでにそうした心配のある学生への働きかけを行うよう取組を進めている。

◎令和４年度の実績

	臨床心理士			保健室			ﾘﾓｰﾄ	備考
	延べ件数	実人数	昨年延べ件数	延べ件数	実人数	昨年延べ件数		
長束キャンパス	６９	５５	９８	５４４	１８９	６８３	５	

① 学生満足度調査結果の反映

・環境整備・学生支援体制の充実

調査時期については、卒業時、１年次終了時に実施した。回答方式を Google フォーム入力にし、調査結果の集計を委託した。

各学科で学生満足度調査結果のまとめを作成してセンター会議に報告し、各学科において、このまとめを踏まえた改善計画の策定等の取組を行っている。施設面については、各学科の要望に優先順位をつけてセンター会議で確認し、センターとして各キャンパスに予算要望の依頼をした。

② 障害学生支援の充実

・障害学生支援委員会を中心にした全職員による障害学生支援体制の充実

障害学生に関する理解深化を前提として障害学生支援委員会を中心に、全ての教職員で障害学生へ適切な支援ができるよう取り組んだ。

③ 自宅外学生の支援

入学時の自宅外通学生のためのオリエンテーションは、コロナ感染防止のため学科ごとに実施した。また、自宅外通学生の集いは飲食なしの形式で大学と共に実施し学科を越えて交流の場をもった。

④ 学生との相互コミュニケーション

学生が各チューターに相談しやすいようにオフィスアワーを設定し、学生とのコミュニケーションの推進を図るとともに、メール等による相談を積極的に活用して学生の相談に早期介入して状況把握に努めた。各キャンパスでの取組をセンター会議に報告し、情報共有に努めた。

１０−２　HBG 夢カルテの改善・活用

① 夢カルテの改善

・学生ポートフォリオ機能の充実

令和３年度後期学期終わりと令和４年度前期学期始め、令和４年度前期学期終わりと後期学期始めについて、夢カルテの活用状況を集約・点検し有効な活用を促した。

令和元年度から取組の始まった学修履歴証明書との連携等、センター会議を通して夢カルテの改善にむけて検討を進めている。１年生については、個人の目標に加えて、大学共通の目標、学科共通の目標を設定した夢カルテリーフレットを作成し、実施した。

取組の意義を踏まえて記述ができていない学生への指導の工夫等、各学科で取り組んでいることをセンター会議で情報交換するなかで効果的な指導となるよう検討している。

② 夢カルテ各項目の 100%記入と活用促進

・チューターによる個別指導の徹底

本年度も 100%の記入を目指して取組を進め、目標を達成している。チューターは定期的にアドバイスをしながら学生の夢の実現をサポートしている。

・活用促進体制の確立

取組の意義を踏まえて記述できるように各学科で工夫している取組についてセンター会議で情報交換した。学生が意識を高く持って活動記録等の記入をする中で次のステップにつながる記録となるように取組を進めた。

１０-３　経済的支援体制の強化

【取組内容の実際および評価】

① 国の授業料・入学金の減免制度、給付型奨学金への適切な対応のための体制の強化

国の修学支援制度の周知と適切な運用を図った。各キャンパスの奨学金運用について、センター会議で協議した。

② 日本学生支援機構奨学金制度への適切な対応のための体制の強化

日本学生支援機構奨学金制度については、奨学金説明会を開催し、奨学金の内容・手続き等について詳細に説明し、適切な対応ができるよう取り組んだ。学生支援緊急給付金については、学生を推薦し要件を満たした全員が給付金を受け取ることができた。

③ 学園奨学金制度・延納分納制度の適切な運用のための体制の強化

学園奨学金制度の周知と適切な運用ができるよう取り組み、また経済的理由により授業料の一括納入が困難な学生は、授業料納入計画を示したうえで延納分納制度を運用した。

④ 奨学金受給学生への支援の強化

奨学金受給学生へ適切な対応ができるよう取り組んだ。またチューターによる相談などの支援を行った

１０-４　自治会活動の支援の強化

【取組内容の実際および評価】

① クラブ活動の支援の充実

コロナ対策を徹底させる中でクラブ活動が継続できるように支援をした。各クラブの感染対策計画の作成等に係って教職員が指導・支援等をした。

② 大学祭・スポーツ大会等の支援の充実

大学祭・あかね祭は原則飲食を伴わない形で実施した。自治会役員とは話し合いを丁寧に行い、学生の意を汲んで進めた。スポーツ大会は人数制限をし、感染防止を徹底する中で実施した。

③ キャンパス間の自治会交流の支援

３つのキャンパスの自治会役員の交流会を実施し、意見交換をした。コロナ禍のなかでも可能な取組を、学生が考える機会とした。

【総合評価】

（１）大学全体としての退学率２％以下

退学率は、3.3%（昨年 2.2%）となった。欠席が目立つ学生への取組は組織的に進められているが、目標値を達成できていない。休退学の心配がある学生を早期に把握して支援できるように取組を進めたい。

（２）「学生生活の満足度調査」総合的な満足度（満足・やや満足）90%以上

学生満足度調査の卒業生の結果を見ると、93%（前年 86%）となった。領域で見ると教務・大学生活には高い満足度を示しているが、施設・設備全般と自治会活動の評価が低い状況であった。昨年度に続きコロナ禍のなかで学生の不安を解消できるようリモート相談にも取り組み、相談活動を充実する等、学生の支援に努めた。コロナ対応等に係るサポート体制の満足度は、82%であった。課題の施設・設備全般については満足度評価にある学生の要望をまとめて施設設備の改善に係る予算要望についてセンター会議を通して各キャンパスに依頼した。

（３）HBG 夢カルテの改善・各項目の記入 100%

本年度の前期の目標設定について全学科 100%の記入でスタートをした。記入できていない項目については、全て備考欄に理由を記載することができている。

また、１年生については、個人の目標に加えて、大学共通の目標、学科共通の目標を設定した夢カルテリーフレットを作成し、実施した。

さらに、学生が取組の意義を踏まえて記述するよう各学科で工夫している取組について、センター会議で情報交換した。学生が意識を高く持って活動記録等の記入をする中で次のステップにつながる夢カルテとなるように取組を進めた。

１１．　就職・キャリア支援の強化

学生部次長（就職）　石尾　はつみ

【行動方針】

「AO 一貫教育」の視点から、学生一人一人にしっかりとした職業観や人生観、生きる力、教養を身に付けさせ、希望する進路実現が図られるよう教職協働により総合的に学生を支援する。そのために、就職・キャリア支援センターを中心とした全学的な就職キャリア支援体制の強化・充実を推進する。

【達成目標】

・進路決定率 100%
・卒業後における定着状況の把握及び支援
・就職先企業アンケート「卒業生の資質（5 段階評価）」3.5 以上

１１-１　就職・キャリア支援体制強化

【取組内容の実際および評価】

① 就職・キャリア支援センター、キャンパス就職支援委員会、学科、チューターの連携強化

就職・キャリア支援センター、キャンパス就職・キャリア支援委員会、学科、チューターの連携強化を図り、センター会議において学園全体の視点から課題集約、改善策の検討等を行った。

② 学生情報、企業情報の共有

「就職・キャリア支援委員会」を定期的に開催し、センター会議の内容を共有するとともに、現状把握や学生支援の在り方を協議するなど、全学的な課題等として捉え、その解決に取り組んだ。学科の特性による多様な進路先があることから、就職に関する状況の把握という視点に立って情報の共有に努めた。

③ 保護者会の充実

キャリアセンター職員が保護者会に参加するとともに、チューターと連携し、きめ細かな対応を行った。

コミュニティ生活学科（3/12）、食物栄養学科（3/4）、保育学科（3/4）

１１-２　就職支援力の向上

【取組内容の実際および評価】

① 研修会の充実

学内の研修会は開催できなかった。センター会議において就職・キャリア支援アドバイザー

による研修を実施し、その情報をもとに学科ごとに学生支援の在り方について情報共有した。

② 各研修会への参加・普及

オンラインを含む下記の研修会へ参加し、他大学の就職支援体制等について情報収集した内容をセンター会議で報告し、情報共有に努めた。

企業と大学との就職セミナー（全国私立大学就職指導研究会）、全国キャリア就職ガイダンス（日本学生支援機構）、中・四国私立大学就職担当者連絡会、中四国支部分科会（日本私立大学協会）、就職部課長相当者研修会（日本私立大学協会）、キャリア教育・就職支援ワークショップ（日本学生支援機構）

１１-３　キャリア形成力の強化

【取組内容の実際および評価】

① キャリア教育の体系化

「就職・キャリア支援体制の強化」「就職支援力の向上」「キャリア形成力の強化」「企業等との連携強化」を具体化していく必要性を共通の課題として認識し、キャリア教育の体系化に取り組んだ。「対話の教育」「嚶鳴教育」を念頭に、キャリア支援科目を開講している。コミュニティ生活学科では「キャリアデザイン」「就職対策講座Ⅰ・Ⅱ」を開講、食物栄養学科、保育学科では、専門に関する教育科目が体系的キャリア教育へ繋がっている。また、キャリア支援体制の充実にあたり、専門的資格及び豊富な経験を有する就職・キャリア支援アドバイザーを配置し、幅広い情報収集とともに、企業開拓、学生対応及び教職員への助言等キャリア支援体制の充実に向けて取り組んだ。

② 卒業後における進路状況定着の把握及び支援

教学支援センター実施の「教育内容に関するアンケート調査」の質問項目に卒業後の進路動向に関する質問を追加し、令和 2 年 3 月卒業生（短期大学 213 名）を対象として調査を実施した。回答数は 21（回答率 10.7%）であった。

③ インターンシップの推進

「自分のキャリアを考える」について学生の理解を深めさせ、インターンシップの基礎づくりを行うとともに、インターンシップにかかる情報提供を行った。

④ 就職ガイダンスの充実

計画的に就職ガイダンスを開催し、就職活動の流れと要点、求人サイト登録会、卒業生座談会など、内容を工夫して取り組んだ。学科毎に実施することで、各学科の特性に配慮した支援に繋がった。

１１-４　企業等との連携強化

【取組内容の実際および評価】

① 企業情報の収集

学生による業界、業種、企業の研究が円滑に行われるよう、企業等との連携をさらに強化するために、企業情報サイト、就職・キャリアアドバイザーや新卒応援ハローワーク相談と連携し、企業等の情報を周知した。また、学内における企業等説明会を実施した。

② 企業開拓の推進

大学・短期大学と企業等との信頼のパイプの構築と企業等の求める学生の育成を支援していくことが必要である。パンフレット「求人のためのご案内」を作成し、広く広報に努めた。(12 月作成／2 月発送)

③ 卒業生に関するアンケートの実施

教育の効果及び学生が修得した学修の成果等を把握し、就職・キャリア支援の改善のため、卒業生の就職先へアンケート調査を行った。アンケート結果を各学科で共有し、課題と成果の把握、次年度へ向けての改善策や対策を検討した。学園経営企画会議、大学・短大協議会等に報告し、本学の教育内容にフィードバックし、更なる改善に繋がるように取り組んでいる。

１１-５　資格等取得の支援

①　看護師国家資格取得支援体制の強化

②　教員採用試験支援体制の強化

教員採用試験合格者や公務員（保育士）の輩出に向け、各学科との連携体制強化を推進するよう、短期大学では、コミュニティ生活学科における中学校教員採用試験受験者の面接試験対策をキャリアセンターで実施した。次年度も模擬面接等に限らず、他の項目についても指導を深めて、一層の充実を図る。

③　各種資格等取得の推進

取得可能な資格について、学部・短期大学ごとに整理し、ホームページに掲載した。短期大学では医療事務、PC スキル、栄養士、保育士等々、学生のニーズに応じて各種の資格取得につながるよう支援した。

【総合評価】

・進路決定率 100.0%

令和 5 年 5 月 1 日における進路決定率は、100.0%（就職 100.0%、進学 100.0%）であり、目標を達成した。各チューター及びキャリアセンター職員による個別面談、センター会議や就職・キャリア支援委員会における進路未決定者の個別確認等を実施し、学生へのきめ細かい個別支援を行うことができた。

・卒業後における定着状況の把握及び支援

教学支援センター実施の「教育内容に関するアンケート調査」の質問項目に卒業後の進路動

向に関する質問 4 項目を追加し、令和 2 年 3 月卒業生（213 名）を対象として進路定着状況調査を実施したところ、回答率は 10.7%（21/213）であった。離職率は 38.1%（8/21）であり、離職の内訳は転職 6 名・無職 2 名であった。回答率を上げる取り組みと、卒業後の支援について検討が必要である。

・就職先企業アンケート「卒業生の資質（5 段階評価）」3.5 以上

卒業生の就職先企業等へ「求める人材の要件」等のアンケート調査を行い、その結果については、学園経営企画会議、大学・短大協議会等に報告し、本学の教育内容にフィードバックし、更なる改善に繋がるように取り組んでいる。

評価の高かった項目（3.5 以上）は「意欲・熱意」、「学ぶ姿勢・向上心」、「責任感・誠実性・粘り強さ」、「コミュニケーション能力」、「協調性・チームワーク力」であった。一方、評価が低かった項目（3.4 以下）は「専門的知識・技能」、「一般常識・教養・マナー」、「パソコン操作等の能力」、「理解・判断力」、「問題解決能力」であった。

１２-１　地域連携

学生部次長（社会連携）　江坂　美佐子

【行動方針】

本学の教育目的に基づき、地域社会との連携の拠点として学生及び職員が地域の大学としての役割を果たすため、本学の知的資源・人的資源を活かした地域との連携、協働により、自治体が立案する各種施策の実施に貢献する。また、産業界との共同研究や受託研究等を通して、地域の活性化や企業の研究・開発・新規事業、雇用の創出を支援する。

呉地域オープンカレッジネットワークや教育ネットワーク中国といった「地域の教育コンソーシアム」における大学間連携・高大連携を通じて、地域社会の支援を推進する。

産学間、大学間連携事業への学生参加を通して、学生が主体的に行動し自主的に学ぶ仕組みを構築し、実践的な学修の場を提供する。

【達成目標】

・知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携、協働を図り、地域社会が抱える課題の解決に寄与し、また地域連携に関するノウハウを蓄積して、地域連携活動を具体化
・対人援助研究の強みを生かし、多様な考え方や価値観から生じる課題を有する地域社会のニーズに対応
・自治体、産業界（経済団体、企業）との包括連携協定による連携推進のための会議を定期的に開催し、地域連携事業を推進
・地域、企業や教育コンソーシアムと連携し、学生が主体的に地域と関わる課題解決型学習やフィールドワークを実施
・地域連携を活発化することで、本学の教育研究活動の高度化を促進し、地域関係機関、経済団体、教育機関等が連携できる体制、環境を整備、確立

【取組内容の実際および評価】

（１）自治体・住民・機関との連携

①本学園のアイデンティティの発信強化

HP に掲載される大学概要や情報公表、入試情報、就職・キャリア、社会貢献等の情報を更新し、本学園の評価の向上や学生募集における優位性を強化した。

②自治体、住民、機関のニーズ把握と連携事業の推進、確立

地元自治体、地元産業界等との包括連携協定に基づく協議会を通して随時ニーズを把握し、計画的に事業を推進してきた。長束西学区社会福祉協議会との連携事業「地域の高齢者を対象とした配食サービス」「高齢者のクリスマス食事会（代替イベント：学生手作りのお菓子のプレゼント）」を食物栄養学科で実施した。

③呉市、商工会議所等との包括連携協定に基づく連携推進会議を年 1 回以上定期的に開催し地域課題解決の取組を推進

既に包括連携協定を締結している団体に加えて、6 団体との協定を新たに締結した。この協

定団体一覧をHPに掲載して公表するとともに、包括連携協定に基づく協議会を随時計画的に開催した。

④学生が主体的に地域と関わる課題解決型学習やフィールドワークなどの科目を開設

「ボランティアⅠ」「ボランティアⅡ」（コミュニティ生活学科）の科目を開設して実施した。

（２）企業との連携

①企業との連携事業、共同研究の環境づくり

もみじ銀行との包括協定に基づき、寄付講義「新入生の金融教育」を開講した。地元産業界と連携し、共同事業を展開した(第24回お弁当献立コンテスト、食物栄養学科：(株)フレスタ))。

②インターンシップをはじめ、企業との連携強化

キャリアセンターを中心にインターンシップの基礎作りと企業との連携強化を行った。

（３）近隣教育機関との連携

①教育コンソーシアムへの参加

教育ネットワーク中国が主催する事業に次のとおり参画して実施した。

・単位互換科目の提供：1科目

・キャンパスレポーター：3名登録

呉地域オープンカレッジネットワーク会議主催の「学生の夢実現プロジェクト」への応募はなかった。

②高大連携の推進

高大連携事業に関する協定を結ぶ12校と協議会を行い高等学校が要望する事業を推進するとともに、教育ネットワーク中国が主催する高大連携事業に次のとおり参加して実施した。教育ネットワーク中国が主催する高校生のために特別に企画された公開講座を6講座（参加者88名）実施した。中高大連携講座「大学で何を学ぶか」では1講座（参加者29名）を実施した。

（４）地域におけるプラットフォーム体制の整備

①行政、住民、企業、大学(研究機関)の連携基盤(プラットフォーム)の整備、確立

令和4年度の私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献」の「地域連携型」の採択に向けて取り組んできた。

【総合評価】

・知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携、協働を図り、地域社会が抱える課題の解決に寄与し、また地域連携に関するノウハウを蓄積して、地域連携活動を具体化については、地元産業界と連携し商品の開発等に貢献することができた。

・対人援助研究の強みを生かし、多様な考え方や価値観から生じる課題を有する地域社会のニーズに対応については、地元自治体、地元産業界等との包括連携協定に基づく協議会を通して随時ニーズを把握し、計画的に事業を推進した。

・自治体、産業界（経済団体、企業）との包括連携協定による連携推進のための会議を定期的に開催し、地域連携事業を推進については、包括連携協定を締結する自治体や産業界を10団体

以上にすることを目標として取り組んできた結果、11 団体に増やし推進することができた。

・地域、企業や教育コンソーシアムと連携し、学生が主体的に地域と関わる課題解決型学習やフィールドワークを実施については、学生が主体的に地域に係る課題解決型学習やフィールドワーク等の授業科目を 2 科目開設した。また、教育ネットワーク中国主催の事業に参画し貢献することができた。

・地域連携を活発化することで、本学の教育研究活動の高度化を促進し、地域関係機関、経済団体、教育機関等が連携できる体制、環境を整備、確立については、地元自治体、地元産業界等との包括連携協定に基づく協議会を通して体制や環境を整備することができた。

１２-２　社会貢献

学生部次長（社会連携）　江坂　美佐子

【行動方針】

自治体、商工会議所をはじめとする関係機関とのネットワークを更に充実・強化し、地域の社会活動に貢献する。また、本学の知的資源や人的資源と地域社会のニーズをつなげ、本学の教育、研究成果を地域社会に還元する。

地域住民の文化的活動を支援するため、学習する意欲の啓発と学習機会の提供により、地域の生涯学習の中心になり豊かな生活の創造に貢献する。

【達成目標】

・本学が有する知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携を図り、地域社会が抱える課題の解決に貢献

・実践的な教育研究活動を通して持続的な連携事業の展開を実現するため、教育研究に関わる連携事業の成果を蓄積し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成

・学習機会提供のため、本学が有する知的資源、人的資源および施設・設備を活用し、リカレント教育や学び直し教育の展開、充実に貢献

・地域社会のニーズに応じた各種講座の開講

・学生及び職員の地域活動、地域イベント及びボランティアへの積極的な参加

【取組内容の実際および評価】

（１）　社会貢献活動の強化

①地域ニーズの収集と社会貢献活動の強化

地域の状況に応じた連携を推進した。教員の講師派遣等は 5 件（広島市健康づくりセンター、広島市立長束幼稚園、特定非営利活動法人 e 子育てセンター、広島市立伴東小学校、広島原爆被爆者療養研究センター）だった。職員の講師派遣は 9 件（広島市立口田中学校、広島市立亀山中学校、広島市立段原中学校、広島市立宇品中学校、広島市立城山中学校）だった。

②地域社会が必要とする人材の育成

「広島広域都市圏地域貢献人材育成事業」に「避難を伴う災害時に子どもが抱える課題と必要な支援を明らかにする活動」（子ども学科）が採択され、その活動成果をふまえ、社会連携センター主催の「防災ゲーム体験会」の公開講座を開催した。さらに、公開講座「ヒロシマと音楽」を社会連携センター主催で開催し、国内外からの来広者に対して「心で感じる観光」を提供できる人材、地域の観光産業を担う人材の育成 に取り組んだ。

③学生及び職員の社会活動への参加支援

次のボランティア活動に取り組んだ。

・第 8 回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島（コミュニティ生活学科 6 名）。

・順正寺こども園、こども発達支援センターひゅーるぽん(保育学科 3 名)

・ひろしま国際平和文化祭（コニュニティ生活学科 5 名）

・広島原爆被爆者療養研究センター主催、神田山荘フェスタ 2022「あなたの骨密度を測定してみませんか」（食物栄養学科の教員と学生 4 名）

・絵本のリサイクル活動（コミュニティ生活学科の教員と学生 8 名）

・ひろしまフードフェスティバル（食物栄養学科の教員と学生 9 名）

④教育研究活動を積み重ね、本学の地域性を発揮

子ども・子育て支援研究センターを設置し、利用を開放し地域の課題解決に貢献する体制を確保した。

（２） リカレント教育の充実

①地域の求める学び直しの場(学習機会)を整備、提供

リカレント教育改革プロジェクトにおいて、科目等履修生、履修証明プログラム等について令和 5 年度実施の観点から検討した。

②雇用保険法に規定する教育訓練講座等の開講

栄養士及び保育士の資格取得を目指した専門実践教育訓練講座の新設指定申請を行い、専門実践教育訓練として指定された。

③キャリア形成目的の学習機会(履修証明付きプログラム)を提供

リカレント教育改革プロジェクトにおいて、科目等履修生、履修証明プログラム等について令和 5 年度実施の観点から検討した。

④高齢者の学び直しにつながる定年後世代を主な対象にしたキャリア形成目的の学習機会（履修証明付きプログラム）を提供

実施しなかった。

（３） 公開講座の充実

(ア)生涯学習講座の実施

社会連携センターの講座として長束キャンパスの音楽園で 21 講座を開設し、36 名の受講があった。

【総合評価】

・本学が有する知的資源、人的資源及び施設・設備を活用し地域社会と連携を図り、地域社会が抱える課題の解決に貢献については、地域社会の発展に貢献できる人材育成や地域の求める学び直しの場の整備及び提供等を通して貢献することができた。
・実践的な教育研究活動を通して持続的な連携事業の展開を実現するため、教育研究に関わる連携事業の成果を蓄積し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成については、教育研究に関わる連携事業の成果をふまえ、地域防災や地域経済活性化に貢献できる人材育成に係る 2 事業を実施した。
・学習機会提供のため、本学が有する知的資源、人的資源および施設・設備を活用し、リカレント教育や学び直し教育の展開、充実に貢献については、栄養士・保育士養成のための教育訓練講座を申請し認可された。
・地域社会のニーズに応じた各種講座の開講については、生涯学習のための公開講座を開催した。
・学生及び職員の地域活動、地域イベント及びボランティアへの積極的な参加については、第 8 回スペシャルオリンピックス広島大会に学生がボランティアとして参加するとともに、地域行事等にも多くの学生が積極的に参加し、高い評価を得ることができた。

１３．　図書館

図書館長　萱島　隆之

【行動方針】

ディプロマ・ポリシー（知識・理解，汎用的技能，態度・志向性，総合的な学習経験と創造的思考力）を支える場として、学術情報資源を提供し、学生の主体的な学修と教育職員の研究という知的生産を支援する図書館機能を確立する。

【達成目標】

・図書館利用の活性化（利用比率増）
・教育研究資料の安定した収集（学生数に応じた図書費確保）
・学内知的生産物のリポジトリ登録率 100％維持

１３-１　学生の学習支援

【取組内容の実際および評価】

① 教育のカリキュラムに直結した図書・学術雑誌・視聴覚資料他の資料の整備

・カリキュラムに直結した書籍等 1,278 冊の登録を行った。昨年整備した保育学科・音楽学科の教員選定の楽譜を展示し活用を促した。また企画展示「SDGs を学ぼう」として入門書を中心に展示し、学生へ SDGs の取組みを考えるきっかけとした。食物栄養学科では図書委員の活動のもと、試食室にレシピ本を置き図書館の出張展示を行った。

② 授業の終了時間を考慮の上、学生の教育研究上の支障がないよう延長開館を実施

・今年度は、新型コロナ感染対応による休館等はなかった。しかし、雨天など予期しない事態もあり、開館日数は前年比 6.9％増であった。開館期間には学習環境の提供の場として延長開館を継続した。また、17 時以降の利用者は 1,252 名で 64.5％増加した。

③ ラーニング・コモンズやノートパソコンなどの施設設備が有効に活用され、アクティブラーニングが導入された能動的な学習が深化するように支援

・ラーニング・コモンズ利用状況は 1,188 名（32%増）で、少人数のゼミや資格・就職のミニ講座、食品表示検定試験など同じ目的に向かって勉強するグループ学習に利用された。
・レポート作成や卒業研究制作などに利用できる館内貸出ノートパソコンを用意し、アクティブラーニングの学習に向けて利用されている。ノートパソコン利用回数は 990 回（27％減）であった。

１３-２　教育職員の研究等の支援

【取組内容の実際および評価】

① 国立情報学研究所や他大学図書館・諸機関と連携して、多様な学術サービスを共有し速やかな文献入手体制を整備

・他大学間相互貸借制度へ昨年に継続して参加し、文献複写では、他大学からの受付とともに他大学への依頼件数があった。

② 学内知的生産物を収集・情報発信していくため、広島県共同リポジトリ機能の安定化

・広島文化学園短期大学紀要 Vol.55（論文 7 点）をリポジトリに登録(登録率 100%)した。

・広島県共同リポジトリが令和 5 年度内の運営中止が決定され、他大学とともに国立情報学研究所のリポジトリ（JAIRO Cloud）に移行することになった。そのため、次期システムの移行スケジュールに沿って参加組織への申請、データ移行を進めている。

１３-３　学術情報環境整備

【取組内容の実際および評価】

① 紙媒体資料の目録データを整備するとともに、図書等や施設・設備を整備

・資料の収集・蓄積・提供・学術図書中心の蔵書構築と計画的な除籍サイクルを実施し、年度末には登録数が 66,164 冊となった。

・感染症予防対策として、昨年に引き続き座席数の 30%削減、閲覧机のパーテーション設置、室内換気と机・ドアノブ・PC などの消毒を毎日実施した。

② 学術研究・教育の多様化に対応した、電子リソース（電子ジャーナル、電子書籍、データベース等）の情報資源の充実

・電子書籍配信サービス（Maruzen eBook Library）の試読サービスを年 2 回（3 か月×2 回）実施し、アクセス回数は 2,341 アクセス（前年比 14.6%増）となった。SPI や一般常識・保育士受験の問題集、AI 関連書・解剖生理等の分野が読まれた。また、電子書籍を授業の課題として紐づけ、利用を促進する取り組みとして、辞書を引かずに読めるレベルの英語多読リーディングのタイトルを 106 点購入し、授業課題を整備した。図書館新システムの機能により、学内外からの閲覧が可能となった。

③ 図書館ネットワークの情報整備基盤を確立、図書館新システムの構築・充実

・日立製作所から㈱リコーへのデータ移行に際して，データの大きな紛失等がないことが確認された（4 キャンパス備品データ約 20.5 万件)。

・図書館新システムの構築打合せを㈱リコーと司書 3 名がオンラインで 21 回行った。6 月には ㈱リコーが来広の上，管理者講習会を開催し、司書が参加して必要な技術を修得した。

・新 OPAC を中心に教員・学生に広報を行ったところ，検索からの図書取寄せ希望が 359 件寄せられた。例えば長束から郷原や坂の図書取寄せ希望があるなど，キャンパスを越えて蔵書活用の活性化が見られた。

１３-４　地域連携

【取組内容の実際および評価】

① 地域利用者の公開、本学施設の活用や地域住民の受入れ

・新型コロナ感染対策のため、学外利用者の入館を制限した。

② 公共図書館と大学図書館との連絡を通じた情報交換

・広島県共同リポジトリの運営中止にともなうデータ移行に関して、他大学図書館・諸機関と連携して次期ジポジトリについての情報交換を行った。

【総合評価】

・新型コロナ対応による入構制限措置がなくなり、20,868 名（22.0%増）と入館者増に結びついた。天候等による予期せぬ休館や昨年に引き続いた座席数減もあったが、達成目標である利用比率増に至った。

また、オンラインによる電子書籍や試読サービスなどへのアクセス数は 2,341 アクセス（前年比 14.6%増）となり、紙資料目的の入館者だけでなく図書館利用者が伸びた。さらに少人数ゼミにラーニングコモンズの利用人数が前年比 32%増加し、図書館利用の活性化が図られた。

・教育研究資料の安定した収集では、学生数に応じた図書費の確保により、教育のカリキュラムに直結した図書・学術雑誌・視聴覚資料や電子書籍、データベースなどの資料を収集することができた。また、新図書館システムの OPAC のマイライブラリーから図書取寄せ機能で蔵書を予約することが便利になり、図書館利用が促進した。

・今年度は、国立情報学研究所のリポジトリ移行に伴い、他大学図書館・諸機関と連携して、多様な学術情報サービスを共有し速やかな文献入手体制を維持した。学内知的生産物である紀要などのリポジトリ登録は 100%完了した。広島県共同リポジトリが令和 5 年度内の運営中止が決定され、国立情報学研究所のリポジトリ（JAIRO Cloud）に移行することになった。今後のデータ移行による登録率 100%が維持出来る体制を組んでいる。

１４．システム

システム開発管理センター長　岡　隆光

【行動方針と取組内容】

（１）学園ネットワーク運用整備

①次期リプレース(2023 年度実施)を円滑に実施するための準備、計画的な実施

現行システムのリース期間を 1 年間延長する。そのため、2023 年度からの運用となる次期システムの構築に向けて必要な手順を整理し遅延なく作業を進めていく。

②Wi-Fi 環境を見直し、より利便性の高い環境を提案

継続して規格や製品の動向を調査する。

③センターホームページを積極的に活用し、個人が利用できる本学 ICT ツールの紹介や、よくある質問の情報を公開することで、ユーザーの利便性を向上

利用者のユーザービリティ向上と情報整理を目的としたセンターホームページの全面更新を行う。引き続き学園の ICT サービス情報をわかりやすく発信する。

取組実績と成果

・広島文化学園 e キャンパス構想に基づき、2023 年度の学園ネットワークシステムのリプレースを進めてきた。6 月利用者アンケート、7 月仕様書作成、8 月業者仕様説明会を実施し、9 月 20 日業者提案プレゼンテーション後提案内容と金額を精査し業者を選定した。

・12 月よりネットワーク・サーバー・クライアントそれぞれの構築作業を実施した。

・3 月 24 日～26 日の 3 日間で新システムの入れ替えを実施した。

・必携 PC 利用開始に向け無線 LAN 環境状況調査を実施し脆弱と思われる箇所に AP 増設を実施した。（長束 12 ヵ所、坂 4 か所、阿賀 5 ヵ所）

・ホームページに最新の情報を更新している。

・令和 5 年 4 月 3 日の合同職員研修会でシステムリプレースに関する説明を実施した。

（２）情報セキュリティ対策

①規程、ポリシーの見直しを行い、日々進化していく情報セキュリティに対応

最新の情報セキュリティ情報を収集する。

②インシデント情報の共有と緊急対応手順を確立し、情報セキュリティの更なる強化を実施

教職員に対する外部サービスを利用し標的型メール攻撃を実施し利用者のセキュリティ意識向上を図ると共に CSIRT 設置に向け協議を進める。

③情報アクセス権の見直しを行い、情報セキュリティの強化を実施

学園内の不要アカウントの整理を実施することで大学情報ネットワークのセキュリティを向上させる。

取組実績と成果

・各サービスのセキュリティパッチを適応し大学情報セキュリティの維持管理を実施した。

・日々システムから報告されるマルウェア被害状況をリアルタイムに監視し、対象者に注意喚起を行った。

（３）研究教育支援拡充

①ICT ヘルプデスクの拡充を行うことによる、本学職員のコンピュータスキル向上

対面授業、オンライン授業、ともに役立つ ICT 情報を適宜提供し授業の質の保証に運営の支援を行う。

②FD・SD に対する ICT 支援の実施

ICT ヘルプデスク拡充。通常のヘルプデスクに加え ICT 活用の積極的な講習会を実施する。

取組実績と成果

・月間平均 250 件のユーザーサポートを実施した（10 月：283 件、11 月：269 件、12 月：218 件、1 月：267 件、2 月：229 件、3 月 246 件）

・支援業務充実に向け ICT 支援員の役割と管理について見直し、2023 年度からの ICT 支援業務委託契約を契約した。

（４）HBG システムの拡充

①教学支援センターを始め関係する組織と連携を図り、デジタルを活用した教育の推進に取り組む。

②現在稼働している教務中心の HBG システムを拡充し、新たに財務・会計システム及び学生サービス用のポータルサイトを加えた学園システムの構築を目指す。このため、製品サービス導入を視野に、関係する組織と緊密に連携して作業を進める。

③障害対応への迅速化を図りシステムの安定稼働を支える保守運用に取り組む。

取組実績と成果

・広島文化学園ｅキャンパス構想に基づき教務システム改革を進める。現作業中の学園ネットワークシステムリプレース計画の業者選定が終了後、学園システム改革検討組織である学園システム検討委員会で協議を開始する。

・システム利用時の障害対応を円滑に実施した。（5 件）

【総合評価】

（１）学園ネットワーク運用整備

目標に挙げた３項目総てについて、目標を達成した。

・次期プレースを円滑に実施するについては、業者を選定し、2023 年 4 月 1 日稼働に向けネットワーク／サーバー／クライアント環境のシステムリプレース作業を実施した。作業はスケジュール通り実施され、3 月 24 日～26 日の一斉切替を経て新システムに移行完了。

・Wi-Fi 環境の見直しについては、必携 PC 利用開始に伴った措置として、本学基幹回線の増強と全学無線 LAN 環境の増強を実施した。

・ホームページに更新を都度実施し最新の情報を提供している。

（２）情報セキュリティ対策

目標に掲げた３項目について取り組み、セキュリティに関する問題が発生しない状態を維持した。

・特にエンドポイントアプリケーション ESET を使い、アラートが出たユーザーに対してリアルタイムで注意喚起を行う事で、セキュリティインシデント発生防止に努めた。

・今後の課題として、インシデント情報の共有化と緊急対応手順の確立がある。

（３）研究教育支援拡充

目標に掲げた２項目について積極的に取り組み、学園内の IT スキルの向上に貢献した。

・授業支援システム（C-Learning）の学生利用率 90%の目標に対して、利用率は常に 98%を示しており全学部生が利用している。残りの 2%は大学院生。

・8 月に ICT 支援員を講師として、全教職員向けに GAS（Google Apps Script）の有効利用講習会を実施した。

・利用者支援サービスとして 2,800 件を超すヘルプデスクサービスと 8,000 件を超す PC の貸出業務を行い、本学の ICT 利用促進を支援した。

・必携 PC 利用開始に伴いより一層多岐にわたる質疑が寄せられると思われので、より質の高い支援を目指し ICT 支援のスキル向上を目指す。

（４）HBG システムの拡充

・今年度は、教学支援センターを始め関係する組織と連携を図り、デジタルを活用した教育の推進に取り組んで来た。HBG システムの拡充については、システムリプレース計画を中心に行ってきた。次年度は、広島文化学園 e キャンパス構想に基づき、関係する部署と協力しながら現在稼働している教務中心の HBG システムを拡充し、新たに財務・会計システム及び学生サービス用のポータルサイトを加えた学園システムの構築を目指す。

１５．　ＩＲ

IR 推進センター長　松元 健治

【行動方針】

学長を中心とした教学マネジメントの強化による内部質保証を中核とした IR 機能を充実させ、情報の収集、調査・分析を組織的に行うとともに、各種データの一元管理を推進し、教学と経営に関する政策形成を支援する。

【達成目標】

・IR 業務の段階的整備、データの一元管理体制の構築
・研修などへの積極的な参加、IR 業務のためのレベル向上
・学生の成長を評価し、その評価を可視化できるようなシステムの構築

（１）IR 業務の段階的整備、データの一元管理体制の構築

各センター・委員会等の取り扱いデータ集約の再確認を実施する一方で、教学支援センター・入学支援センター・学生生活支援センターからピックアップした、全国学生調査、新入生アンケート、学生満足度調査、休退学に関するデータ等について、調査目的、調査項目、分析方法等をセンター会議で確認し、見直しやフィードバックを展開した。この内容を理事協議会に報告した。

（２）IR 業務に求められる職員の資質向上

担当部署のデーターからピックアップして、IR 推進委員・専門委員の立場で、データの目的、調査項目、結果の整理と分析、改善策などの適切性をチェックする作業を行うことで、IR データの分析体制の推進を図ると共に、職員の IR 資質向上に努めた。

オンライン実施の研修会も含めて情報をメンバー間で展開し、情報共有を図った。

大手前大学・短期大学と共催で IR 研修会を開催した。本学からは、IR 組織体制の構築状況、PROG の活用等についての報告、大手前大学・短期大学からは、BI ツールによる分析手法についての報告がなされ、両大学の IR 機能充実に向けた課題や改善方策について、相互に指導助言を行った。

（３）学生の成長プロセスを可視化できるシステムの構築

令和 4 年度版の学修履歴証明書作成については、教学支援センター・システム開発管理センターと連携して、様式の確定、学生本人による入力作業等を進め、大学 3 年生には計画通り配布を終了し、大学及び短大の卒業生については、学位記授与式にて配布した。

（４）情報の収集及び分析を通じた学園経営及び大学運営への支援

全国学生調査、新入生アンケート、学生満足度調査、休退学に関するデータ等について、調査目的、調査項目、分析方法等をセンター会議で確認し、見直しやフィードバックを展開した。

看護学部推進会議における IR 活動について、センター会議で取組状況を共有し、効果的な

分析方法等について検討を行った。

【総合評価】

○IR 業務の段階的整備、データの一元管理体制の構築。

IR データの分析体制の推進と職員の IR 資質向上を目的に、IR 推進委員・専門委員の立場で、データの目的、調査項目、結果の整理と分析、改善策などの適切性をチェックする作業を行い、チェック内容を各委員の所属部署へフィードバックした。

○研修などへの積極的な参加、IR 業務のためのレベル向上

オンライン実施の研修会も含めて情報をメンバー間で展開し、情報共有を図った。

大手前大学・短期大学と共催で IR 研修会を開催し、両大学の IR 充実に向けた課題や改善点について、相互に指導助言を行った。

○学生の成長を評価し、その評価を可視化できるようなシステムの構築

令和 4 年度版の学修履歴証明書作成に向けて、教学支援センター・システム開発管理センターと連携して、様式の確定、学生本人による入力作業等を展開した。次の段階として、学部・学科等の組織としての学修成果達成度の測定にも資するよう展開を拡充する。

１６．　リスク管理

事務部長　冨永　泰三

【行動方針】

永続的な学園運営を遂行するため、経営の規律、誠実性を堅持しつつ、法令を遵守することはもとより、職員一人一人が高い倫理観を持つよう徹底する。

職員及び学生の危機管理意識の向上を図るとともに危機管理の組織体制、職員の役割、情報の連絡体制、事前・事後対策を周知・徹底することで、危機事象発生の未然防止を図るとともに、発生時には迅速な対応を行う。

【達成目標】

・リスクマネジメントの強化（危機事象発生の未然防止及び発生時の適切な対応と再発防止の徹底）

・監査体制強化（内部監査体制を強化し、法令遵守の徹底）

・組織倫理の確立（コンプライアンス意識の定着、高い倫理意識を持ったモラル・モラールの向上）

【取組内容の実際および評価】

（１）リスクマネジメント体制の強化

①危機管理マニュアルの周知・更新

・①危機管理マニュアルを，災害等の危機対応勤務体制とあわせて周知した。

②危機に対する組織体制及び責任体制の見直しと強化

・災害等の危機対応勤務体制について，異動等を踏まえ，見直しを実施した。

・新型コロナウィルス感染拡大に対応するため，国及び県等の方針を踏まえ，遅滞なく全学の危機管理対策本部会議や経営企画会議を開催して方針を決定した。

・新たに顧問弁護士契約を締結し，争訟等への迅速かつ適切な対応を図ることで，リスクの発生を未然に防止した。

（２）監査体制の強化

①監査計画の立案

・本学園の経営状況や周辺環境を注視しつつ、効果を最大限に発揮できることを念頭に，7 月に開催した監事協議会（監事、法人事務局）で本年度の監査計画を作成した。

②監査の実施

・監査計画等に基づいて、監事は年度を通して、監査法人は第 3 四半期から翌年度第 1 四半期まで監査を実施した。

③内部監査の充実、監事との連携

・令和 4 年度監事監査計画と合わせて内部監査計画を作成し、監事と連携しながら内部監査（定期監査）を実施した。

（３）組織倫理の確立

①規程の整備・運用

・理事会及び理事長並びに学長のガバナンスコードについて，毎年度理事会の議題とするため，内容の確認と見直しを図っている。

・「科学研究費助成事業ガイド～公的研究費の不正防止計画～」を毎年見直しを図っている。

②学園コンプライアンスの確立と周知

・毎年度，理事会等において，ガバナンスコードの徹底に努めている。

・全職員を対象としたFD・SD研修を実施する中で，法令遵守の精神を醸成した。

・「広島文化学園ハラスメントの防止等に関する規程」に則ったパンフレットを作成し,全職員に配布した。

③研修・訓練の実施

・全職員を対象に，日本学術振興会のプログラムを利用した研修を実施し，また，同じく全教職員を対象に，利益相反に関する誓約書の提出を求めるなどして，研究活動における不正防止を徹底した。

・研修の都度，反復的に法的根拠の確認を行うなどして，法令順守の精神の醸成に努めた。

・懲戒やハラスメントに該当する案件や争訟が生起したが，それぞれ適正に対応し，会議などでの報告を通して，注意喚起を図った。

（４）情報の公開

・ホームページや情報公表並びにポートレートを更新し情報公開した。

１７．　自己点検・評価

ALO　矢野下　美智子

【行動方針】

大学の教育の質の向上を図るため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自己点検・評価を行い、その評価結果の情報を公表する。

PDCA サイクルに従って自己点検・評価の結果分析を踏まえて検証を行うことにより、教育の内部質保証の充実を図る。

【達成目標】

・大学機関別認証評価における「適格」認証の評価を獲得する。
・認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を毎年度作成する。
・自己点検・評価報告書に記載した内容について、評価するに止まらず PDCA サイクルを確実に実践する。

１７-１自己点検・評価の徹底

【取組内容の実際および評価】

① 本学の自己点検・評価に関わる組織の点検及び評価

令和元年度、一般財団法人短期大学基準協会から認証評価の適格認定を受け、その後も自己点検・評価に関わる組織と規程及び実施細則の点検を実施している。

② 内部質保証のための本学の組織整備

自己点検・評価の中核に内部質保証を位置付けて、自己点検・評価委員会を中心にそのための組織体制を整備している。

③ 内部質保証のための本学全体の PDCA サイクルの機能性確保

短大の内部質保証を促す PDCA サイクルの確立のための組織づくりを行い、責任体制の明確化と機能性確保に努めた。

１７-２　自己点検・評価による PDCA サイクルの確立

【取組内容の実際および評価】

①中期経営計画に基づいた自己点検・評価についての年度事業計画を策定(Plan)

【教職員個々人の年度目標の策定】

短期大学の自己点検・評価委員会で、各教職員の年度目標策定を促し、その集約を行った。

②年度事業計画に基づく適切な事業の実施(Do)

【教職員個々人の年度目標達成への取り組み実施】

策定した目標達成を目指して、センター等各部署及び教職員の取組みを実施した。

③ 実施事業について中間及び年度末の自己点検・評価の実施(Check)

【教職員個々人の年度目標達成への取り組み実施後の自己点検・評価の適切な実施】

実施事業について教職員個々人の中間及び年度末の自己点検・評価を実施した。

④ 自己点検・評価に基づく課題の明確化と改善策の次年度計画への反映(Action)

【教職員個々人及びセンター等各部署による年度目標への取り組み実施後の点検・評価に基づいた次年度の課題への反映】

個人と組織の年度目標策定と実施後の自己点検・評価を計画的に行い、PDCA サイクルの確立を推進した。

１７-３　機関別認証評価の受審

【取組内容の実際および評価】

(ア)短期大学基準協会（短期大学を評価）による令和８年度認証評価受審（第４クール）に向けた対応準備、備付資料データ等の更新・蓄積

短期大学は、短期大学基準協会による令和８年度認証評価受審に向けて、提出資料及び備付資料データ等の更新・蓄積を進めている。また、認証評価の適格認定を目指した内部質保証を達成するため、毎年度、自己点検・評価報告書を作成しており、本年度も本学規程に基づき自己点検・評価の作業を計画的に行った。

１７-４　内部質保証のための仕組みづくり

【取組内容の実際および評価】

内部質保証への取り組みを効果的に実施するため、恒常的な組織体制を整備し、責任を明確化する。

① 内部質保証のために自己点検・評価体制を確立する

【自己点検・評価、PDCA サイクルの仕組みの確立と機能性確保】

短期大学基準協会で定めている内部質保証の基準に従い、PDCA サイクルに該当する具体的な事項と組織体制を明確化した。また学生の学修成果の可視化に向けて学修履歴証明書の作成作業を進めた。

１７-５　教職員個人、各部署及び大学全体による PDCA サイクルの確立

【取組内容の実際および評価】

① 教職員個人による年度目標作成と実施後の自己点検・評価の実施と上席者による評価

② 本学各部署による自己点検・評価の適切な実施体制の確立及び責任体制の強化

③ 学生による PDCA サイクルの確立支援

教職員及び各部署による目標設定、実施後の自己点検・評価を集約した。また HBG 夢カル

テ、授業評価アンケート、学修履歴証明書等により、学生による自己点検評価体制の充実を推進した。

【総合評価】

・認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を毎年度作成

令和元年度の認証評価後、毎年度、一般財団法人短期大学基準協会認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を作成している。

・自己点検評価・報告書の点検内容について、評価することに止まらずPDCAサイクルを実践

大学・短期大学協議会等で各部署の自己点検・評価の中間報告と最終報告を集約し、学園全体で課題の明確化と共有化を推進している。

【参考資料】

令和４年度卒業生

卒業研究

～セミナーの指導について～

本学では 2 年次に「卒業研究」を設け、セミナー担当教員が研究論文や作品制作等をきめ細かく指導し、卒業前に成果を公表する場を用意している。単位数は通年で 2 単位だが、卒業するための必修科目としていることから、みな真剣に取り組んでいる。この「卒業研究」は、短大生活の総決算として学業を締め括る意味からだけでなく、困難に思える課題を克服する喜びや達成感を味わい、一人ひとりを大きく成長させるために、セミナー担当教員も真剣に対応している。

令和４年度卒業生の研究成果は、以下のとおりである。

(1)コミュニティ生活学科

研究テーマ	学生氏名		（指導教員名）
			（海切　弘子）
コーヒーの味の比較	泉　結菜	韓国の食文化	藤川こと美
カフェの不思議	伊藤　美羽	発酵食品はなぜ食べられるのか	文野　里美
和食の秘密	岡村　美優	フルーツはなぜ甘いと酸っぱいがあるのか	水谷　夏海
コミュニケーションで大切なこと	岡本　朱音	米の秘密	森川　梨乃
Hiphop の歴史	久保　桃花	どのようなパンが好まれやすいのか	山本　雅
ファッション流行の時代背景	杉浦玲菜		
ユニバーサルファッションの提案			（佐々本　惠万）
	水本　杏菜	柏原　理沙	髙野　花里
「ファッションと美容領域の研究」について			（高橋　佑子）
大本　七海	東田　愛海	木村　麻緒	藤井　咲綺
斎藤　百音	細田　菜摘	佐々木　夕凪	正木　麻衣
清水　明日花	溝隈　蘭	菅原　七彩	山口　百桃

住田　彩音 田中　暖乃	山﨑　莉奈 山田　由梨花	髙井　喜礼里 西村　優里	山下　昇華
			（酒井　浩司）
未来社会に向けて暮らしの意識を高めるコミュニティ施設の提案	岩﨑　日和	未来社会に向けて暮らしへの意識を高めるコミュニティについての考察（その 1）	千田　理生
ファッションとアパレル業界の現状とサスティナブルファッションの動向調査と考察	石川　穂乃花	SDG s 「飢餓をゼロに」に関する基本概念に基づく動向調査	正木　緋音
日本における SDGs 目標 5「ジェンダー平等」の基本概念の調査と考察	杉原　百音		
第 24 回卒業制作ファッションショーのフライヤーデザインの提案			（廣兼　孝信）
ロドリゲス　ナミエ 楠部　夕夏 蛇持　朋花 中島　寿梨	松本　有沙 正化　奈々花 吉本　大憲 小山　紗知	世古口　利代 野間　楓 村上　裕菜	立田　月莉佳 益田　優香 吉永　真彩
			（廣澤　美花）
料理とケーキ	上田　侑璃奈	幅広い結婚式のドレスの種類	小土井　美友
ヘアメイクとブーケ	奥　花菜子	演出	中西　穂乃香
ナチュラルをテーマにしたウェディングプラン―テーブルコーディネートとフラワーアレンジメントを中心に―	細谷　幸未		
Beauty and the Beast	木下　菜穂 森岡　栞	長藤　桃香 山本　楓花	箕岡　璃子
FLOWER GARDEN	河上　愛美 樋口　ゆり愛	川村　彩 山田　里子	田畑　姫加

(2)食物栄養学科

研究テーマ	学生氏名	（指導教員名）

料理動画			（石尾 はつみ）
久保　涼香	近藤 日奈詩	徳永　梨良	南角　　萌
半田 香須美	福田　紫音		
祇園パセリのメニュー開発（第 13 報）			（江坂 美佐子）
上向井 若菜	大澤　彩乃	佐々木 亜美	竹谷　理沙
武田　菜恵	西林　莉音	松田　弥優	丸山　水琴
宮野　未羽	村上　晴菜	山根　奏音	
広島県産フルーツを使った子どもと作れるアレルギー対応レシピ			（江坂 美佐子）
新沖　和也	細木　唯花	山下　彩希	
高野豆腐パウダーを利用したクッキー制作			（岡田　正浩）
尾濱　遥菜	坂井　和真	矢口 竜矢	吉原　千夏
カカオニブからのチョコレート試作			（萱島　隆之）
宇野　夏希	勝部　優芽	菅野　　夢	
麹の世界へようこそ～発酵調味料とその効用について～			（萱島　隆之）
大貫 あかね	大屋　那波	佐藤　沙耶	
一人暮らし学生のための時短レシピ考案			（村田 美穂子）
赤坂　太一	江浦　雅美	松本　　萌	山本　未唯
吉岡　心乃			
アイスクリームについて			（村田 美穂子）
岡崎　静雅	野中　千遥	藤井　汐音	

(3)保育学科

研究テーマ	学生氏名		（指導教員名）
いろいろな音を体験しよう			（辻　勇介）
鎌倉　菜月	桑原　茉里歩	富原　春香	中野　弥映
西川　瑠奈	福永　菜七	福永　真白	藤下　真衣
八坂　星奈			
手作り人形で遊ぼう ～「おおかみと七ひきのこやぎ」～			（末次　絵里子）
大西　毬愛	佐々木　萌	定井　美静	末澤　美都
田中　理紗子	細木　日莉	本田　彪真	村上　和
村上　万結	村上　莉央		
子どもの楽しいを引き出すボールを使った遊び			（金子　忍）
今田　萌花	盛谷　奈々	瀧口　亜弥	谷口　優里
中西　向日葵	樋口　愛	藤川　美生	山内　愛子
山中　沙織	山本　愛華		

絵本作りを通した絵本理解			（班　　婷）
楠木　彩華	黒川　雛可	中島　怜香	中之前　遥
橋本　華依	平尾　凜	廣瀬　風花	三浦　そよか
吉田　こころ			
絵本を題材とした身体表現作品～オズの魔法つかい～			（矢野下美智子）
浅枝　ひなた	池田　彩夏	岡本　唯衣	児玉　朔理
中端　優菜	成戸　愛莉	正木　凛	益野　優海
三浦　未櫻			
折り紙から学ぶ！～子どもたちにもたらす影響～			（西川　勝利）
上條　瑞希	上田　涼夏	改崎　舞南	上東　和沙
清水　希	松永　桃華	松原　未夢	湯川　詩月
和田　彩里			
植物を楽しむ～草木染編～			（柞磨　昭孝）
川手　瑞葵	木村　しずく	澤岡　真優	正木　綾音
森谷　葉奈	康田　琴海	横山　朋香	脇本　有咲
和田　真紀			
笑顔が広がる造形活動～手作りおもちゃ～			（清見　嘉文）
青木　雅	桂　夕奈	岡崎　瑠里	岡本　莉子
斎藤　星奈	田邊　彩香	土井　美咲	永田　歩花
野上　那奈	山田　楓花		

満足度調査結果

学生部次長　西川　勝利

1　調査目的

本調査は、学生の学生生活全般に関する満足度及び学習成果の自己点検を調査するとともに、学内の施設・設備等についての意見及び要望を参考にして、今後の改善に向けた指針を得ることを目的とする。

2　調査時期

令和５年２月～4 月

3　調査対象

在学生（短期大学１年生)、卒業予定の学生（短期大学２年生）

学科	1 年生	2 年生
コミュニティ生活学科	77 名	60 名
食物栄養学科	39 名	39 名
保育学科	63 名	67 名
合計	179 名	166 名

4　調査方法

自記式の調査用紙（無名式）

5　調査内容

1）満足度調査

６つの領域を設定し、【大学共通項目】と【学科毎の項目】について調査を行った。

領域（1）教務　（2）学生生活　（3）キャリアアップ　（4）自治会活動

（5）施設　（6）総合

［4 段階評価］

1：「不満」　2：「やや不満」　3：「やや満足」　4：「満足」

2）学習成果の自己点検

各学科のディプロマ・ポリシーに相当する項目を設定し調査を行った。

［4 段階評価］

1：「身に付かなかった」　2：「あまり身に付かなかった」　3：「まあまあ身に付いた」

4：「身に付いた」

2022年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

1．調査回答者

１年次　７７名

2　調査結果

1）満足度調査

領域	項目	1. 不満		2. やや不満		3. やや満足		4. 満足		0. その他		計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人	0%	2 人	3%	34 人	44%	41 人	53%	0 人	0%	77 人
	授業	1 人	1%	4 人	5%	27 人	35%	45 人	58%	0 人	0%	77 人
	授業科目が豊富で充実していた	1 人	1%	6 人	8%	24 人	31%	46 人	60%	0 人	0%	77 人
	自分の将来の目標や適性にあわせて科目を自由に選べるのがよかった	1 人	1%	3 人	4%	23 人	30%	50 人	65%	0 人	0%	77 人
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた	3 人	4%	6 人	8%	23 人	30%	45 人	58%	0 人	0%	77 人
	入学前に期待したとおり(または期待以上)の授業や指導を受けられた	5 人	6%	6 人	8%	33 人	43%	33 人	43%	0 人	0%	77 人
学生生活	教員のサポート体制	1 人	1%	2 人	3%	26 人	34%	48 人	62%	0 人	0%	77 人
	職員のサポート体制	1 人	1%	2 人	3%	23 人	30%	51 人	66%	0 人	0%	77 人
	チューターのサポート体制	0 人	0%	1 人	1%	19 人	25%	57 人	74%	0 人	0%	77 人
	自分でチューター(セミナー)を選べるのがよかった	0 人	0%	1 人	1%	12 人	16%	64 人	83%	0 人	0%	77 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	2 人	3%	2 人	3%	17 人	22%	56 人	73%	0 人	0%	77 人
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ	0 人	0%	3 人	4%	25 人	32%	49 人	64%	0 人	0%	77 人
	コミュニティ生活学科に入学してよかった	1 人	1%	6 人	8%	19 人	25%	51 人	66%	0 人	0%	77 人
	入学してきた時よりも成長した	0 人	0%	7 人	9%	19 人	25%	51 人	66%	0 人	0%	77 人
	コロナ対応に係るサポート体制	5 人	6%	5 人	6%	30 人	39%	37 人	48%	0 人	0%	77 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	0 人	0%	5 人	6%	39 人	51%	33 人	43%	0 人	0%	77 人
	資格取得支援体制	0 人	0%	3 人	4%	30 人	39%	44 人	57%	0 人	0%	77 人
自治会活動	大学祭	4 人	5%	14 人	18%	30 人	39%	29 人	38%	0 人	0%	77 人
	スポーツ大会	9 人	12%	16 人	21%	31 人	40%	21 人	27%	0 人	0%	77 人
	自治会活動全般	4 人	5%	7 人	9%	37 人	48%	29 人	38%	0 人	0%	77 人
施設	図書館	0 人	0%	4 人	5%	32 人	42%	41 人	53%	0 人	0%	77 人
	食堂	3 人	4%	13 人	17%	26 人	34%	35 人	45%	0 人	0%	77 人
	保健室	0 人	0%	5 人	6%	32 人	42%	40 人	52%	0 人	0%	77 人
	学生相談室	0 人	0%	4 人	5%	35 人	45%	38 人	49%	0 人	0%	77 人
	施設や設備全般	8 人	10%	17 人	22%	27 人	35%	25 人	32%	0 人	0%	77 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人	3%	5 人	6%	28 人	36%	42 人	55%	0 人	0%	77 人

※「その他」は、無回答だったものです。

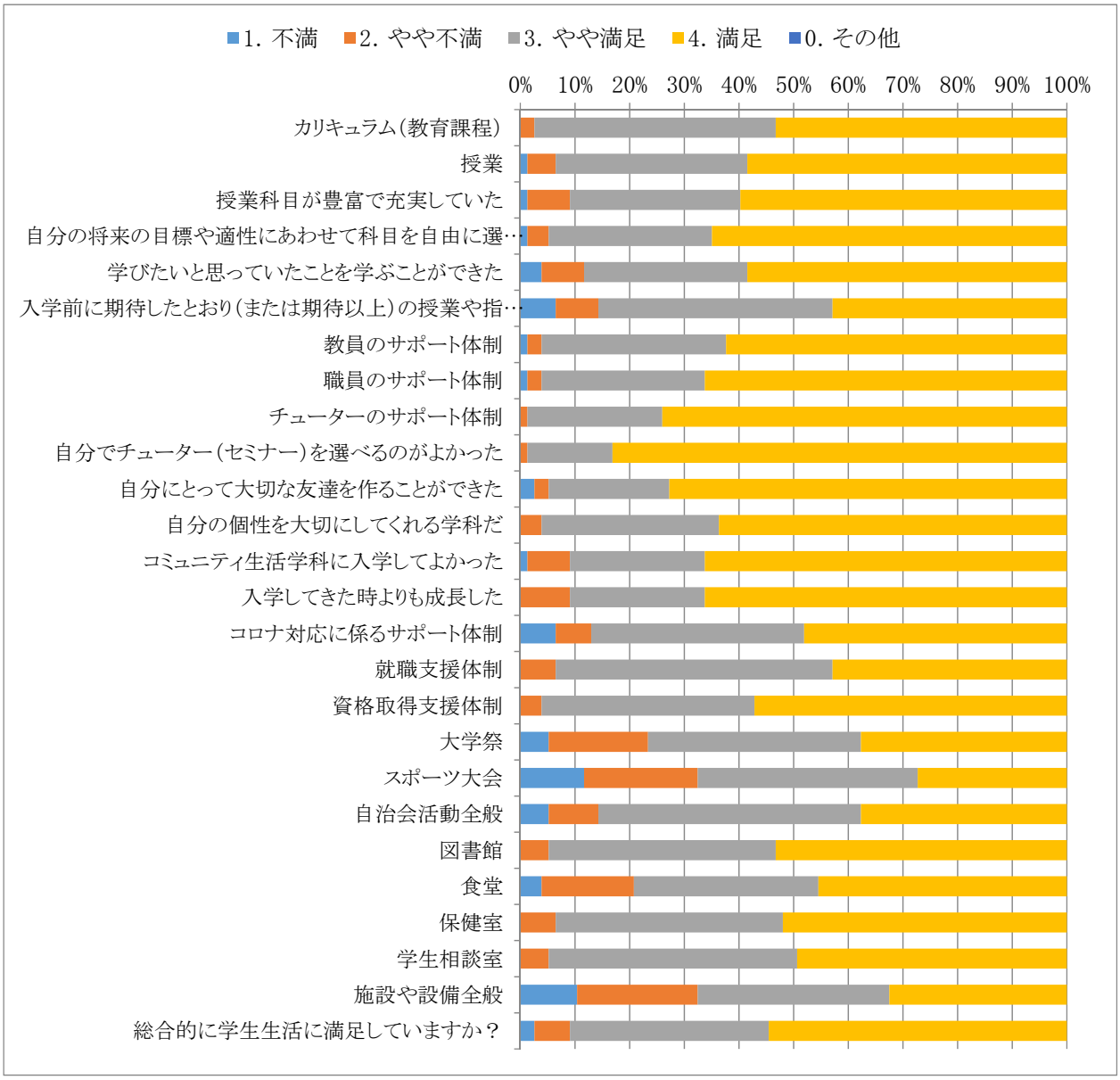
2）自己点検

項目	1.身に付かなかった		2.あまり身に付かなかった		3.やや身に付いた		4.身に付いた		0.その他		計
専門的な知識や技術を身につけることができた	1 人	1%	4 人	5%	30 人	39%	42 人	55%	0 人	0%	77 人
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた	0 人	0%	5 人	6%	28 人	36%	44 人	57%	0 人	0%	77 人
人と積極的にかかわれるようになった	3 人	4%	5 人	6%	30 人	39%	39 人	51%	0 人	0%	77 人
社会や地域など、だれかのために役立ちたいと考えるようになった	1 人	1%	2 人	3%	36 人	47%	38 人	49%	0 人	0%	77 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長がった	0 人	0%	4 人	5%	34 人	44%	39 人	51%	0 人	0%	77 人
短大生活を通して精神的に成長した	1 人	1%	3 人	4%	31	40%	42 人	55%	0 人	0%	77 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人	0%	6 人	8%	34 人	44%	37 人	48%	0 人	0%	77 人

※「その他」は、無回答だったものです。

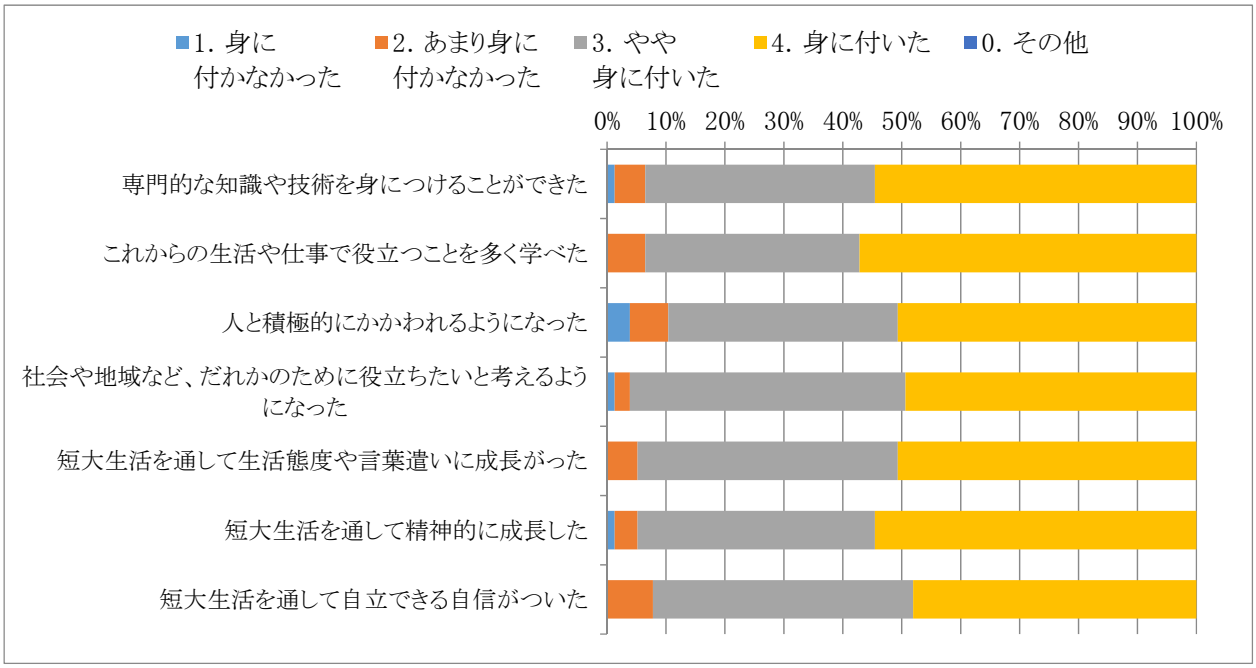
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- 留学に対してのサポートについて知りたい
- たのしかった。
- 資格が沢山取れるところが良かった
- たくさん検定取得ができたので良かったです。
- もう少しインターンなどの説明や就職活動に対するサポートが欲しいです。
- とても充実した生活ができたので良かったと思います！これからも充実した生活ができるようにしたいです！
- 前期は頑張れたけど後期は頑張れなかった
  授業でこれは無駄じゃないのかって思うところもあった(製菓実習のレシピをわざわざ先生が実践するところをメモしてグループで伝えるところなど。)
  食堂がもう少し安くなったら嬉しいです。
  友達はあまりできなかった
- 自分の好きな授業が選べてよかったです。
- 楽しかったです！
- 友達と楽しく過ごしています。
- 素敵な生活を送ってます😊
- 友達と楽しく学生生活を送ってます
- とても楽しい学園生活送らせて頂いております。
- 自分がしたい科目が被っており、どっちかに絞らないとできなかったのが少し残念でした。
- とても充実した1年でした。
- いろんな科目が学べて楽しいです！

・　授業のカリキュラムの中で取りたい授業が重なりがちで諦めた科目も何教科かあったのでできるだけ被らないようにしたり2回開講してくれると嬉しい。
冬あたりにWi-Fiの環境が悪くスマホが使いにくかったので整えてほしい。
食堂の席数が増えると間隔が空いて落ち着いて食事ができる。
コロナ欠席が欠席としてカウントされるので成績に響くのは正直しんどかった。
休みたくて休んでいるわけではないので課題等で巻き返すチャンスがほしい。
・　この1年で沢山の分野の資格をとれて将来の幅を広げることができてよかったです。
・　ネイルとかメイクを学べたり美味しい料理を作れたりした
・　入学する前に思っていた授業の感じと違ったので残念でした。
取りたい授業が重なってどっちかに絞らないといけなかったのでそこも残念でした。
・　コロナで休んだとしても普通の休み扱いになるし、休まないといけない場合の時でもそれを気にしてしむう。コロナやその疑いがあってや休む場合は普通の休み扱いにしないでほしい。
あと校舎が汚い。エレベーターをつけてほしい
・　入学してよかったと思う
・　もう少し、インテリアについて学びたい。
・　オンライン授業がいつでも出来る体制を整えて欲しい。私たちにその設定の仕方を教えて欲しい。以前オンライン授業をしていたのなら今も出来ないことないと思う。
悪天候による交通機関の乱れは自分ではどうしようも出来ないし、命を守る行動を取れと世間で言われているのにも関わらず、体を張ってまで学校に来ないと欠席にされる理由が分からない。家族の送迎となっても家族の命まで危険に晒されてしまう。学校に行きたくても行けない人の気持ちを考えて欲しい。もっと遅延やコロナ、インフル感染した際、考慮することを大切にしていただきたい。

5　まとめ

1）満足度調査

（1）状況と課題

①　状況

・すべての項目で、「4. 満足」が多かった。
・「自分の将来の目標や適性にあわせて授業を自由に選べるのがよかった」が 65%で、「4. 満足」が一番高く、次いで、「授業科目が豊富で充実していた」で 60%であった。
・学生生活の項目はすべて、「4. 満足」が高かった。「自分でチューター（セミナー）を選べるのがよかった」が 83%と全体でも一番高かった。
・キャリアアップの項目は「資格取得支援体制」57%が「4. 満足」と回答した。
・自治会活動の項目「自治会活動全般」について「4. 満足」が 36%と低かった。
・施設の項目では、「施設や設備全般」については、「4. 満足」が 32%だった。
・「総合的に学生生活に満足していますか？」については、55%が「4. 満足」36%が「3.やや満足」と回答した。

②　課題

昨年度の１年生より全体的にすべての項目で満足度が高く、特に満足度の高い３つも項目「自由に科目を選べること」(27%上昇)「チューターを自分で選べること」(15%上昇)「チューターのサポート体制」(26%上昇)。自由に授業を選べるように調整していくこと、チューターの細やかな指導を継続していくことが大切であると考える。

（２）要因分析

対面授業で学修してきた１年間で、学生生活については「コロナ対応によるサポート体制」を除くすべての項目で満足度が高い要因は、対面授業により学習意欲が維持しやすかったことや、実習科目を２回開講にするなど授業の制限を最小限にできたことによるのではないか。チューターによるきめ細やかな指導は継続してきており、満足度が高くなったと考える。

（３）本年度の対策

更に満足度を高めるため、具体的に人との関りが深まり、自分に自信がもてるように、授業の取り組みを通して工夫していきたい。

自己点検評価は１年次より２年次で高くなっている傾向があるので、２年次の実践的な学びに期待する。

２）自己点検のまとめ

「専門的な知識や技術を身につけることができた」「人と積極的に関われるようになった」「短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった」「これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた」「短大生活を通して自立できる自信がついた」の５項目で、「4. 身に付いた」は 51～57%、「3. やや身に付いた」も合わせると評価が高く、90%をこえていた。

この学年は、対面授業中心で学ぶことができたため、人との関りや身に付いたと自分自身の成長を１年間で実感できた学生が多かったと考える。

2022 年度 学生生活の満足度調査結果（コミュニティ生活学科）

１．調査回答者

２年次　６０名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	1 人 2%	18 人 30%	41 人 68%	0 人 0%	60 人
	授業	0 人 0%	1 人 2%	22 人 37%	37 人 62%	0 人 0%	60 人
	授業科目が豊富で充実していた	0 人 0%	1 人 2%	13 人 22%	46 人 77%	0 人 0%	60 人
	自分の将来の目標や適性にあわせて科目を自由に選べるのがよかった	0 人 0%	0 人 0%	8 人 13%	52 人 87%	0 人 0%	60 人
	学びたいと思っていたことを学ぶことができた	0 人 0%	4 人 7%	17 人 28%	39 人 65%	0 人 0%	60 人
	入学前に期待したとおり(または期待以上)の授業や指導を受けられた	1 人 2%	3 人 5%	18 人 30%	38 人 63%	0 人 0%	60 人
学生生活	教員のサポート体制	1 人 2%	2 人 3%	17 人 28%	40 人 67%	0 人 0%	60 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	1 人 2%	21 人 35%	38 人 63%	0 人 0%	60 人
	チューターのサポート体制	1 人 2%	1 人 2%	12 人 20%	46 人 77%	0 人 0%	60 人
	自分でチューター(セミナー)を選べるのがよかった	0 人 0%	1 人 2%	8 人 13%	51 人 85%	0 人 0%	60 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	0 人 0%	0 人 0%	14 人 23%	46 人 77%	0 人 0%	60 人
	自分の個性を大切にしてくれる学科だ	0 人 0%	1 人 2%	15 人 25%	44 人 73%	0 人 0%	60 人
	コミュニティ生活学科に入学してよかった	0 人 0%	1 人 2%	15 人 25%	44 人 73%	0 人 0%	60 人
	入学してきた時よりも成長した	0 人 0%	2 人 3%	16 人 27%	42 人 70%	0 人 0%	60 人
	コロナ対応に係るサポート体制	5 人 8%	9 人 15%	17 人 28%	29 人 48%	0 人 0%	60 人
キャリアアップ	就職支援体制	0 人 0%	6 人 10%	23 人 38%	31 人 52%	0 人 0%	60 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	1 人 2%	20 人 33%	39 人 65%	0 人 0%	60 人
自治会活動	大学祭	2 人 3%	9 人 15%	29 人 48%	20 人 33%	0 人 0%	60 人
	スポーツ大会	3 人 5%	7 人 12%	29 人 48%	21 人 35%	0 人 0%	60 人
	自治会活動全般	1 人 2%	7 人 12%	30 人 50%	22 人 37%	0 人 0%	60 人
施設	図書館	0 人 0%	4 人 7%	20 人 33%	36 人 60%	0 人 0%	60 人
	食堂	0 人 0%	3 人 5%	21 人 35%	36 人 60%	0 人 0%	60 人
	保健室	0 人 0%	1 人 2%	20 人 33%	39 人 65%	0 人 0%	60 人
	学生相談室	0 人 0%	1 人 2%	25 人 42%	34 人 57%	0 人 0%	60 人
	施設や設備全般	1 人 2%	5 人 8%	27 人 45%	27 人 45%	0 人 0%	60 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	1 人 2%	1 人 2%	16 人 27%	42 人 70%	0 人 0%	60 人

※「その他」は、無回答だったものです。

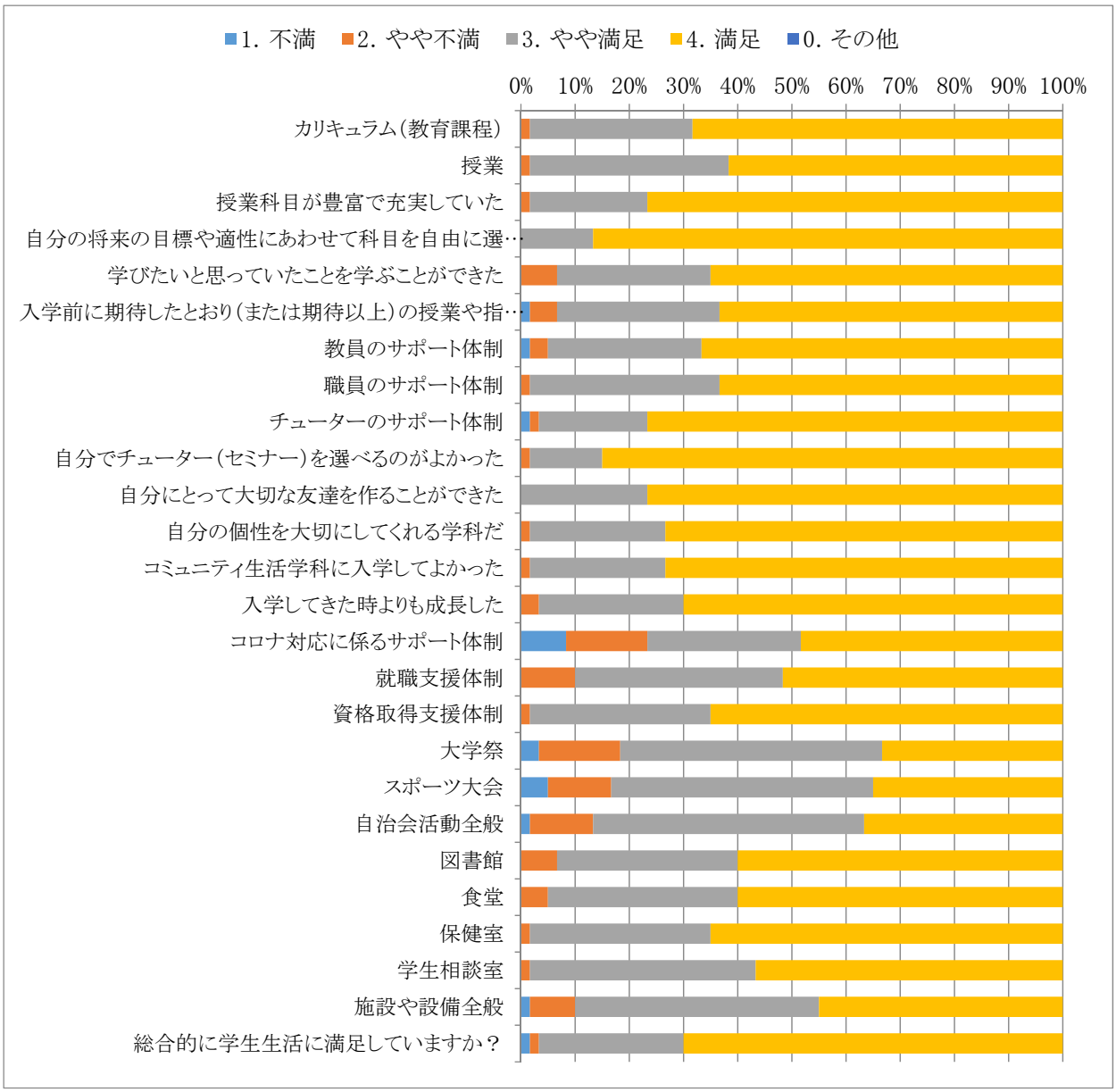
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	2 人 3%	22 人 37%	36 人 60%	0 人 0%	60 人
これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた	0 人 0%	2 人 3%	18 人 30%	40 人 67%	0 人 0%	60 人
人と積極的にかかわれるようになった	0 人 0%	4 人 7%	20 人 33%	36 人 60%	0 人 0%	60 人
社会や地域など、だれかのために役立ちたいと考えるようになった	0 人 0%	1 人 2%	20 人 33%	39 人 65%	0 人 0%	60 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長がった	0 人 0%	3 人 5%	18 人 30%	39 人 65%	0 人 0%	60 人
短大生活を通して精神的に成長した	0 人 0%	3 人 5%	22 37%	35 人 58%	0 人 0%	60 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人 0%	5 人 8%	17 人 28%	38 人 63%	0 人 0%	60 人

※「その他」は、無回答だったものです。

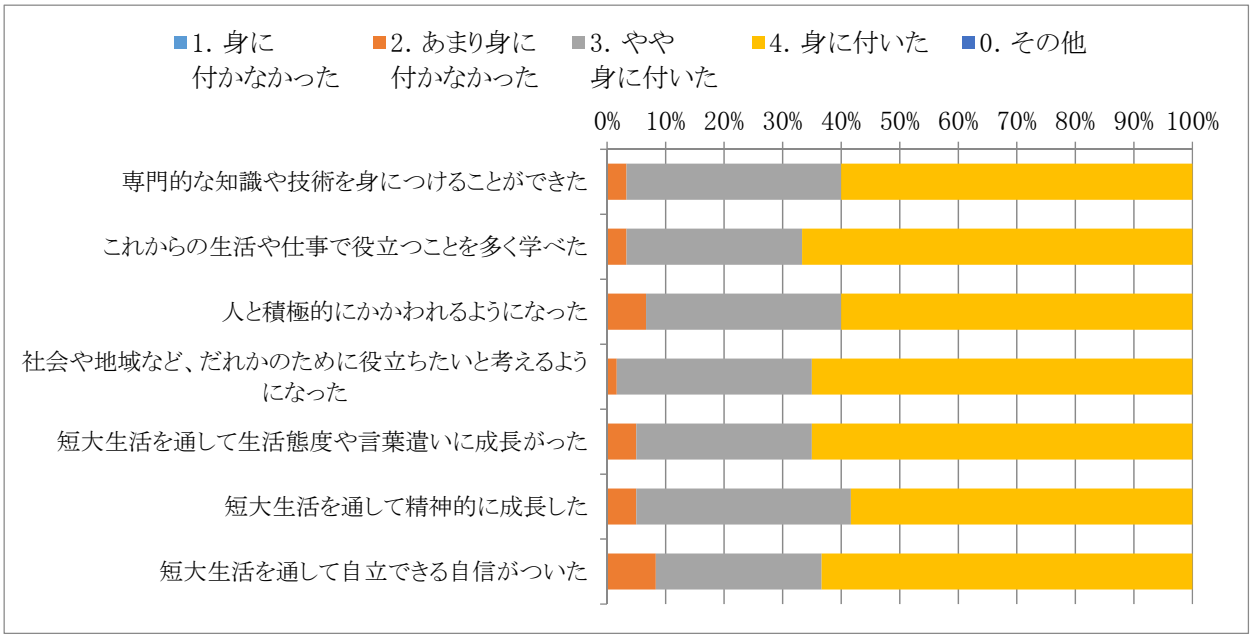
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- 自分の好きなことを追求できて楽しかったです
- 二年間で友達もたくさんできたし授業も充実していてとても楽しかったです。
- とりたい科目が沢山あって時間が被っていたことが心残りでした。
- 自分が学びたいことを選べたので良かったです。
- あっという間の2年間でした
- 色々な分野の知識を学ぶことができて良かったです。
- 個性を大切にして下さってありがとうございました。
- 2年間とても楽しかったです。
- コミュニティ生活学科の先生はみんな優しかったし、ブライダルセミナーの子はいい子しかいなくて入学できてよかったです。
- 楽しかったです（；；）！！
- 自由で楽しかったです
- とても楽しい時間を過ごせてよかったです。
- コロナの濃厚接触者やコロナに感染した時などの対応を改めて欲しいです。
- 学生一人ひとりとしっかり向き合ってくれる学科で、毎日が本当に楽しかった。学びたいと思っていたことを十分に学ぶことができ、とても有意義な学生生活を送れたと思う。
- 色んな科目が学べて良かったです。
- たのしかったです
- 大切な友人がつくれてよかったです。就職や検定などのときチューターの先生のサポートがもう少しあれば生徒も安心すると思いました。
- 体育祭などしたかった。

・　学びたいことを学べて良かったです。
・　たのしかったです
・　コロナの影響で色々な行事がなくなって、制限されて残念でした。
・　先生も優しくて仲良くなれたし毎日楽しかったです‼

5　まとめ

1）満足度調査

（1）　状況と課題

①　満足度調査については、満足の割合が高い項目は以下の8項目だった。
「授業科目が豊富で充実していた」77%、「自分の将来の目標や適性に合わせて科目を自由に選べるのが良かった」87%、「チューターのサポート体制」77%、「自分でチューター(セミナー)を選べるのが良かった」85%、「自分の個性を大切にしてくれる学科だ」73%、「コミュニティ生活学科に入学してよかった」73%、「入学してきた時よりも成長した」70%、「総合的に学生生活に満足していますか？」70%。「総合的な満足度は」1年次終了時期に比べて、1年間で9%高くなった。

② 課題としては、「就職支援体制」にやや不満と答えた学生が 16%と高かったことがあげられる。

（2）要因分析

本学科はオープンキャンパスや入試説明会において、学科の特徴や学びの説明を聞いて入学してきた学生が大半を占めている。そうした学科の特性が学ぶ側の学生に理解され、期待される学びが実践できた2年間の評価だと考える。一方、「コロナ対応に係るサポート体制」には23%が不満と回答していた。自由記述にある意見と合わせて分析すると、欠席扱いとなることに要因があったと考えられる。また、「就職支援体制」「検定取得」については、チューターのサポートをより求める意見があった。

（3）本年度の対策

引き続き、学生とのコミュニケーションを丁寧にとることを心掛ける。夢カルテを生かした「学習面」「生活面」の身近な目標達成を半年に1回振り返っていくことを踏まえ達成感や満足感を味わう機会をつくる。日々の授業で学びの充実を実感できるよう授業を工夫していく。1年生の時期から、チューターによる個人面談の時間などで就職について話す機会を増やしていくことで就職支援体制への不安を解決していきたいと思う。

2）自己点検のまとめ

①　自己点検については、「身についた」の割合が高い項目は以下の3項目だった。「これからの生活や仕事で役立つことを多く学べた」67%、「社会や地域など誰かのために役立ちたいと考えるようになった」65%「短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった」65%。

② 1 年次の調査と比較するとすべての項目で満足の割合が高くなった。特に、「人と積極的

に関われるようになった」60%、「短大生活を通して自立できる自信がついた」63%と「満足」を選んだ割合が高くなっていた。2 年生に対面授業を中心とした体制で進めた 1 年間を終え、全体の満足度が上がったのは、チューターのサポート体制が反映される学生生活の満足度の高さと 2 年間で何ができるようになったかの指標となる自己点検評価の高さによるものと考えられる。

令和４年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

１　調査回答者

１年次　　３９名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	0 人 0%	9 人 23%	30 人 77%	0 人 0%	39 人
	授業	0 人 0%	0 人 0%	11 人 28%	28 人 72%	0 人 0%	39 人
	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	0 人 0%	0 人 0%	13 人 33%	26 人 67%	0 人 0%	39 人
	食物栄養学科で行ったセミナー指導	0 人 0%	0 人 0%	9 人 23%	30 人 77%	0 人 0%	39 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	1 人 3%	1 人 3%	37 人 95%	0 人 0%	39 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	1 人 3%	38 人 97%	0 人 0%	39 人
	コロナ対応に係るサポート体制	1 人 3%	3 人 8%	4 人 10%	31 人 79%	0 人 0%	39 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	0 人 0%	0 人 0%	5 人 13%	34 人 87%	0 人 0%	39 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	2 人 5%	9 人 23%	28 人 72%	0 人 0%	39 人
自治会活動	大学祭	4 人 10%	1 人 3%	17 人 44%	17 人 44%	0 人 0%	39 人
	スポーツ大会	3 人 8%	5 人 13%	12 人 31%	19 人 49%	0 人 0%	39 人
	自治会活動全般	2 人 5%	1 人 3%	16 人 41%	20 人 51%	0 人 0%	39 人
施設	図書館	0 人 0%	1 人 3%	11 人 28%	27 人 69%	0 人 0%	39 人
	食堂	0 人 0%	2 人 5%	12 人 31%	25 人 64%	0 人 0%	39 人
	保健室	0 人 0%	0 人 0%	7 人 18%	32 人 82%	0 人 0%	39 人
	学生相談室	0 人 0%	0 人 0%	9 人 23%	30 人 77%	0 人 0%	39 人
	施設や設備全般	1 人 3%	3 人 8%	16 人 41%	19 人 49%	0 人 0%	39 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人 5%	1 人 3%	10 人 26%	26 人 67%	0 人 0%	39 人

※「その他」は、無回答だったものです。

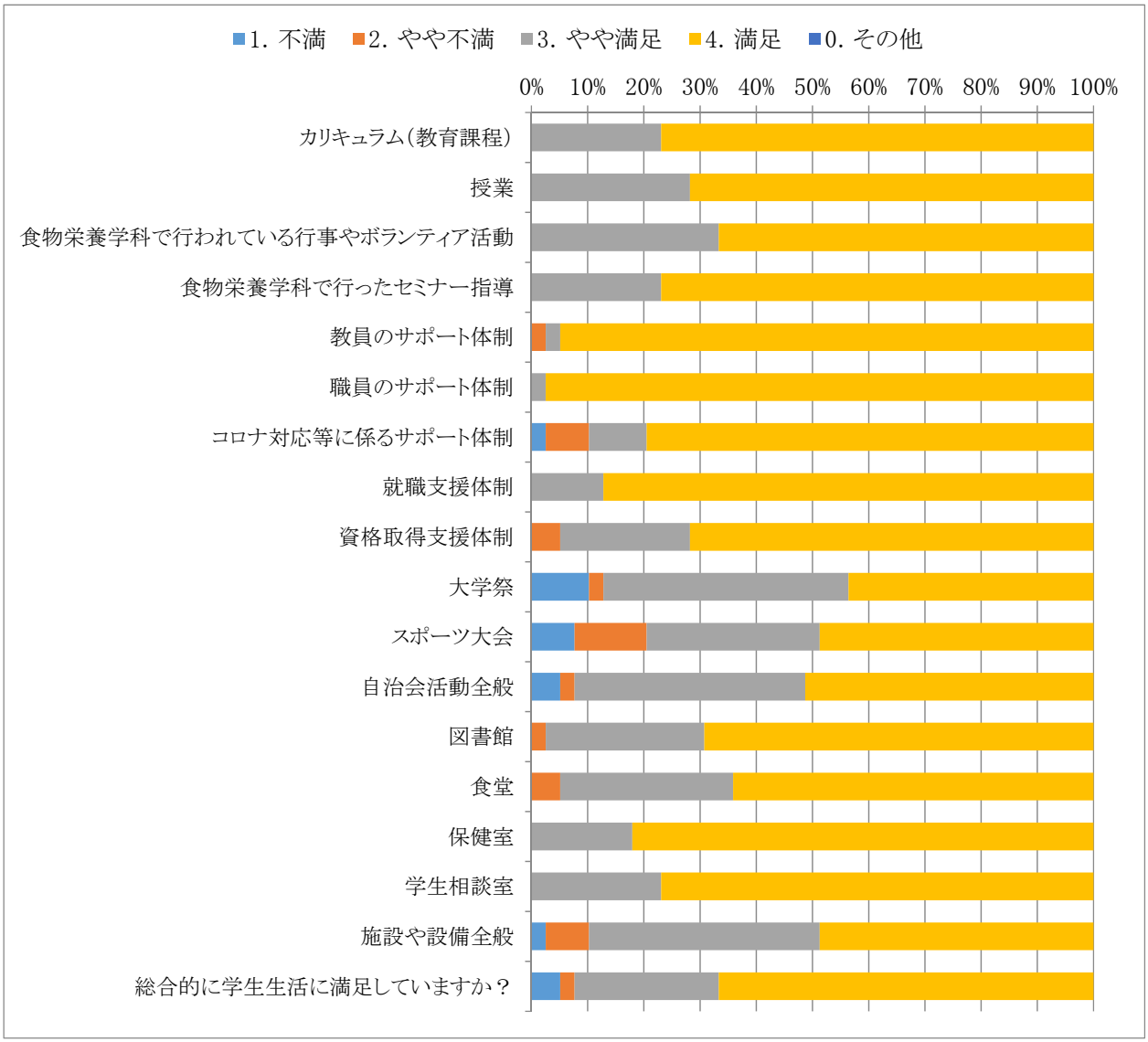
２）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	1 人 3%	19 人 49%	19 人 49%	0 人 0%	39 人
食物栄養学科の1年間で調理技術が向上した	0 人 0%	1 人 3%	13 人 33%	25 人 64%	0 人 0%	39 人
対象者に合った献立作成や調理、栄養指導ができるようになった	0 人 0%	6 人 15%	21 人 54%	12 人 31%	0 人 0%	39 人
自らの食生活を振り返り、自己評価することができるようになった	0 人 0%	2 人 5%	16 人 41%	21 人 54%	0 人 0%	39 人
短大生活を通して社会的に自立できる自信がついた	1 人 3%	5 人 13%	19 人 49%	14 人 36%	0 人 0%	39 人

※「その他」は、無回答だったものです。

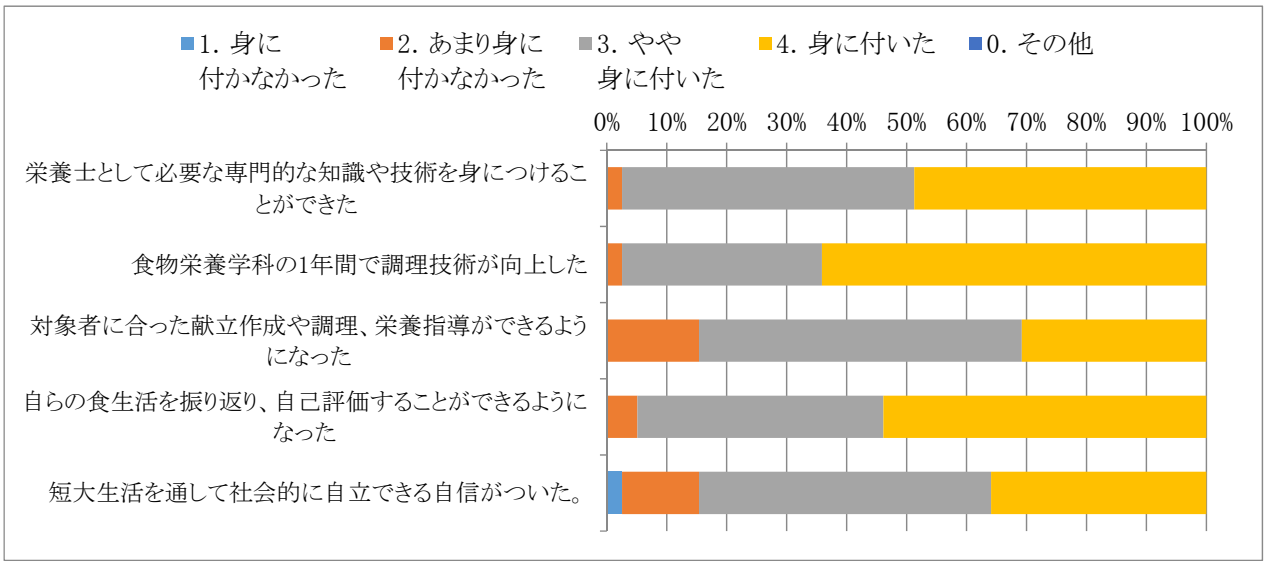
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- 先生も寄り添ってくれて過ごしやすい生活です
- 学校生活楽しいです。
- コロナ禍であんまり出来ないことがあったので来年はできることを増やしたい。
- この1年間安心して学生生活が出来たので良かったです。
- 楽しい
- コロナにおける制度を変えてほしい（陽性者だった場合は欠席扱いにしない、リモートで授業するなど）
  就職などのサポートは充実していて良い
- トイレと教室の扉を直して欲しいです。
- 食堂の座る場所などが増えたらいいなと感じます
- 授業もわかりやすく学校の雰囲気もよくとても満足して学校生活を送れています。
- 毎日楽しく授業を受けることができました。
- 栄養士資格取得に向け、基礎的なことを学ぶことができてよかった。食堂などの施設もよく利用した。
- 部屋の移動があまりないのでよい
- 部屋もほぼ決まってるので覚えやすい。
  先生と連絡を取るのが楽でありがたい。
- 毎日とても楽しく学校に行ってます！様々な先生方が相談に乗ってくださったり、助けてくださるので、安心して学校に通うことができています！
- 勉強頑張りたいです。
- 教室にゴミが沢山あるから綺麗にして欲しい
- 施設は古いですが、一つ一つの設備は整っていると思います。

・　7301の椅子が斜めになっていたりガクンっとなっているところがあるので直して欲しいです。
・　階段の柵に蜘蛛の巣が多いのでとってほしい。教室の床にお菓子のゴミや髪の毛が多く落ちているので掃除が必要だと思います。
・　クラー、暖房をもっと充実して欲しい。食堂の席を増やして欲しい。7301のドアを直して欲しい。

5　まとめ

1）満足度調査

（1）状況と課題

今回の調査は6領域、18項目について行われた。

「教務」領域についての項目では、カリキュラム、授業、学科の行事やボランティア活動、やセミナー指導についての4項目において、すべて「満足」または「やや満足」を回答した者をあわせると100％であり、高く評価されていた。

「学生生活」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、教員のサポート体制及びチューターのサポート体制は98％、職員のサポート体制は100％、コロナ対応に係るサポート体制は89％であった。コロナ対応のサポート体制については「不満」または「やや不満」が11％であった。

「キャリアアップ」領域の２項目については、「満足」または「やや満足」と回答した者は就職支援体制では100％、資格取得体制は95％であった。

「自治会活動」領域については、大学祭・スポーツ大会・自治会活動全般において、「満足」または「やや満足」と回答した者は80％以上であった。特にスポーツ大会については「やや不満」と「不満」をあわせると21％であった。

「施設」領域では、「満足」または「やや満足」と回答した者は、保健室・学生相談室が100％、図書館が97％、食堂は95％、施設や設備全般は90％であった。

総合的な満足度については、学科が設定している「満足」「やや満足」90％以上に対して、今回の調査結果では、93％であり、目標に達していた。

（2）要因分析

「教務」領域の授業については、対象学年は、入学前からコロナ禍の中にあり、新型コロナウイルス感染症の対策を行うことについての理解も得られていたものと考える。本年度は対面授業を実施しており、講義、実験実習、学科の行事等については一部変更したものもあったが、ほぼ予定通り実施することができたことが高い満足度となった要因と考える。

「学生生活」領域では、教員やチューターによるサポート体制は概ね満足していたが、食物栄養学科では「きめ細かな学生指導」を行っており、その成果が結果に反映されたものと思われる。その一方で、コロナ対応に係るサポート体制については、自由記述にもあるように陽性者となった場合の欠席扱いとする対応に不満を感じていた。

「キャリアアップ」領域の満足度が高い評価であったことから、1年次に行った進路ガイダンスなどにより、キャリアセンターやチューターによる進路支援に向けたサポート体制が十分理解さ

れていることがわかる。

「自治会活動」領域については、本年度は一部の制限はあったものの大学祭やスポーツ大会が開催されたことにより80%が概ね満足と評価していた。

「施設」領域については、各項目で「満足」または「やや満足」をあわせて90%以上が評価しており、学生のニーズに対応していたものと考えられる。一方で、施設や設備全般については、実験や実習で使用していた教室の施設環境や設備・備品の老朽化などにより、満足度がやや低く、講義室の机や椅子の不具合が指摘されていた。また建物の清掃不足なども不満の要因となっていた。

総合的な満足度が、目標としていた90%以上であり、コロナ禍の中での学生生活であったが、概ね本学科の教育や学生生活において理解されていたものと考える。

（3）本年度の対策

コロナ禍における学生生活が続くため、対面授業を充実させ、オンライン授業も想定しながら、充実した授業に取り組む。

セミナー＆チューター制を活用して、引き続き、学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い、学業や学生生活、進路支援などを行い、満足度の向上に努めたい。

2）自己点検のまとめ

自己点検の5項目に関しては、「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」とすると、すべての項目において、85～98%が「身に付いた」と回答していた。

低かったのは「対象者に合った献立作成や調理、栄養指導」と「社会的に自立できるようになった」が 85%であった。まだ、学びの途中段階であることから、2 年次の授業や栄養士の校外実習などを通して、栄養士としての知識や技術を身に付け、自分の成長を実感していくものと思われる。

卒業時の満足度調査において、自己点検評価が高まり、自信をもって栄養士免許を取得できるよう、今後も継続して学生支援を行いたい。

令和４年度 学生生活の満足度調査結果（食物栄養学科）

１　調査回答者

２年次　　３９名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人　0%	0 人　0%	18 人　46%	21 人　54%	0 人　0%	39 人
	授業	0 人　0%	0 人　0%	21 人　54%	18 人　46%	0 人　0%	39 人
	食物栄養学科で行われている行事やボランティア活動	0 人　0%	4 人　10%	18 人　46%	17 人　44%	0 人　0%	39 人
	食物栄養学科で行ったセミナー指導	0 人　0%	5 人　13%	14 人　36%	20 人　51%	0 人　0%	39 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人　0%	0 人　0%	12 人　31%	27 人　69%	0 人　0%	39 人
	職員のサポート体制	0 人　0%	0 人　0%	12 人　31%	27 人　69%	0 人　0%	39 人
	コロナ対応に係るサポート体制	2 人　5%	6 人　15%	12 人　31%	19 人　49%	0 人　0%	39 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	0 人　0%	2 人　5%	14 人　36%	23 人　59%	0 人　0%	39 人
	資格取得支援体制	0 人　0%	0 人　0%	13 人　33%	26 人　67%	0 人　0%	39 人
自治会活動	大学祭	1 人　3%	7 人　18%	15 人　38%	16 人　41%	0 人　0%	39 人
	スポーツ大会	4 人　10%	12 人　31%	13 人　33%	10 人　26%	0 人　0%	39 人
	自治会活動全般	0 人　0%	1 人　3%	18 人　46%	20 人　51%	0 人　0%	39 人
施設	図書館	0 人　0%	1 人　3%	12 人　31%	26 人　67%	0 人　0%	39 人
	食堂	1 人　3%	2 人　5%	16 人　41%	20 人　51%	0 人　0%	39 人
	保健室	0 人　0%	1 人　3%	16 人　41%	22 人　56%	0 人　0%	39 人
	学生相談室	0 人　0%	1 人　3%	18 人　46%	20 人　51%	0 人　0%	39 人
	施設や設備全般	1 人　3%	4 人　10%	18 人　46%	16 人　41%	0 人　0%	39 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人　5%	2 人　5%	18 人　46%	17 人　44%	0 人　0%	39 人

※「その他」は、無回答だったものです。

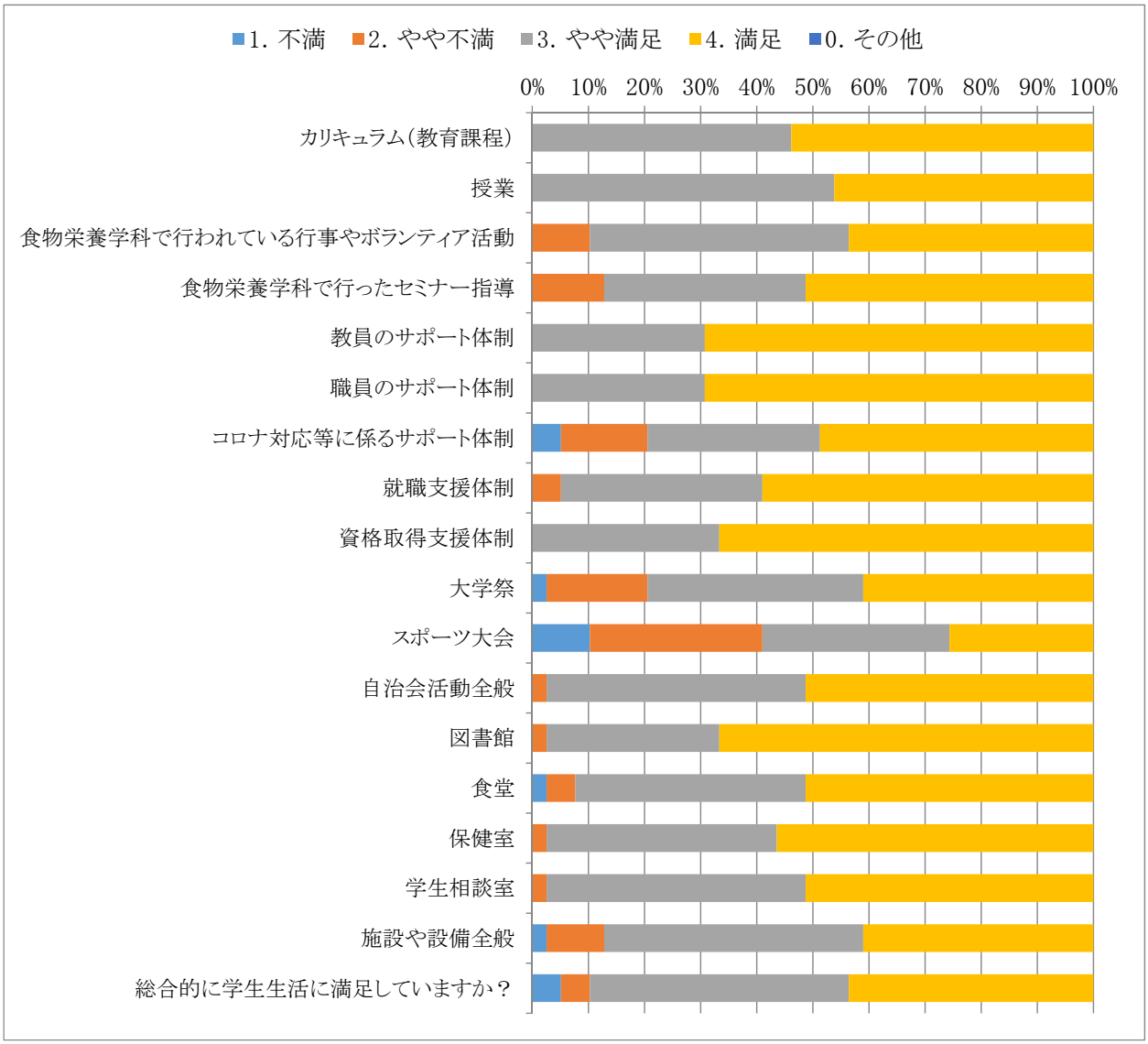
２）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
栄養士として必要な専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	1 人 3%	15 人 38%	23 人 59%	0 人 0%	39 人
食物栄養学科の1年間で調理技術が向上した	0 人 0%	0 人 0%	15 人 38%	24 人 62%	0 人 0%	39 人
対象者に合った献立作成や調理、栄養指導ができるようになった	0 人 0%	2 人 5%	22 人 56%	15 人 38%	0 人 0%	39 人
自らの食生活を振り返り、自己評価することができるようになった	0 人 0%	1 人 3%	14 人 36%	24 人 62%	0 人 0%	39 人
短大生活を通して社会的に自立できる自信がついた	0 人 0%	2 人 5%	20 人 51%	17 人 44%	0 人 0%	39 人

※「その他」は、無回答だったものです。

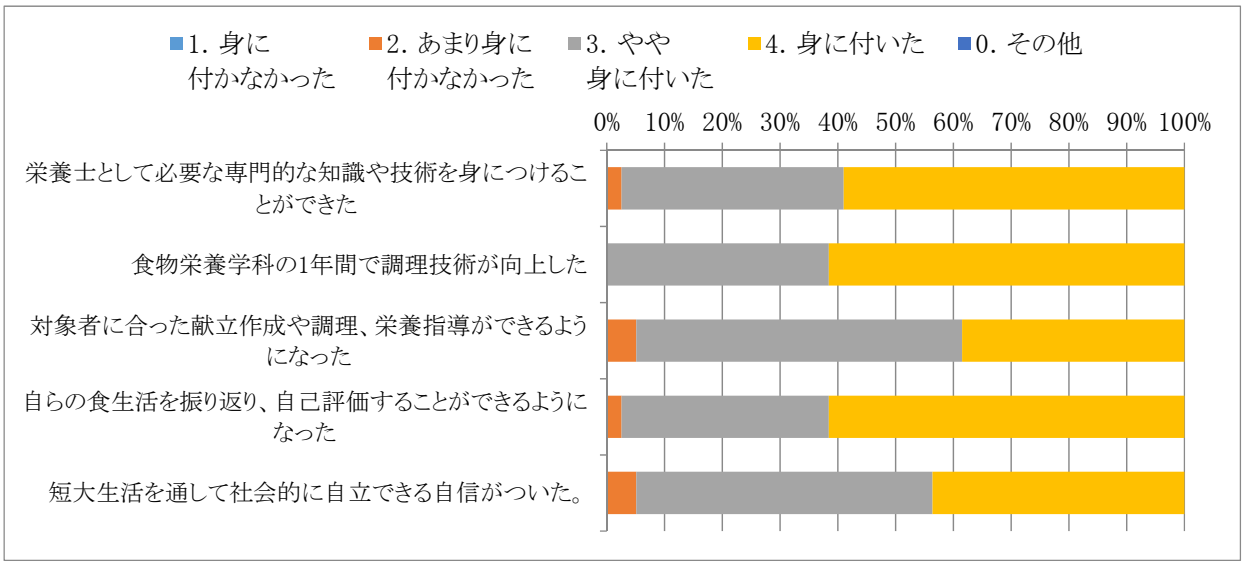
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- 2年間楽しくて、とても短い2年だったなと思いました。助手の先生と話したりするのが楽しかったし、相談にのって下さってありがたかったです。
- 2年間でしたが、いつも大変で、いつも楽しく、いろいろな経験ができました!
- 楽しかったです。沢山思い出が作れました。チューターの先生が大好きです。
- 身につきました
- 2年間友達と楽しく学生生活を送ることができました。
- 色んなことがありましたが楽しかったです
- 就職店で先生やキャリアセンターの方にたくさん支えていただき、心強かったです
- 先生全員優しくて挫けそうな時も頑張れた。2年間あっという間だったけど楽しかった

5　まとめ

1）満足度調査

（1）状況と課題

今回の調査は6領域、18項目について行われた。

「教務」領域についての項目では、「満足」または「やや満足」を回答した者は、カリキュラムや授業において100%、学科の行事やボランティア活動では90%であった。また、セミナー指導では87%であり、「やや不満」が13%であり、セミナーでの学生指導に課題が見られた。

「学生生活」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、教員のサポート体制及び職員のサポート体制は100%、コロナ対応に係るサポート体制は80%であった。コロナ対応のサポート体制については「不満」または「やや不満」が20%であった。

「キャリアアップ」領域の2項目については、「満足」または「やや満足」と回答した者は就職支援体制が95%、資格取得体制が100%であった。

「自治会活動」領域については、「満足」または「やや満足」と回答した者は、大学祭が79%、スポーツ大会が59%、自治会活動全般は97%であった。

「施設」領域では、「満足」または「やや満足」と回答した者は、図書館が98%、保健室と学生相談室が97%、食堂は92%、施設や設備全般は87%であった。

総合的な満足度については、学科が設定している「満足」「やや満足」90%以上に対して、今回の調査結果では、90%であり、目標に達していた。

（2）要因分析

対象学年は、入学当初からコロナ禍の中にあり、主に対面授業で実施し、一部オンライン授業を活用し、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら学生生活を過ごした。

「教務」領域の授業について、満足度が高かったのは、多くの授業が対面で実施できたことが要因と考えられる。セミナー指導についても多くの学生が満足しており、自分が選択したセミナーでの活動が充実していたものと考えられる。

「学生生活」領域では、教員やチューターによるサポート体制は満足していたが、食物栄養学科では「きめ細かな学生指導」を行っており、その成果が結果に反映されたものと思われる。その一方で、コロナ対応に係るサポート体制については、不満に感じる者もおり、対応に課題が残った。

「キャリアアップ」領域の満足度が高い評価であったことは、学科とキャリアセンターとの連携により、学生の進路決定率が100%であることから、学生に寄り添った進路支援ができていたことがわかる。

「自治会活動」領域については、本年度は大学祭やスポーツ大会が実施できたため、満足と考えた学生も多かった。しかしながら、大学祭は学生のみの参加制限や食物栄養学科の活動等ができなかったことなどが「不満」「やや不満」となった要因と思われる。また、スポーツ大会については、開催日が2年生の校外実習の日と重なったため、校外実習を優先する都合により、スポーツ大会でのチーム編成ができず、参加できなかったことが不満の要因となったと考える。

「施設」領域については、学生のニーズに対応して、図書館や保健室、学生相談室、食堂などの満足度評価が高かった。一方で、施設や設備全般については、実験や実習で使用していた教室の施設環境や設備・備品の老朽化などにより、満足度がやや低い評価になったものと考える。

総合的な満足度は、目標の90%以上であり、コロナ禍の中での学生生活であっても、楽しい学生生活を過ごせたことにより、高い満足度に繋がったものと考える。

（3）本年度の対策

コロナ禍での学生生活が続くと思われるが、さらに授業を充実させる必要性を感じている。対面授業を充実させるとともに、オンライン授業も想定しながら、授業内容の充実を図りたい。

セミナー＆チューター制を活用して、引き続き、学生に寄り添ったきめ細かい支援を行い、学業や学生生活、進路支援などを行い、満足度の向上に努めたい。

2）自己点検のまとめ

自己点検の5項目に関しては、「身に付いた」と「やや身に付いた」を合計して「身に付いた」とすると、すべての項目において、94～100％が「身に付いた」と回答していた。特に、「1年間で調理技術が向上した」は100％であった。いずれの項目も、1年次の調査結果よりも、評価が高くなっており、2年次の学生生活で自分の成長を実感できていることがわかる。

2022年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

１．調査回答者

１年次　６３名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1. 不満	2. やや不満	3. やや満足	4. 満足	0. その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	6 人 10%	24 人 38%	33 人 52%	0 人 0%	63 人
	授業	1 人 2%	4 人 6%	32 人 51%	26 人 41%	0 人 0%	63 人
	授業科目が充実していた	0 人 0%	1 人 2%	31 人 49%	31 人 49%	0 人 0%	63 人
	ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた	1 人 2%	1 人 2%	29 人 46%	32 人 51%	0 人 0%	63 人
	教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた	0 人 0%	1 人 2%	22 人 35%	40 人 63%	0 人 0%	63 人
	運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた	0 人 0%	4 人 6%	29 人 46%	30 人 48%	0 人 0%	63 人
	入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた	0 人 0%	3 人 5%	31 人 49%	29 人 46%	0 人 0%	63 人
学生生活	教員のサポート体制	0 人 0%	6 人 10%	26 人 41%	31 人 49%	0 人 0%	63 人
	職員のサポート体制	1 人 2%	2 人 3%	24 人 38%	36 人 57%	0 人 0%	63 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	2 人 3%	17 人 27%	44 人 70%	0 人 0%	63 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	0 人 0%	3 人 5%	18 人 29%	42 人 67%	0 人 0%	63 人
	保育学科に入学してよかった	0 人 0%	4 人 6%	15 人 24%	44 人 70%	0 人 0%	63 人
	コロナ対応等に係るサポート体制	1 人 2%	4 人 6%	23 人 37%	35 人 56%	0 人 0%	63 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	0 人 0%	1 人 2%	38 人 60%	24 人 38%	0 人 0%	63 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	2 人 3%	23 人 37%	38 人 60%	0 人 0%	63 人
自治会活動	大学祭	0 人 0%	6 人 10%	27 人 43%	30 人 48%	0 人 0%	63 人
	スポーツ大会	1 人 2%	6 人 10%	25 人 40%	31 人 49%	0 人 0%	63 人
	自治会活動全般	0 人 0%	2 人 3%	35 人 56%	26 人 41%	0 人 0%	63 人
施設	図書館	0 人 0%	0 人 0%	22 人 35%	41 人 65%	0 人 0%	63 人
	食堂	0 人 0%	4 人 6%	19 人 30%	40 人 63%	0 人 0%	63 人
	保健室	0 人 0%	2 人 3%	21 人 33%	40 人 63%	0 人 0%	63 人
	学生相談室	1 人 2%	0 人 0%	22 人 35%	40 人 63%	0 人 0%	63 人
	施設や設備全般	3 人 5%	4 人 6%	28 人 44%	28 人 44%	0 人 0%	63 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	0 人 0%	6 人 10%	18 人 29%	39 人 62%	0 人 0%	63 人

※「その他」は、無回答だったものです。

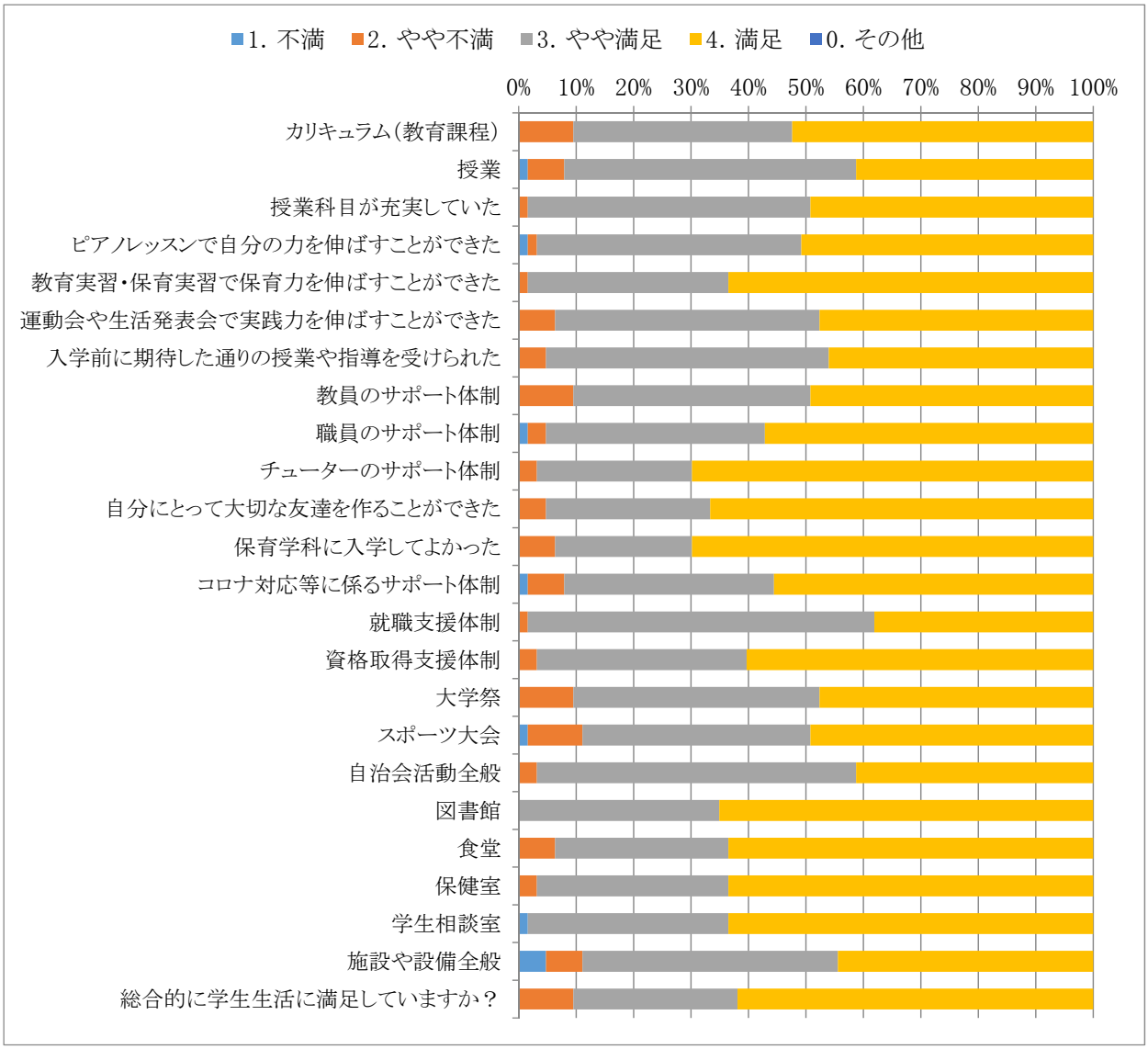
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
短大生活を通して専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	1 人 2%	34 人 54%	28 人 44%	0 人 0%	63 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった	0 人 0%	2 人 3%	31 人 49%	30 人 48%	0 人 0%	63 人
短大生活を通して精神的に成長した	0 人 0%	3 人 5%	28 人 44%	32 人 51%	0 人 0%	63 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人 0%	3 人 5%	30 人 48%	30 人 48%	0 人 0%	63 人
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった	0 人 0%	4 人 6%	28 人 44%	31 人 49%	0 人 0%	63 人
チームワークを大切にすることができるようになった	0 人 0%	3 人 5%	21 人 33%	39 人 62%	0 人 0%	63 人
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった	0 人 0%	4 人 6%	22 人 35%	37 人 59%	0 人 0%	63 人
社会や地域など、誰かのために役立ちたいと考えるようになった	0 人 0%	4 人 6%	22 人 35%	37 人 59%	0 人 0%	63 人

※「その他」は、無回答だったものです。

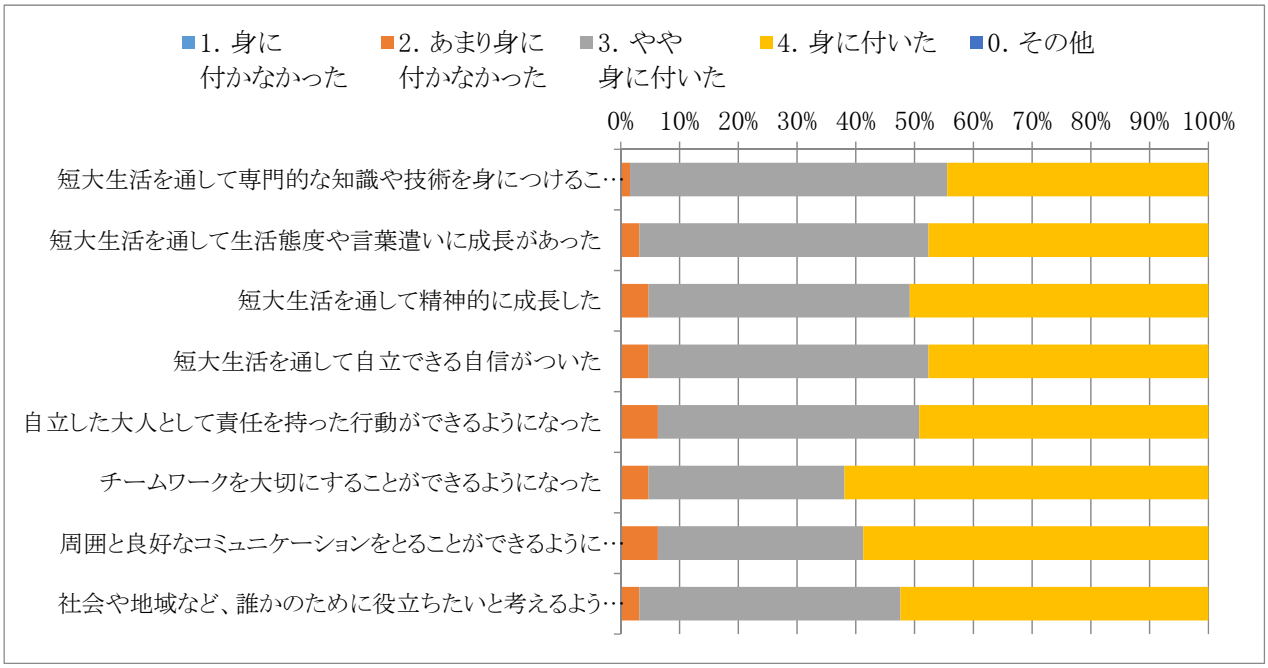
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- 自分の学びたかった保育について沢山学べたり、学生ならではの沢山の行事を楽しむ事が出来ていて入学して良かったなと思います。
- 保育について実習でいかせるたくさんの知識や力をつけることが出来てとても良かったです。
- 学校生活に不便はあまり感じなかったです
- たのしいです。
- 2年しかないから頑張ろうと思う
- 自分の学びたいことが学べるので良かった
- 先生が優しく相談を聞いてくれたり実習で困らないようにたくさんのことを教えてくださりとてもよかったです。
- 楽しい学生生活送れてます
- 友達と楽しく過ごせて授業もきちんと受けることができたのでよかったです。
- 連絡をもっとはやくしてきて欲しいです
- 学校にも慣れ充実した1年間でした。

5　まとめ

1）満足度調査

（1）状況と課題

①「教務」領域

“満足群”を表す「やや満足」と「満足」の占める割合は全体に高く、いずれも 90%を超えている。本保育学科の指導を特徴付けるものの 1 つであるピアノレッスン指導について、「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」は 96%と高い満足度を示している。さらに、

「授業科目が充実していた」、「教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた」の項目は共に 98%で、前年度を２ポイント上回っている。「カリキュラム」について“不満足群”が 10%と比較的高く、どのような面に学生が不満を抱くのかを把握する必要がある。

②「学生生活」領域

すべての項目において、90%を超える高い満足度となっている。特に「職員・チューターのサポート体制」の満足度はいずれも 95%を超える結果であった。特に「チューターのサポート体制」の“4. 満足”は 70%と非常に高い評価を得ている。「友達作り」の項目においても 95%の高い満足度となった。「入学してよかった」と思う学生の割合は、前年度に比べて２ポイント低く 96%であった。

③「キャリアアップ」領域

「就職支援」「資格取得支援」共に 97%を超える高い満足度となっている。1 年生は就職や資格取得についてはさほど意識することなく生活しているが、講演会などのキャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

④「自治会活動」領域

「大学祭」、「スポーツ大会」、「自治会活動」のいずれも項目においても、前年度を大きく上回る満足ととなった。

⑤「施設」領域

「図書館」についての“満足群”の割合は 100%であった。「食堂」、「保健室」、「学生相談室」の“4. 満足」はいずれも 60%を超える割合の学生が満足している。一方「施設や設備全般」については、“不満足群”の割合が 11%と比較的大きく、改善が求められる。

（２）要因分析

各領域の特徴的な事項について分析を行い、対策に反映させる。

「教務」の領域で「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」が 97%という高い満足度となったのは、「初心者のピアノ指導の充実」意識しての常勤・非常勤の講師陣の指導力の高さの証左である。「授業科目が充実していた」、「教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた」の項目の満足度が高いのは、学生の主体的な学びを主軸とする「アクティブラーニング」が定着してきたこと、1 年生にとって初めての幼稚園実習が自身の成長を実感することのできる貴重な体験となったことがうかがえる。「運動会」、「生活体験発表会」は保育学科の特徴的な指導の柱の１つである「豊富な体験活動」が十分に効果を発揮していることを示している。

「学生生活」の領域で、すべての項目において高い満足度となったのは、学生本位のサポート体制づくりの成果と思われる。コロナ禍への対応の満足度も、コロナ禍が前年度に比べ落ち着いてきたことと、取扱い基準を変更したことにより、満足度が向上し 90%となった。

「キャリアアップ」の領域でも、様々なキャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

「施設」の領域で、「施設や設備全般」の満足度は２年次生と同様に 9「1. 不満」が多い結果となった。

（３）本年度の対策

〇学科の指導の強みである「ピアノレッスン」は非常勤講師と連携し、引き続き高い指導力の維持に努める。

〇カリキュラムを精査し、真に学生が必要とする科目を焦点化することも検討する。
〇一人一人の学生の状況をよく把握し、学生の思いを大切にしながら、学科全体で情報共有をする。
〇授業や行事の区切りのよいところで、学生が学修の成果を実感できる方法を一層工夫する。
〇コロナ禍に係る欠席への対応に関しては引き続き検討し、学科としての考えを整理する。

２）自己点検のまとめ

すべての項目において、肯定的評価が 90%を超える高い評価結果となった。特に、「専門的な知識・技術の習得」は 98%であり、科として卒業研究などで指導技術の習得・伸長をめざして取り組んできたことの成果であるといえる。「生活態度や言葉遣い」「精神的な成長」等の項目は２年次生と同様の傾向にある。「責任を持った行動ができるようになった」、「周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった」の肯定的評価はいずれも 96%であり、改善に取り組む場合、授業等での指導に加えて、個別対応が重要になると思われるので、科で情報共有をしつつ、チューターを中心に取り組んでいきたい。

2022年度 学生生活の満足度調査結果（保育学科）

１．調査回答者

２年次　６７名

２　調査結果

１）満足度調査

領域	項目	1.不満	2.やや不満	3.やや満足	4.満足	0.その他	計
教務	カリキュラム(教育課程)	0 人 0%	4 人 6%	31 人 46%	32 人 48%	0 人 0%	67 人
	授業	0 人 0%	8 人 12%	35 人 52%	24 人 36%	0 人 0%	67 人
	授業科目が充実していた	0 人 0%	3 人 4%	39 人 58%	25 人 37%	0 人 0%	67 人
	ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた	0 人 0%	1 人 1%	29 人 43%	37 人 55%	0 人 0%	67 人
	教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた	0 人 0%	2 人 3%	20 人 30%	45 人 67%	0 人 0%	67 人
	運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた	0 人 0%	1 人 1%	31 人 46%	35 人 52%	0 人 0%	67 人
	入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた	0 人 0%	5 人 7%	36 人 54%	26 人 39%	0 人 0%	67 人
学生生活	教員のサポート体制	1 人 1%	2 人 3%	36 人 54%	28 人 42%	0 人 0%	67 人
	職員のサポート体制	0 人 0%	2 人 3%	35 人 52%	30 人 45%	0 人 0%	67 人
	チューターのサポート体制	0 人 0%	0 人 0%	22 人 33%	45 人 67%	0 人 0%	67 人
	自分にとって大切な友達を作ることができた	2 人 3%	1 人 1%	14 人 21%	50 人 75%	0 人 0%	67 人
	保育学科に入学してよかった	1 人 1%	3 人 4%	22 人 33%	41 人 61%	0 人 0%	67 人
	コロナ対応等に係るサポート体制	15 人 22%	12 人 18%	19 人 28%	21 人 31%	0 人 0%	67 人
ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ	就職支援体制	1 人 1%	2 人 3%	25 人 37%	39 人 58%	0 人 0%	67 人
	資格取得支援体制	0 人 0%	3 人 4%	20 人 30%	44 人 66%	0 人 0%	67 人
自治会活動	大学祭	3 人 4%	11 人 16%	30 人 45%	23 人 34%	0 人 0%	67 人
	スポーツ大会	4 人 6%	12 人 18%	30 人 45%	21 人 31%	0 人 0%	67 人
	自治会活動全般	2 人 3%	12 人 18%	33 人 49%	20 人 30%	0 人 0%	67 人
施設	図書館	2 人 3%	0 人 0%	23 人 34%	42 人 63%	0 人 0%	67 人
	食堂	0 人 0%	5 人 7%	22 人 33%	40 人 60%	0 人 0%	67 人
	保健室	0 人 0%	2 人 3%	25 人 37%	40 人 60%	0 人 0%	67 人
	学生相談室	3 人 4%	0 人 0%	26 人 39%	38 人 57%	0 人 0%	67 人
	施設や設備全般	2 人 3%	9 人 13%	29 人 43%	27 人 40%	0 人 0%	67 人
総合	総合的に学生生活に満足していますか？	2 人 3%	5 人 7%	28 人 42%	32 人 48%	0 人 0%	67 人

※「その他」は、無回答だったものです。

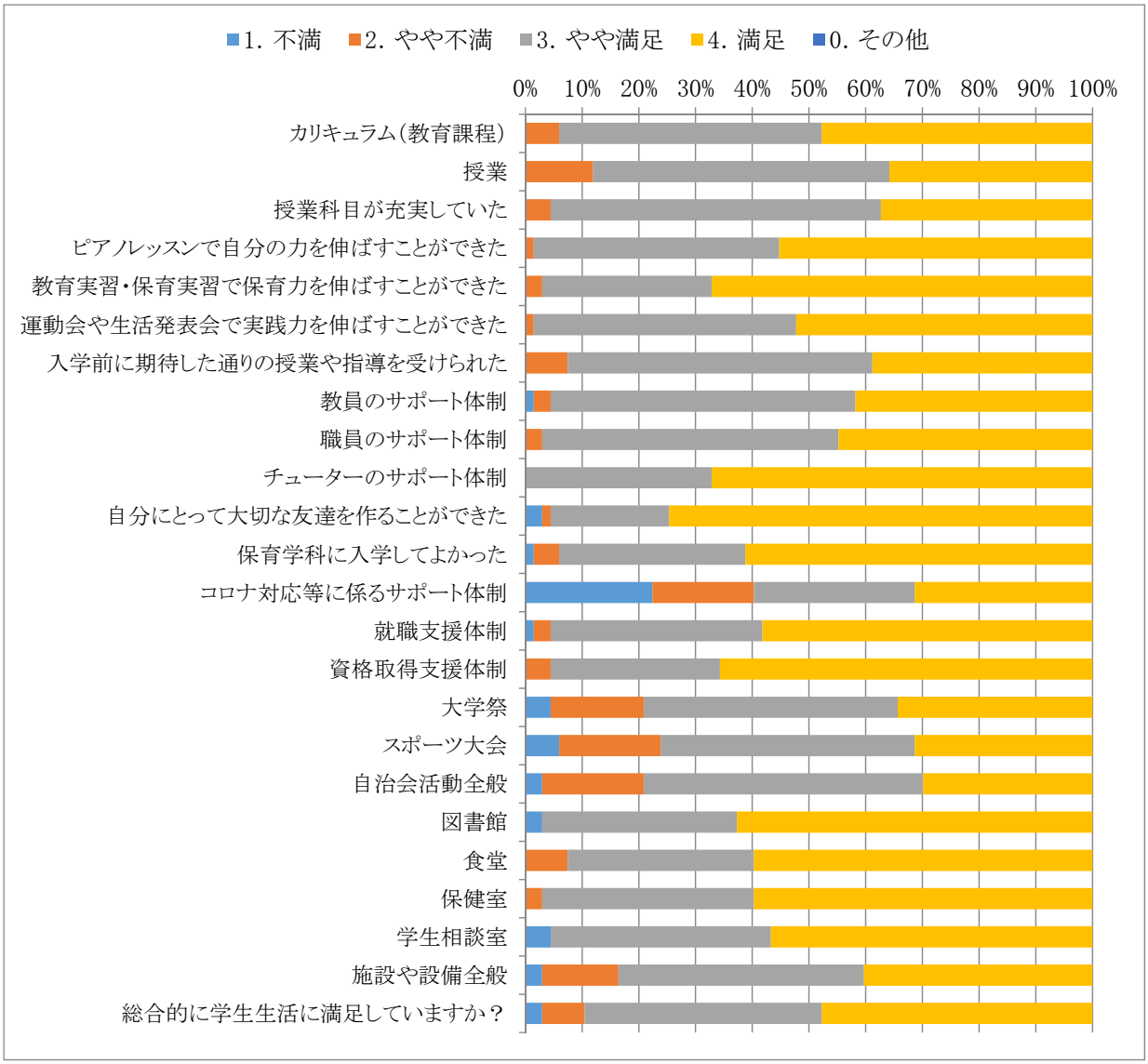
2）自己点検

項目	1. 身に付かなかった	2. あまり身に付かなかった	3. やや身に付いた	4. 身に付いた	0. その他	計
短大生活を通して専門的な知識や技術を身につけることができた	0 人 0%	1 人 1%	34 人 51%	32 人 48%	0 人 0%	67 人
短大生活を通して生活態度や言葉遣いに成長があった	0 人 0%	3 人 4%	30 人 45%	34 人 51%	0 人 0%	67 人
短大生活を通して精神的に成長した	0 人 0%	3 人 4%	35 人 52%	29 人 43%	0 人 0%	67 人
短大生活を通して自立できる自信がついた	0 人 0%	5 人 7%	34 人 51%	28 人 42%	0 人 0%	67 人
自立した大人として責任を持った行動ができるようになった	0 人 0%	5 人 7%	33 人 49%	29 人 43%	0 人 0%	67 人
チームワークを大切にすることができるようになった	0 人 0%	1 人 1%	29 人 43%	37 人 55%	0 人 0%	67 人
周囲と良好なコミュニケーションをとることができるようになった	1 人 1%	1 人 1%	24 人 36%	41 人 61%	0 人 0%	67 人
社会や地域など、誰かのために役立ちたいと考えるようになった	1 人 1%	1 人 1%	24 人 36%	41 人 61%	0 人 0%	67 人

※「その他」は、無回答だったものです。

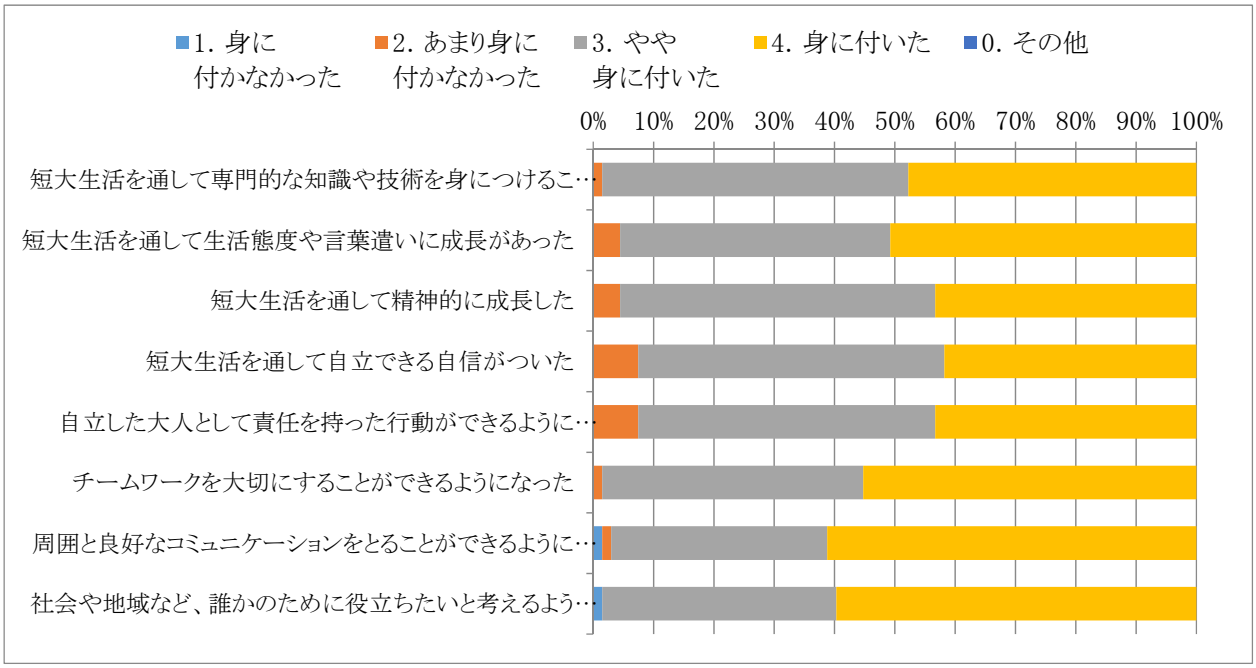
3　グラフ

1）満足度調査



※「その他」は、無回答だったものです。

2）自己点検



※「その他」は、無回答だったものです。

4　自由記述

- この大学に入って良かった
- コロナになった時の欠席や遅延などによる遅刻などは考慮して欲しい。
  学食のメニューを増やしてほしい。
  ピアノの個人レッスンは先生を選べるようにして欲しい。課題曲を単位のためにこなすのではなく弾けることになることを重視して欲しい。
  目安箱を設置して学生の意見を反映させてほしい。
  私立学校だけど学費が低めなのはとてもありがたかった。
- 2年間ともても充実した楽しい生活が送ることが出来ました。先生方がとても優しく、文化で学ぶことが出来てとても良かったです。
- 2年間で色々あったけど、先生方がとても優しくて、周りの友達も面白くて、楽しい大学生活になりました。
- 楽しかったです。
- コロナ禍で行事等がなくなることもあったけれど色んなことに挑戦することができて良かったと思います。
- コロナの中でも楽しく学生生活を送ることが出来ました。
- 楽しかった
- 楽しかったです
- 楽しかった
- コロナ体制を少し変えて欲しい
- いろんな人と関われた。
- 学校生活楽しかったです

・　ピアノレッスンがマンツーマンで良かった
・　先生方も丁寧に就職の話を聞いてくれたり優しく接してくれたのでよかったです
・　大切な友達、たくさんの授業でまなぶことができました。
・　コロナ対応があんまりでした。
・　学科行事に出ていない人や授業欠席5回になった人が、自分たちと同じように資格がとれているのが不満。真面目にやってきたのがばかばかしいなぁと思う。
・　楽しかった 卒業が寂しい
・　大学で新しくできた友だちと弱音を吐きながらも支え合いながら2年間頑張ってこれました。素敵な友だちに出会えたからこそ素敵な学校生活をおくれました！卒業寂しいです
・　楽しかった
・　楽しい思い出でいっぱいです。幸せでした。
・　良かったです
・　楽しかった
・　2年間さんきゅー
・　楽しかったです
・　2年生からコロナ対応がなくなり、地元での実習で、2週間待機をして欲しいと園の方から言われているから待機しているのにも関わらず、欠席扱いになる点が納得いきませんでした。
・　売店もっと安くしてほしい
　売店で電子マネー使えるようにしてほしい
・　シーラーニングで欠席をわかりやすくしてくれたらよかった。
・　コロナ禍で制限された部分もあったけど、大切な友人もできたし大学生らしく楽しめた2年間でした。
・　先生が優しい

5　まとめ

1）満足度調査

（1）状況と課題

①「教務」領域

“満足群”を表す「3.やや満足」と「4.満足」の占める割合は全体に高く、特に本学科が指導の特色としているピアノレッスンでは、「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」は99%と非常に高くなっている。その他の項目、「授業科目が充実していた」(97%)、「教育実習・保育実習で保育力を伸ばすことができた」(98%)、「運動会や生活発表会で実践力を伸ばすことができた」(99%)も大変高い満足度となった。「入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた」は95%でやや低い。

②「学生生活」領域

概ね高い満足度となっている。特に「教員・職員・チューターのサポート体制」の満足度はいずれも96%を超える結果であった。特に「チューターのサポート体制」は100%となった。「友達作り」の項目では、コロナ禍のもとで学生生活を送ったが、96%の高い満足度であった。

「入学してよかった」と思う学生の割合は、前年度に比べ２ポイント低下したが、95%と高いものであった。一方、「コロナ対応等に係るサポート体制」は、“不満足群”の割合が 40%と高く、対応方法に課題が残った。

③「キャリアアップ」領域

「就職支援」「資格取得支援」共に 96%の満足度となっている。特に「資格取得」については、「4. 満足」は 66%と高い割合であった。総じて、キャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

④「自治会活動」領域

他の領域の満足度に比べて、この領域の満足度は低かった。この領域の活動は、学生個々の活動ではなく、学生全体での集団的な活動の要素があり、その組織運営の改善や参画意識の醸成について検討する必要がある。

⑤「施設」領域

いずれの項目においても 90%を超える割合の学生が満足している。

（２）要因分析

各領域の特徴的な事項について分析を行い、対策に反映させる。

「教務」の領域で「ピアノレッスンで自分の力を伸ばすことができた」が 99%と高い満足度となったのは、「初心者のピアノ指導の充実」が学科の指導を強く特色付けるものであり、常勤・非常勤の講師陣の指導力の高さを反映している。さらに、「授業科目が充実していた」、「教育実習・保育実習」で保育力を伸ばすことができた」の項目の満足度が高いのは、学生の主体性に軸を置く「アクティブラーニング型の授業」が幅広く浸透してきたことや、教育実習・幼稚園実習が各２回あり、その経験を通して自身の成長を実感することができたことがうかがえる。「入学前に期待した通りの授業や指導を受けられた」については、どのような期待感をもって入学してくるのかの把握が必要であろう。

「学生生活」の領域では、コロナ禍のもとでの学修についての不満が見受けられる。具体的には、自分の瑕疵ではないのに実習期間を変更せざるを得なくなった場合にも、その期間中の授業が欠席となることに対する不満である。これは保育学科だけの問題ではないので、全学的に学生が納得できるような対応方法や説明を検討する必要がある。

「キャリアアップ」の領域では、様々なキャリア支援の取組に満足している様子がうかがえる。

「施設」の領域では、施設や設備全般について“不満足群”が 22%と比較的多いが、施設の老朽化等が影響しているものと思われる。

（３）本年度の対策

〇学科の指導の強みである「ピアノレッスン」は非常勤講師と連携し、引き続き高い指導力の維持に努める。

〇授業や行事の区切りのよいところで、学生が学修の成果を実感できる方法を一層工夫する。

〇一人一人の学生の状況をよく把握し、学生の思いを大切にしながら、学科全体で情報共有をする。

〇学年行事等において学生の参画意識を高め一体感、充実感や成長実感が得られるように創意工夫する。

〇コロナ禍に係る欠席への対応に関しては引き続き検討し、学科としての考えを整理する。

２）自己点検のまとめ

すべての項目において 90%を超える高い自己評価結果であった。この結果から概ね学生生活を通して順調に成長していることがうかがえる。「専門的な知識や技術を身に付けることができた」の“肯定的評価”は 99%と高く、卒業研究などで指導技術の習得を柱として取り組んできたことの成果であるといえる。

割合としてはあまり高くはないが、“あまり身に付かなかった”が７%の項目がある。それは「自立できる自信がついた」、「責任を持った行動ができるようになった」であり、この２つは内容として同質のものと考えられる。精神的な自立は学生の課題の１つであり、また、社会人として生活するためには「責任ある行動」ができることが必要不可欠である。このことを十分留意し、さまざまな学修場面をとおして、学生の成長を促していきたい。

進路・就職状況

学生部次長　出廣 久司

令和５年３月卒業生の進路状況　　令和５年５月１日現在

データは、令和５年３月卒業の学生分

			広島文化学園短期大学			
			コミュニティ生活学科	食物栄養学科	保育学科	短期大学合計
卒業者数			66 人	38 人	72 人	176 人
内訳	1．就職	希望者数 A	50 人	33 人	66 人	149 人
		決定者数 B（うち正規採用）※ 1	50 人（ 48 人）	33 人（ 29 人）	66 人（ 62 人）	149 人（140 人）
		決定率 B/A	100%	100%	100%	100%
	2 進学	希望者数 C	2 人	2 人	1 人	5 人
		決定者数 D	2 人	2 人	1 人	5 人
		決定率 D/C	100%	100%	100%	100%
	3.帰国予定 E ※ 2					
	進路決定率※ 3		100%	100%	100%	100%
	昨年同時期の進路決定率		100%	100%	100%	100%
	4.その他 F 就職希望なし ・進学・就職準備 ・結婚・家事手伝い ・アルバイト		14 人	3 人	5 人	22 人
			就職希望なし	就職希望なし	就職希望なし	

※ 1 正規採用とは、雇用期間の定めがない採用

※ 2 帰国予定者とは、国内での就職活動及び受験の実績や意思が無い者

※ 3 進路決定率= (B +D+ E)/(A+C+E)

進学・就職一覧

学生部次長　　出廣　久司

（令和５年３月卒業生）

業種	企業別	地域別			職種			
		市内	県内	県外		R2年度	R3年度	R4年度
医療福祉	（医）青木歯科医院	○			事務			1
	（医）あすか 高橋内科小児科	○			事務		2	1
	（医）あずさ会 森整形外科	○			事務	1		
	（医）有津むらかみクリニック			○	事務			
	（医）うすい会 高陽ニュータウン病院	○			栄養士	2		
	（医）川岡クリニック	○			事務		2	
	（医）好縁会　下山記念クリニック		○		事務		1	
	（医）島根県勤労者医療協会えんや歯科クリニック			○	事務			1
	（医）地主クリニック	○			事務			1
	（医）たかまさ会 山﨑病院	○			栄養士	1	1	
	（医）ともみ会 大倉医院		○		事務	1		
	（医）ひがしの会		○		介護	1		
	（医）飛翔会 呉整形外科クリニック		○		事務	1		
	（医）輔仁会 太田川病院	○			事務		1	1
	（医）ももの木会 そえだ歯科医院		○		事務	1		
	（医）湧泉会 ひまわり歯科		○		事務		1	
	（宗）本願寺広島別院 真和保育園	○			栄養士		1	
	（福）あさみなみ	○			保育士・生活支援員	1		
	（福）呉同済義会		○		生活支援員		1	
	（福）くるみ会		○		調理員	1		
	（福）寿老園老人ホーム　特		○		調理員	1		

	別養護老人ホームレークサイド土師							
	（福）慈楽福祉会	○			栄養士	1		
	（福）成城会		○		事務		1	
	（福）ふたば福祉会 葵保育園			○	栄養士		1	
	（福）平成会		○		介護		1	
	JA 尾道総合病院		○		事務	1		
	あなぶきメディカルケア（株）	○			介護		1	
	岡田歯科医院	○			事務			2
	かなで歯科クリニック	○			事務		1	
	（株）アイグラン	○			事務		3	
	（株）エスマイル調剤事務正規採用	○			事務			1
	（株）Seiwa	○			事務		1	
	（株）ニチイ学館	○		○	事務・介護職員		2	
	（株）ニチイ学館 広島支店中国労災病院		○		事務	1		
	きたがわ歯科クリニック	○			事務		1	
	こうの歯科・矯正歯科	○			事務		1	
	河野歯科医院	○			事務		1	
	common（株）	○			生活支援員		2	
	谷本医院		○		事務		1	
	鶴見クリニック	○			事務	1		
	特別養護老人ホームくすの木苑	○			調理員	1		
	豊田内科胃腸科		○		事務		1	
	新見歯科医院	○			事務		1	
	東区役所前歯科	○			事務		1	
	広島祇園スマイル歯科小児歯科医院	○			事務	1		
	福島眼科クリニック		○		事務		1	
	ほりえ歯科	○			事務		1	
	ホワイトエッセンス広島駅前歯科	○			事務	1		
	向洋みらい歯科クリニック		○		事務		1	

	山口赤十字病院			○	調理員	1		
	安田歯科医院		○		事務			1
	やすもとクリニック		○		事務			1
	(有)リラックス	○			生活支援員		1	
	ルネッサンス並木美容皮膚科	○			事務			1
運輸業、郵便業	晃栄産業（株）広島	○			事務		1	
	福山通運（株）		○		事務		1	
	マツダロジスティックス株式会社	○			事務			1
卸・小売業	ANCHOR 広島店	○			販売			1
	ciaopanic by PGO OUTLET	○			販売	1		
	HUF HIROSHIMA	○			販売	1		
	JUMP SHOP 広島店	○			販売	1		
	K+MART HIROSHIMA	○			販売			1
	P&G プレステージ(同) SK-Ⅱ			○	販売	1		
	Ｓｔｕｓｓｙ Hirosima Chapter	○			販売	1		
	who's who Chico（フーズフーチコ） 広島パルコ店	○			販売	1		
	あさみやフーズ（株）	○			事務	1		
	ウンナナクール広島本通り店	○			販売	1		
	栄登（株）	○			販売			1
	（株）ABC		○		事務		1	
	（株）アデリー			○	製造	1		
	（株）ヰセキ中四国		○		事務		1	
	（株）オプティコ		○		販売		1	
	カフェベーカリーニューポート	○			接客	1		
	（株）クリエイトグループ			○	販売		1	
	（株）クルマックス	○			事務		1	
	（株）中央コンタクト	○			販売		1	
	（株）デイ・リンク東雲店	○			接客	1		
	（株）ツルハグループ ドラッグ&ファーマシー西日本	○			販売		1	

	（株）にしき堂	○			販売		1	1
	（株）ビッグモーター			○	販売		1	1
	（株）ファーマシィ			○	事務	1		
	（株）ファーマフーズコミュニケーション			○	事務		1	
	（株）マツダオートザム海田		○		事務・販売		1	1
	（株）万惣	○			販売		1	
	（株）メディカルフォレストフォレスト薬局			○	事務	1		
	（株）ライジング企画広島牛田みらい薬局	○			事務			1
	（株）　夢菓房たから			○	接客			1
	（株）レディ薬局		○		接客		1	
	東京靴流通センター	○			接客	1		
	広島トヨタ自動車（株）	○	○		営業・事務	1		
	山口トヨタ自動車（株）			○	接客・販売	1		
	ルノー広島（(株）カーバンクニムラ）	○			営業	1		
	（株）WEST（X-girl）	○			販売		1	
	（株）アップスイング　グランジュール山口店			○	販売	1		
	（株）アルファベットパステル		○		販売	1		
	（株）ENEOS ジェネレーションズ	○			販売			1
	（株）大之木ダイモホームセンタータック本店		○		販売	1		
	（株）キャン			○	販売・事務			1
	（株）京都嵯峨野	○			販売		2	1
	（株）櫟工房	○			販売			1
	（株）小松薬局		○		販売			1
	（株）ジーユーGU イオンモール広島府中店		○		販売			1
	（株）ジーンズ･カジュアルダン蔵之助おのだサンパーク店			○	販売			1
	（株）セブン-.イレブン・ジ	○			販売		2	

	ャパン							
	（株）ディズニーストア	○			販売			1
	（株）ナイスクラップ	○		○	販売			1
	（株）ノーリーズ			○	販売		1	
	（株）バロックジャパンリミテッド		○		販売	1	1	
	（株）福屋	○			販売・接客	2		
	（株）ファーマシー薬局三次		○		販売・接客			1
	（株）フランス屋	○			販売	1		1
	（株）マッシュスタイルラボ	○			販売		1	
	（株）雅　フラワーショップ		○		販売	1		1
	（株）やしま	○			販売			1
	銀座ダイヤモンドシライシ	○			販売			2
	化粧品 SUQQU［スック］	○			販売			1
	ジュエリーテラス snow	○			販売			1
	日産プリンス広島販売（株）	○			販売	1		
	re_dot.（リードット）	○			販売		1	
	（株）フレスタ	○			販売			1
教育	広島県立広島中学校		○		教員（中）		1	
	広島国際学院中学校		○		専門的・技術的職業従事者（教員）			1
公務	安芸高田市役所		○		事務		1	
	周南市役所			○	事務	1		
	吉島保育園（広島市会計年度職員）	○			保育士			1
	矢野西保育園（広島市会計年度職員）				保育士		1	
	廿日市市立友和保育園（廿日市市会計年度職員）		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援）			1
サービス業（2その他）	（株）KDDI エボルバ	○			販売		1	
	ビッグイーグルストレーニングジム		○		サービス職業			1
	イフスコヘルスケア（株）			○	栄養士			1
宿泊業・飲食サービス	エームサービス（株）	○		○	栄養士		1	
	（株）香月商事	○			販売			1

業	（株）千茶荘			○	接客			1
	（株）Laugh	○			栄養士	1	1	2
	（株）Laugh 障害者支援施設セルプ宇品	○			栄養士	1		
	（株）LEOC	○		○	栄養士		2	
	（株）LEOC　呉中通病院		○		栄養士			1
	（株）LEOC 社会医療法人同仁会 周南記念病院			○	栄養士	1		1
	（株）LEOC 谷本クリニック	○			栄養士	1		
	（株）LEOC 野村病院	○			栄養士		2	
	（株）LEOC メリィハウス相田	○			栄養士		1	1
	（株）LEOC メリィハウス五日市	○			栄養士	1		
	（株）LEOC ワカサ・リハビリ病院	○			栄養士	1		
	（株）アスモフードサービス ベストライフ広島	○			栄養士		1	
	（株）エポカフードサービス さんさんまりんこども園		○		栄養士	1		
	（株）エポカフードサービス 特別養護老人ホームサンライズ大地		○		栄養士			1
	（株）グリーンハウス			○	栄養士	1	1	
	（株）グリーンハウス　べにまんさくの里		○		栄養士		1	
	（株）ナリコマエンタープライズ	○		○	栄養士・調理員		1	
	（株）東洋食品			○	栄養士			1
	（株）メフォス西日本		○	○	栄養士		2	
	（株）メフォス西日本　東みよし町学校給食センター		○		栄養士			1
	シダックス（株）　下永病院		○		栄養士	1		
	シダックス（株）　社会福祉法人広島東福祉会 虹の里第2	○			栄養士		1	
	シダックス（株）　広島ひか		○		栄養士		1	

	り園							
	シダックス（株）　府中市学校給食センター		○		栄養士		1	
	島根県浜田市学校給食Ｃ			○	栄養士			1
	西日本フードサービス（株）中国支店 山口県済生会豊浦病院			○	栄養士	1		
	日清医療食品（株）（医）エム･エム会　マッターホルンリハビリテーション病院		○		栄養士			1
	日清医療食品（株）大朝ふるさと病院		○		栄養士		1	
	日清医療食品（株）西条中央病院		○		栄養士			1
	日清医療食品（株）中国支店	○		○	栄養士		1	
	日清医療食品（株）特別養護老人ホーム たちばな苑		○		栄養士		1	
	日清医療食品（株）廿日市野村病院		○		栄養士	1	1	1
	日清医療食品（株）広島県立障害者発達療育支援センター		○		栄養士	1	1	
	日清医療食品（株）広島県立障害者リハビリテーションセンター		○		栄養士	1		
	日清医療食品（株）広島市子ども療育センター	○			栄養士			1
	日清医療食品（株）ふたば病院		○		栄養士		1	1
	日清医療食品（株）マッターホルンリハビリテーション病院		○		栄養士	1	1	
	日清医療食品（株）水永リハビリテーション病院		○		栄養士		1	
	ハーベストネクスト（株）大野学校給食センター		○		栄養士	1		
	富士産業（株）	○		○	栄養士			

	富士産業（株）荒木脳神経外科病院	○			栄養士	1		
	富士産業（株）佐伯中央病院		○		栄養士		1	
	富士産業（株）サカ緑井病院	○			栄養士			1
	富士産業（株）四国西事業部			○	栄養士		1	
	富士産業（株）シムラ病院	○			栄養士			1
	富士産業（株）中国労災病院		○		栄養士	1		
	富士産業（株）ふじの家　川内	○			栄養士			1
	富士産業（株）横浜東邦病院			○	栄養士		1	
	富士産業（株）老健あき事業所	○			栄養士		1	
	フジ産業（株）第一屋製パン大阪空港工場			○	栄養士	1		
	淀川食品（株）県立安芸津病院		○		栄養士	1		
	淀川食品（株）福山医療センター		○		栄養士	1		
宿泊業・飲食サービス業	CAFÉ&GRILL MOTEL　広島駅北口店	○			接客	1		
	THE Perth（お好み焼き）	○			接客	1		
	udon dining café 安菜蔵			○	接客	1		
	浅利観光（株）松江ニューアーバンホテル			○	接客		1	
	鍛冶二丁	○			接客	1		
	（株）AIC マネジメント	○			接客		1	
	（株）B&V（カプセルホテル広島のお宿）	○			接客		1	
	（株）EVENTOS	○			接客	1		
	（株）TANABE グローバルキッチン	○			接客		1	
	（株）グラットン　食辛房		○		調理員		1	
	（株）コメダ（コメダ珈琲店）	○			接客		1	
	（株）叙々苑	○			接客		1	
	（株）叙々苑　福屋八丁堀店	○			栄養士			1
	（株）プリンスホテル	○			接客	1		
	（株）フレスカ			○	接客	1		

	（株）ユキ・コーポレーションアーバインホテルズ	○			接客	1	1	
	玉造温泉 白石家			○	接客	1		
	広越（株）	○			接客		1	
	ヒロボシ（株）	○			接客	1		
	レモネード BY レモニカ（シャレオ）	○			接客	1		
情報通信	（株）ビリーフ			○	営業	1		
	（株）フォルテ	○			販売		1	
	（株）TCM			○	サービス職業従事者（調理員を含む）			1
生活関連サービス業	（有）このみや	○			販売	1		
	アジアン リラクゼーション ヴィラ 段原店	○			接客			1
	（株）アミパラ			○	接客			1
	Grace Spirits	○			接客	1		
	IKK ホールディングス（株）（ララシャンス広島迎賓館）	○			接客		1	
	エフプランニングテラサキ	○			事務		1	
	（株）coco（cocoplus（ココプラス））	○			接客		1	1
	（株）ＲＩＴＡ	○			接客	1	1	
	（株）you-2	○			接客	1		
	（株）アビリティライフ脱毛サロン【More twinkle】	○			接客	1	2	
生活関連サービス業	（株）クリンプロ　カーブスザ・ビッグ店（安古市）	○			サービス職業			1
	（株）スリムビューティハウス	○			接客		1	
	（株）大進創寫館	○		○	写真・接客	1		
	（株）テイクアンドギヴ・ニーズ	○			接客	1		
	（株）ボディワークホールディングス	○			接客		1	
	（株）メディビューティー			○	接客		1	
	（株）ルネティルタ	○			接客	1	1	1
	木下（株）			○	接客	1		

	ジェイエステ広島本通店	○			営業			1
	トニア バイ オーストネイル(TONIA by Aust nail)	○						1
	ラクサス・テクノロジーズ（株）	○			販売	1		
	リゼクリニック	○			接客	1		
	リム	○			接客	1		
	料亭二葉	○			接客	1		
製造業	（株）やまみ		○		生産工程			
	神戸鈑金工業（株）広島クリエイトファクトリー		○		事務	1		
	寺岡有機醸造（株）		○		生産工程			1
	（株）アガ生コン		○		事務従業者			1
専門・技術サービス業	（株）きもの工芸西陣（着物レンタル&フォトスタジオピカソ）		○		事務・接客		1	
	（株）サイネックス	○			事務	1		
	（株）スタジオアイ		○		接客			2
	京都フォトスタジオ			○	写真	1		
社会福祉	社会福祉法人あさみなみ	○			保育士	1		
その他（環境・リサイクル）	（株）タイヨー	○			営業	1		
	（有）広島シティサービス	○			事務	1		
その他（教育・学習支援業）	（株）アイグラン	○			栄養士			1
	こどもサポート教室「東福山クラ・ゼミ」		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援）			1
	（有）リラックス　りらっくす保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援）			1
その他（不動産）	APAMAN（株）			○	事務			1
その他（警備）	綜合警備保障（株）	○			保安職業		2	
その他（派遣）	（株）エイジェック	○		○	事務・接客			3
	（株）アウトソーシング			○	事務			1
	（株）テクノサービス	○			事務・接客		1	

認定こども園	（学）奥山学園 幼保連携型認定こども園 桜ヶ丘幼稚園		○		保育教諭		1	
	（学）多幾山学園 認定こども園焼山こばと		○		保育教諭	1		
	（学）ふじさわ学園 せいふう認定こども園	○			保育教諭	1	1	1
	（学）府中石田学院		○		保育教諭		1	
	（学）法輪学園	○			保育教諭	1		
	（学）緑ヶ丘幼稚園 認定こども園 みどりがおかようちえん		○		保育教諭		1	
	（学）明徳学園 幼保連携型認定こども園明徳幼稚園		○		保育教諭	1		
	（学）鯉城学園		○		保育教諭		1	
	（学）わかば学園		○		保育教諭		1	
	（合）まどころ			○	保育教諭		1	
	（福）石川福祉会 桜が丘認定こども園		○		保育教諭	1		
	（福）永照福祉会ロータスプリスクール西原	○			保育教諭	1		
認定こども園	（学）鯉城学園 幼保連携型認定こども園 フレーベル幼稚園		○		保育教諭・保育士	2		
	（福）永照福祉会ロータスプリスクール横川	○			保育教諭	1		
	（福）恵泉福祉会 愛育認定子ども園		○		保育教諭	1		
	（福）信楽会 認定こども園至心保育所		○		保育教諭		1	
	（福）認定こども園 日脚保育園			○	保育教諭	1		
	（福）八岩華福祉会 仁方こども園		○		保育教諭	1		1
	（福）花の村 保育所型認定こども園 さくらこども園			○	保育士	1		
	（福）広島光明学園	○			保育教諭		2	
	（福）広島修道院 広島修道	○			保育教諭		2	

	院保育園							
	（福）紅楓福祉会		○		保育教諭		3	
	（福）法輪福祉会	○			保育教諭		2	
	（福）来迎寺学園			○	保育教諭	1		
	（福）りじょう福祉会 幼保連携型認定こども園りじょう認定こども園	○			保育教諭		1	
	うさぎ山こども園			○	保育教諭	1		
	スカウトランドひまわり幼稚園		○		保育教諭	1		
	認定こども園 サムエル広島こどもの園	○			保育士	1		
	認定こども園 サムエル美鈴が丘こどもの園	○			保育教諭	1		1
	認定こども園 サムエル薬師が丘こどもの園	○			保育教諭	1		
	認定こども園 月見幼稚園		○		保育教諭	1		
	認定こども園 みそのうこばとの森		○		保育教諭	1		
	学校法人久保学園　至心幼稚園		○		専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(福)本城福祉会　昭和保育園		○		専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	認定こども園　名田保育園		○		専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(学)大内学園　高陽幼稚園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(学)虹山学園　虹山なないろこども園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	社会福祉法人永照福祉会ロータスプリスクール大芝	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1

	社会福祉法人法輪福祉会認定こども園法輪保育園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(福)広島愛育会　認定こども園五日市乳児保育園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	リトルニュートン井口認定こども園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	社会福祉法人うすい会広島光明学園認定こども園広島光明学園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			2
	学校法人安芸学園安芸幼稚園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(福)三原のぞみの会　幼保連携型紅梅認定こども園		○		専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(福) 萩月会　さつきが丘こども園		○		専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			1
	(学)馬越学園西条みづき認定こども園		○		専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			2
	社会福祉法人うすい会広島光明学園牛田新町光明保育園	○			専門的・技術的職業従事者（教員、幼稚園、保育教諭）			2
複合サービス業	JA 佐伯中央		○		事務		1	
	JA 三次		○		事務		1	
保育園	(一社)あおぞら会 ONE 保育所	○			保育士	1		
	(学)曙学園　クレシュ新横浜			○	保育士		1	
	(独) 国立病院機構 浜田医療センター おおぞら保育園			○	保育士	1		
	(福) FIG 福祉会ピッコロゴード保育園		○		保育士	1		

	（福）愛児福祉会 口田なかよし保育園	○			保育士	1		
	（福）愛児福祉会 高陽なかよし保育園	○			保育士	1		
	（福）あい福祉会 あい保育園　祇園	○			保育士・栄養士	2	1	
	（福）葵新生会西条あおい保育園		○		保育士	2		
	（福）有心福祉会 落走保育園		○		保育士	1		
	（福）柏学園		○		保育士		1	
	（福）川内福祉会　保育所みのり愛児園	○			保育士		1	
	（福）川内福祉会　保育所みのり祇園	○			保育士	1	2	
	（福）喜清会 うじな保育園	○			保育士	1		
	（福）桜が丘学園 桜が丘愛育園	○			保育士	1		
	（福）須子保育園			○	保育士		1	1
	（福）住田学園福祉会	○			保育士	1		
	（福）住田学園福祉会　おさんぽ保育園	○			保育士	1		
	（福）住田学園福祉会　さいわい保育園		○		保育士	1		
	（福）宙　つきのひかり国際保育園		○		保育士	1		
	（福）それいゆの会 それいゆやまもと保育園	○			保育士	1		
	（福）大社福祉会 こぐま保育園			○	栄養士	1		
	（福）中央正聖愛育会 こんごうさくら保育園		○		保育士	1		
	（福）中央福祉会 子供の館保育園		○		保育士	1		
	（福）東城有栖会		○		保育士		1	
	（福）原浜福祉会			○	保育士		1	
	（福）広島愛育会	○			保育士		2	

	（福）明顕福祉会 玉法保育園		○		保育士		1	
	（福）明徳福祉会 山本まごころ保育園	○			保育士		2	
	（福）めばえ福祉会 めばえ保育園			○	保育士		1	
	（福）和光保育園			○	栄養士	1		
	（福）和福祉会 のんの保育園	○			調理員	1		
	広島医療（生協） 共立どんぐり保育園	○			調理員	1		
保育園	（福）中央正聖愛育会 金剛保育園		○		保育士・栄養士	3		1
	（福）ナーガ保育園	○			保育士・栄養士	1	2	
	（福）ひまわり福祉会 ひまわり第１保育園			○	保育士	1		
	（福）微妙福祉会 みみょうグループ	○			保育士		4	
	（福）微妙福祉会 第二みみょう保育園	○			保育士	1		
	（福）二葉会　千田保育園	○			保育士			1
	（福）法輪福祉会 こころはるか保育園	○			保育士	2		
	（福）法輪福祉会 ほうりんフレンズ保育園	○			保育士	1		1
	（福）まちや会 ぎおんナーモ保育園	○			保育士	1		2
	（福）まちや会 みいりナーモ保育園	○			保育士	1		
	（福）みかわ 美川保育園			○	保育士	1		
	（福）みどり会 みどりの森保育園	○			保育士		1	1
	（福）みどり会 みどりの森ようこう保育園		○		保育士	1		
	（福）みのり会 可部保育所	○			保育士	1		
	（福）明徳福祉会 まごころ保育園	○			保育士	1		

	（福）明徳福祉会山本まごころ保育園	○			保育士			1
	（福）文殊会 ルンビニ第二保育園			○	保育士	1		
	（福）龍渓福祉会 あさひが丘ルンビニ保育園	○			保育士	1		
	（有）スマイル 保育所花キュー園	○			保育士	2		
	（有）リラックスかがやき保育園	○			保育士		1	
	あい保育園　古江	○			保育士	1		1
	いつかいち　ちびっこの森保育園	○			保育士		1	
	いづみ保育園			○	保育士	1		
	（株）HOPPA			○	保育士	3		
	（株）TIC ふるいち ちびっこの森保育園	○			保育士		2	
	（株）アイグラン	○			保育士・栄養士・事務	1	1	3
	（株）アイグラン　大田市立病院たんぽぽ保育所			○	保育士	1		
	（株）アイグラン　あい保育園	○			保育士		1	
	（株）オウエン SunSun 保育園	○			保育士		1	
	（株）桜の杜	○			保育士	1		
	（株）桜の杜（こはる保育園）	○			保育士	1		
	（株）敷信村農吉　（敷信みのり保育所・庄原市立庄原保育所）		○		保育士	1		
	（株）テノコーポレーション ほっぺるランド			○	保育士	1		
	（株）ポピンズホールディングス			○	保育士	1		
	共立ひよこ保育園	○			保育士		1	
	久賀保育園			○	保育士	1		
	コネクタ（株）さつき保育園		○		保育士		1	

	（社）あおぞら会 小規模保育事業所 保育所和ちゃん	○			保育士		1	
	庄原市総合サービス（株）		○		保育士		1	
	廿日市いちご保育園　佐方		○		保育士	1		
	プティット矢野保育園	○			保育士	1		
	放光保育園			○	保育士	1		
	(有)スマイル 保育所花キュー園	○			保育士		1	
	レガロ・バンビーニ保育園	○			保育士	2	2	
	株株式買会社桜の杜ひより保育園・児童クラブ陽（ひなた）	○			専門的・技術的職業従事者（保育士・生活支援員）			1
	(株)マミーインターナショナルマミー保育園西大島			○	専門的・技術的職業従事者（保育士・生活支援員）			1
	さくらグループ(株) おおぞら保育園(国立病院機構浜田医療センター)			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	社会福祉法人旭光福祉会ちどり保育所			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	(福)わかくさ福祉会　緑ヶ丘保育所			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	ライクキッズ（株）にじいろ保育園			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	ミアヘルサ（株）ミアヘルサ保育園ひびき　金町			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	HITOWA キッズライフ株式会社太陽の子保育園			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	アンジェリカ株式会社勝どきえほん保育園			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	(福)横路福祉会横路保育所		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生			1

					活支援員）			
	（福）本城福祉会　坪内保育園		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	社会福祉法人みその児童福祉会光の園摂理の家		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			2
	コネクタ（株）さつき第２保育園		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（福）佐東福祉会　可部ひかり保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	広島医療生活協同組合　共立どんんぐり保育園		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（有）HUG　梅林よつば保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（株）TIC いつかいちちびっこの森保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	株式会社桜の杜　ひより保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（有）ＴＥＮわくわく保育園井口明神	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	社会福祉法人喜清会うじな保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（株）アイグラン　府中市民病院　院内保育おひさま		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	庄原総合サービスＣ（庄原市立三日市保育所）		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（福）羽仁保育園			○	専門的・技術的職業			1

					従事者（保育士、生活支援員）			
	（福）一二三会　三重保育園			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	アスク池上保育園 総合職保育士（株日本保育サービス）			○	専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	株株式会社桜の杜ひよりスカイ保育園	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	株株式会社桜の杜ひより保育園・児童クラブさくらの杜五日市	○			専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	社会福祉法人微妙福祉会くまのみらい保育園		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	（福）にこプラス公私連携型保育所串戸保育園		○		専門的・技術的職業従事者（保育士、生活支援員）			1
	株株式会社桜の杜ひより保育園			○	栄養士			1
幼稚園	（学）安芸みのる学園 安芸みのる幼稚園	○			幼稚園教諭		2	
	（学）海空学園 阿賀中央幼稚園		○		幼稚園教諭		1	
	（学）樟学園 東広島くすのき幼稚園		○		幼稚園教諭	1		
	（学）呉山手教会学園 山手幼稚園		○		幼稚園教諭	1		
	（学）至徳学園　公認　井口ルンビニー幼稚園	○			幼稚園教諭		2	
	（学）杉原学園 松永幼稚園		○		幼稚園教諭		1	
	（学）菜の花学園 川内菜の花幼稚園	○			幼稚園教諭		1	
農業	新沖農園		○		生産工程従事			1

進学	広島高等歯科衛生士専門学校	○				1		
	日本大学経済学部			○		1		
	比治山大学健康栄養学部	○				1	1	2
	中國学園大学現代生活学部			○		2		
	広島文化学園大学　学芸学部	○				1		
	広島文化学園大学人間健康学部		○				1	
	韓国ソウル市立大学			○			1	
	韓国漢陽大学			○			1	
	キャットミュージックカレッジ専門学校			○			1	
	くらしき作陽短期大学音楽学科			○			1	
	穴吹デザイン専門学校	○						1
	辻調理師専門学校			○				1
	プロット・ショウ・ランゲージ・カレッジ　バンクーバー校			○				1

令和４年度SD・FD研修会実績

事務部長　冨永　泰三

1　学園内研修

	期　　日	研修名	研修内容	対象者
1	4月1日	理事長・学長講話		全職員
		合同教職員研修	①大学認証評価報告、②主要な全学的目標、③経営財務の状況、④中期経営計画Ⅳ	全職員
		事務職員研修	①組織改革、管理職・監督職、職員の意識改革、人事制度改革、②業務の統一（標準化）	全事務職員
		新任職員研修	①中期経営計画Ⅳ、②各種事務手続 ③大学案内　等	新規採用職員
2	5月20日、6月29日、7月28日、8月30日、9月29日、10月25日、11月15日、11月29日、12月22日、1月12日、2月22日	庶務担当研修会	①修学支援のスケジュール、各種様式 ②赴任旅費 ③人事委員会資料作成ファイル ④労働条件通知書 ⑤退職者、新任者の手続、非常勤講師の委嘱　等	総務担当職員
3	6月15日、7月13日、8月17日、9月22日、10月12日、11月9日、12月21日、1月23日、2月21日	会計担当研修会	①月次処理、日次処理 ②修学支援のスケジュール ③令和5年予算策定 ④授業料の作業確認　　等	会計担当職員
4	8月1日 ～9月16日	研究倫理研修	e-ラーニングによる研究倫理研修	全職員
	8月25日	私学事業団経営相談・講演	①学園収支の改善、②学生募集及び広報 ③人事制度	①②全職員 ③人事･給与PT
		FD・SD研修会	①SDGｓ ②学園システムリプレース　等	全職員
	8月26日	FD・SD研修会	①業務管理、進捗管理、課長の役割　等 ②カリキュラム管理、講義室等の管理　等 ③令和5年度予算編成 ④仕事の進め方	事務職員
	9月13日	IR相互研修会	①広島文化学園大学・短期大学の取組 ②大手前大学・短期大学の取組 ③IR普及促進、相互のIR機能強化に向けた指導・助言	
5	4月22日、5月27日、6月28日、7月29日、9月2日、9月30日、10月28日、12月2日、1月13日、3月10日	教務課長会議（研修会）	①教職課程の自己点検・評価 ②認証評価受審後の改善のための対応事項 ③修学支援のスケジュール ④学生募集要項の全研究科での統一 ⑤非常勤講師10年問題　　等	教務課長
6	4月1日、4月26日、5月25日、6月22日、7月20日、8月31日、9月22日、10月27日、11月29日、12月26日、1月26日、2月22日	学生係長会議（研修会）	①大学機関別認証評価からみる学生課の諸課題等 ②各種様式の統一 ③次年度「事業計画」「予算書」 ④原級留置 ⑤修学支援 ⑥同窓会	学生係長
7	11月8日 ～11月10日	令和5年度事業計画・予算作成説明会	①令和5年度事業計画及び予算の策定 ②予算編成システムの導入	全職員（キャンパス別）
10	12月23日	学外研修報告会	①理事長講話	全事務職員
			②大学機関別認証評価を受審して	
			③就職部課長担当者研修会より	
			④教育ﾈｯﾄﾜｰｸ中国第1回研修会より	
			⑤文書管理、⑥経常費補助金の仕組み	
11	3月3日	FD・SD研修会	全学FD・SDパソコン必携化に向けての取組に関する研修会	全職員

2　職場内研修

	期　　日	研修名	対象者
1	4月～3月(適宜)	各部署で生起した事象を中心に実施し、職務の遂行に必要な知識、技能及び応用能力の向上に努めた。	所属職員

3　外部研修（令和４年度参加研修会）

	期　　日	研　修　名	方法	実施機関等
1	4月26日	学校法人制度改革に関する説明会	WEB	文部科学省
2	5月11日	改正公益通報者保護法に関する説明会	WEB	文部科学省
3	5月13日	全国私立大学就職指導研究会2022年度定時総会	会場	全国私立大学就職指導研究会
4	5月13日	第36回企業と大学との就職セミナー	会場	全国私立大学就職指導研究会
5	6月24日	私立大学図書館協会2022年度西地区部会研究会	WEB	私立大学図書館協会
6	7月14日～15日	企業と大学との就職セミナー中国・四国地区（岡山）大会	会場	全国私立大学就職指導研究会
7	8月10日	2022インターンシップ推進フォーラム	WEB	一般社団法人産学協働人材育成ｺﾝｿｰｼｱﾑ
8	8月24日	令和4 年度日本私立大学協会中国・四国支部分科会	WEB	日本私立大学協会中国・四国支部
9	8月26日	日本私立短期大学協会就職担当者研修会	WEB	日本私立短期大学協会
10	9月8日	教職課程認定基準等の改正に関する事務担当者説明会	WEB	文部科学省
11	9月13日	ＩＲ相互研修会(広島文化学園大学・短期大学、大手前大学・短期大学)	WEB	大手前大学・短期大学
12	9月21日	私立短期大学学生生活指導担当者研修会	WEB	日本私立短期大学協会
13	9月22日	大学設置基準等の改正に関する説明会	WEB	日本私立大学協会
14	10月21日	令和４年度広島地区学生就職問題に関する担当者会	WEB	担当大学（広島女学院大学）
15	11月8日	広島県インターンシップ促進協議会 第2回ワーキンググループ会議	WEB	広島県インターンシップ促進協議会
16	11月9日	教育ネットワーク中国（高大連携・単位互換）実務担当者会議オンライン	WEB	教育ネットワーク中国
17	11月10日	栄養教育実習研究連絡協議会	会場	広島地区栄養教育実習研究連絡協議会
18	11月17日	令和４年度（通算第４６回）就職部課長相当者研修会	WEB	日本私立大学協会
19	11月29日	広島県大学図書館協議会令和4年度第1回研修会	WEB	広島県大学図書館協議会
20	12月2日	第52回中・四国私立大学就職担当者連絡会	会場	中・四国私立大学就職担当者連絡会
21	12月16日	キャリア教育・就職支援ワークショップ	WEB	日本学生支援機構
22	12月19日	広島県大学図書館協議会令和4年度第2回研修会	WEB	広島県大学図書館協議会
23	1月26日	令和４年度第２回私学共済事務担当者研修会	会場	日本私立学校振興・共済事業団
24	1月26日	学校関係者向けセミナー	会場	山口おしごとセンター
25	2月22日	広島地区大学教育実習研究連絡協議会	会場	広島地区大学教育実習研究連絡協議会
26	3月8日	「学校法人のガバナンス改革に関するQ&A」の解説	WEB	私学経営研究会

執筆者一覧	
学長	坂越 正樹
副学長	松元　健治
法人事務局長	安藤　充昭
法人事務局次長	山口　芳弘
法人事務局広報企画課長	岡田　真次
システム開発管理センター長	岡　　隆光
ＩＲ推進センター長	松元　健治
事務部長	冨永　泰三
学生部長・入試本部長	廣兼　孝信
図書館長	萱島　隆之
コミュニティ生活学科長	海切　弘子
食物栄養学科長	村田 美穂子
保育学科長	柞磨　昭孝
学生部次長（社会連携）	江坂 美佐子
学生部次長（学生生活）	西川　勝利
学生部次長（教務）	岡田 正浩
学生部次長（就職）	石尾 はつみ
学生部次長	出廣 久司
ＡＬＯ	矢野下 美智子

学校法人広島文化学園
広島文化学園短期大学
〒731-0136　広島市安佐南区長束西三丁目５-１
電　話　（082）２３９―５１７１㈹
呉 阿賀サテライトキャンパス
〒737-0004　呉市阿賀南二丁目10-３
電　話　（0823）７４―５５１１